

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

2017 年度 報告書

Japanese Language Class Annual Report

2017.4-2018.3

***Japanese Language Class
School of Engineering
The University of Tokyo***

はじめに

文部科学省は国際競争力の向上、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進めることなどを目的として、2014 年度から「スーパーグローバル大学創成支援」事業を開始した。東京大学は、「東京大学グローバルキャンパスモデルの構築」が採択され、2024 年度までに非英語圏における研究型総合大学のモデルとなるようなグローバルキャンパスの実現を目指している。このグローバルキャンパスモデル構築の課題の一つとして、海外の大学との戦略的パートナーシップを活用した教育研究の国際展開が挙げられている。また、「東京大学ビジョン 2020」においては、学生の国際感覚を鍛える教育の充実と海外からの留学生を積極的に受け入れて、学生の多様性を拡大することが明記されている。

このような大学のビジョンに照らし合わせて日本語教室は、どのような貢献ができるのだろうか。工学系研究科日本語教室では、これまで留学生を積極的に受け入れてきた。2015 年度から日本語科目に単位を付与し、質の高い日本語教育を提供するとともに、工学系研究科の学生だけでなく、全学交換留学生や他研究科の学生も幅広く受け入れている。2016 年度からは冬季特別日本語特別集中講座を開講し、2017 年度から工学系内の専攻日本語教室との連携によって、専攻の日本語科目の受講が可能になった。そのため、受講者は 2011 年度の実数 304 名、延べ数 713 名と比較し、2017 年度は実数 693 名、延べ数 1138 名で、約 2 倍に増加した。今後も学習者のニーズを踏まえ、教育の質保証を担保した日本語教育プログラムを提供し、優秀な留学生を本学に惹きつけ、獲得をしていきたい。

一方、戦略的パートナーシップ大学を中心とした海外協定校との協働による教育研究の国際展開、学生の国際感覚の養成は、今後整備していく必要がある。日本語教室では、2016 年度、2017 年度にインド工科大学カンプール校、2017 年度に新たにスウェーデン王立工科大学で体験活動を実施し、国際化教育プログラムを拡大してきた。参加した日本人学生は、海外協定校の学生にボランティアとして日本語を教え、また協定校の学生からは、インドやスウェーデン文化、英語などを学ぶことができる。日本人学生と協定校の学生は、互いのリソースを存分に利用しながら国際感覚が鍛えられる。そして、両校の日本語教室を基軸とした連携強化も期待できる。今後、積極的に海外協定校との協働による教育研究の国際展開、学生の国際感覚の養成に取り組んでいきたい。

本書は 2017 年度の工学系研究科日本語教室の授業・諸活動を振り返り、今後の課題を明確にすることにより、さらに充実した日本語教育の実施を目指すことを目的に作成した。また、平素より工学系研究科日本語教室へのご理解、ご支援を頂いている皆様にここに深謝の意を表す。

2018 年 3 月

工学系研究科国際工学教育推進機構 国際事業推進センター 日本語教育部門
古市 由美子

目 次

第1章 日本語教室の概要	1
1.1 運営と目的	1
1.2 受講対象者	2
1.3 教職員	2
1.4 年間スケジュール	2
1.5 学内日本語教室における位置づけと連携	4
第2章 日本語教育の実践と運営	6
2.1 概要	6
2.2 コースデザインの特徴	6
2.3 コースの履修プロセス	8
2.4 日本語教育コース実践報告	9
2.5 受講者と修了者	89
2.6 日本語教室のコース評価	96
2.7 言語背景調査	100
第3章 日本文化事情・文化体験	105
3.1 S1S2 日本文化体験	105
3.2 A1A2 日本文化体験	107
第4章 国際交流支援	109
4.1 学生授業ボランティア	109
4.2 多言語交流会：International Cafe for You(ICYou)	112
第5章 海外協定校とのネットワーク構築と連携	115
5.1 体験活動	115
5.2 世界展開事業の日本語教育・文化支援	118
5.3 海外協定校訪問	118
5.4 日本語教室への来訪	119
第6章 日本語教育研究	120
第7章 今後の課題	121

巻末資料	
2017S1S2/A1A2 概要・時間割	124
2017S1S2/A1A2 受講者数・修了者数	130
Can Do Statements	138
アンケート（言語背景調査 コース評価）	139
日本語教室文化体験 ポスター	141
International Cafe for You ポスター	147
授業ボランティア ポスター	149

第1章 日本語教室の概要

1.1 運営と目的

工学系研究科日本語教室は1981年に設置され、2011年度からは工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センター下に配置された。2017年3月現在、国際事業推進センター長、渡邊聡教授の下で日本語と日本文化の教育実践を行っている。日本語科目は、2015年度に工学部・工学系研究科の教育問題検討会で審議、承認されて以来、単位付与の科目として実施されている。

日本語教室は、留学生・研究員が研究に集中できる環境づくりの一環として、円滑な研究生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目標としている。

また、近年、日本語教育の分野は、国際化教育の観点から留学生と日本人学生の両方を対象とした多文化理解教育、すなわち、国際感覚を鍛え、世界の多様な人々と共に生きるための力を育成する教育へと領域を拡大しつつある。当日本語教室でも、留学生が様々な背景を持つ他者と国籍、専攻を超えて関係を構築し、多文化理解を深めることを目標としており、日本語を学ぶ場が留学生の居場所になるだけでなく、留学生が持つ文化を日本人学生などに発信する場になることを目指している。

以下の5つは、本日本語教室が目指す具体的な目標である。

- 1 留学生・研究員などに対する研究・生活支援としての日本語教育
- 2 留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
- 3 留学生・日本人の交流および多言語・多文化支援
- 4 国際化推進の一環として、日本人学生の国際化教育
- 5 工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発

1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and multi-cultural group of people.
4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a part of internationalization.
5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

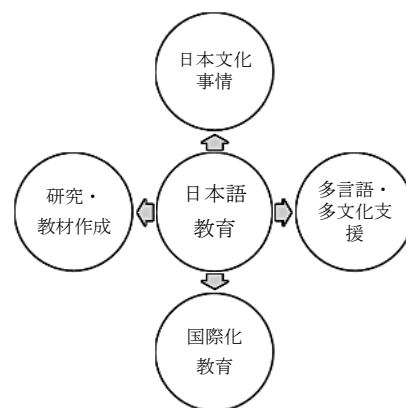


図1 日本語教室の目的

1.2 受講対象者

当日本語教室の対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。2014年度から全学交換留学生（USTEP）の受け入れを開始、また、他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も受け入れている。

1.3 教職員

日本語教室の教職員は、今年度より特任准教授の岩田夏穂が加わり、現在准教授1名、特任准教授1名、特任助教2名、非常勤講師9名である（各職位の氏名は下記の通り）。

准教授：古市由美子

特任准教授：岩田夏穂

特任助教：栗田奈美、堀切友紀子

非常勤講師：片岡さゆり・米谷章子・臼井直也・内田あゆみ・鈴木恵理・中村亜美・ハワード文江・宮瀬真理・山口真紀

職員：早坂美和子・辻野伊都子

1.4 年間スケジュール

2017年度の日本語教室のスケジュールは、以下の通りである。

[2017年]

- 4月 新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
 新入職員（2名）実地研修の受け入れ
 S1S2 学期授業開始（4月5日-7月25日）
 授業ボランティア受け入れ
 日本文化探訪（根津神社 つつじ祭り）
- 5月 華道ワークショップ（一葉式）
 インド工科大学日本語・日本文化体験1日講義
- 6月 茶道体験
 相撲部屋との交流（尾車部屋）
 浴衣ワークショップ
 インド工科大学日本語・日本文化体験1日講義
 IJEP シンポジウム参加
 インド工科大学カンプール校 専任教員 Vatsala Misra 氏 来訪
 スウェーデン王立大学（KTH）専任教員 高宇洋子・Drobin 氏 来訪
 マサチューセッツ工科大学（MIT）専任教員 相川孝子氏 来訪
 グランゼコール・ポリテクニーク 専任教員 鬼頭夕佳氏 来訪
 S2 入門コース開始（6月6日-7月25日）

- 7 月 新入生歓迎会（留学生チーム主催）
工学系サマープログラム：日本語・日本文化体験授業実施
トルコ世界展開力強化事業：日本語・日本文化体験授業実施
S1S2 授業終了
カリフォルニア工科大学 専任教員 平井律子氏 来訪
日本語講師コース会議
- 9 月 2017 年度 A1A2 学期時間割・概要を HP に掲載、登録開始
スウェーデン王立工科大学（KTH）での国際交流体験活動・日本語授業サポートと企業訪問」体験活動実施
A1A2 学期授業開始（9 月 25 日・1 月 23 日）
- 10 月 新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
体験活動授業ボランティア受け入れ
- 11 月 日本文化探訪（湯島天神 菊祭り）
華道家元によるデモンストレーション（一葉式）
A2 入門コース開始（11 月 21 日・1 月 23 日）
マサチューセッツ工科大学（MIT）専任教員 相川孝子氏 来訪
- 12 月 着物体験
日本文化体験（茶道）
冬休み（12 月 28 日・1 月 4 日）

[2018 年]

- 1 月 日本文化体験（お汁粉）
A1A2 授業終了
- 2 月 日本語講師コース会議
「新興国インドでの体験活動・インド赤門会との交流・IIT-Kanpur 日本語授業サポート」体験活動実施
- 3 月 第 17 回工学系日本語教室連絡会開催
第 18 回東京大学日本語教育連絡協議会（日本語教育センター主催）
AATJ(The American Association of Teachers of Japanese)参加
2018 年度 S1S2 時間割・概要を HP に掲載、登録開始 (STAR システム開始)

1.5 学内日本語教室における位置づけと連携

1.5.1 東京大学内の日本語プログラム

東京大学には3つのキャンパスに150コースを超える多様な日本語教育プログラムが開講されている（図2参照）。

本郷キャンパスには日本語教育センター、工学系研究科、人文社会学系研究科、薬学系研究科で日本語教育プログラムが開講されている。日本語教育センターは、全学の日本語教育を担当するために国際本部に設置されている。

工学系研究科内には当教室の他に、設立順に社会基盤学(1982年)、都市工学(1987年)、システム創成系(1989年)、IME大学院特別コース(2001年)の4つの専攻日本語教室がある。社会基盤学日本語教室は、2011年度から「社会基盤学の日本語初級」としてS1S2・A1A2に開講され、初級1・2を受講することによって2単位が付与されている。2015年度から当日本語教室、都市工学日本語教室、システム創成系日本語教室の日本語科目1コマ(105分に)に2単位が付与されている。当日本語教室は、工学系研究科及び情報理工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生・研究生・研究員・配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は、専攻の留学生が主な対象である。

駒場キャンパスには、PEAK (Programs in English at Komaba)、AIKOM(Abroad in Komaba)/USTEP(University-wide Student Exchange Program)、前期課程日本語、補講、駒場リサーチキャンパス日本語教室がある。

柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室、カブリ数物連携宇宙研究機構(KAVLIIPMU)国際交流室日本語教室が日本語プログラムを提供している。

【本郷キャンパス】	【駒場キャンパス】
1 日本語教育センター	1 PEAK (Programs in English at Komaba)
2 工学系研究科日本語教室	2 AIKOM(Abroad in Komaba)/USTEP
2-1 社会基盤学日本語教室	3 前期課程日本語コース
2-2 都市工学日本語教室	4 日本語補講
2-3 システム創成系日本語教室	5 駒場リサーチキャンパス日本語教室
2-4 IME	
3 人文社会学系研究科日本語教室	
4 薬学系研究科日本語教室	
	【柏キャンパス】
	1 新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室
	2 カブリ数物連携宇宙研究機構国際交流室日本語教室

図2 本郷キャンパス内日本語教室

1.5.2 日本語教育センターとの連携

日本語教育センターでは、東京大学内日本語教室の教育内容・活動内容について情報交換を行うことで連携を深め、教育内容の向上を図ることを趣旨として、毎年 3 月に東京大学日本語教育連絡協議会及び講演会を実施している。1999 年 7 月に第 1 回が開催され、今年度で第 18 回目を迎えた。第 1 部の日本語教育連絡協議会では、日本語教室間の情報交換を主目的とし、第 2 部では田中和美氏（元国際基督教大学教授）が「到達目標としての Can-do 記述と授業計画」について講演を行った。

1.5.3 工学系研究科日本語教室の連携

当日本語教室と専攻日本語教室は年次報告会を実施し、各教室がそれぞれのカリキュラムの特徴、活動内容、ならびに課題を報告し、情報共有を図っている。今年度は 2018 年 2 月 20 日に 17 回工学系日本語教室年次報告会が開催された。毎年度末に定期的に報告会を設けることによって、各教室間の交流と連携強化を目指している。

日本語教室	日本語担当	日本語教員
工学系研究科日本語教室	渡邊聡教授	古市由美子・岩田夏穂・堀切友紀子・栗田奈美
社会基盤学日本語教室	古関潤一教授	鴻野豊子・大井絵里・東平福美・溝井益美 太田悠紀子
都市工学日本語教室	原田昇教授	菅谷有子・宮部真由美・田口みゆき・藤原景子
システム創成系日本語教室	古田一雄教授	大橋栄・鈴木文
IME	渡邊聡教授	福田紀子

第2章 日本語教育の実践と運営

2.1 概要

日本語科目は、留学生を対象（「多文化理解プロジェクト」のみ日本人学生も履修可）、を対象としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。

レベルは、初級から上級まで6レベルに分かれており、総合、会話、聴解、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト、日本組織事情）がある。

開講日程は、工学系研究科と同様で、4月からS1S2（14週間）、9月からA1A2（14週間）としている。各学期の時間割、概要、シラバスは、当日本語教室のホームページに掲載している（<http://www.jlscse.t.u-tokyo.ac.jp/>）。この他に、サマープログラム、冬季日本語特別集中講座を実施している。

授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。

日本語教室のオフィスは、工学部8号館1階128B号室である。当日本語教室は、8号館第一講義室（123号室）に加え、88S、88M、88Lを教室として使用している。また、324室（B,C）を借用している。さらに、第一会議室（132号室）、第二会議室（130号室）も、日本語教室として使用しているが、学期を通して使用できないという制限がある。

表1 工学系日本語教室 レベル別コース

スキル レベル	総合			聴解	会話	読解	文章	その他
	レギュラー	インテンシブ						
初級 1	初級 1 (3)	インテンシブ 初級 I	* 入門 (3)					
	初級 2 (2)	(5)						
初級 2	初級 3 (2)	インテンシブ 初級 II						
	初級 4 (2)	(4)						
中級 1	総合 (2)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	
中級 2	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	専門語彙・ 漢字 (1)
中級 3	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	多文化理解 プロジェクト (1)
上級	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	日本組織事情 (1)

() 内はコマ数 * 入門はS2/A2に開講

2.2 コースデザインの特徴

本日本語教室では、多様な初級コースを提供している。また、工学系及び、情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語教育を実施している。さらに、専門分野の講義・実験と並行して、日本語科目が選択できるように工夫をしている。以下に、日本語科目のコースデザインの特長をまとめた。

(1) バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は、主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。日本語未習学者を対象するコースは次の通りである。

- ・レギュラーコース : 週 2 回 全 2 コマ (初級 1 は全 3 コマ)
- ・インテンシブコース : 週 3 回 全 5 コマの集中コース
- ・入門コース : S2/A2 から開始する週 2 回全 3 コマ

レギュラーコースは、初級 1, 2, 3, 4 に分かれており、修士・博士の学生が専門科目と両立を目指しながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級 I はレギュラーコースの初級 1, 2、インテンシブ初級 II は、レギュラーコースの初級 3, 4 の内容を S1S2/A1A2 で修了する。入門コースは S2 および A2 に開講され、基礎日本語を口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを設け、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるよう工夫している。

(2) スキル別の中級・上級日本語コース

中級および上級コースは、総合、聴解、会話、読解、文章のコースを 1 コマずつ設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別にすることにより、多忙な留学生が実験や専門授業の合間に伸ばしたいスキルのコースを選択的に受講することができるようになっている。

(3) 工学系に特化した専門日本語教育

当日本語教室は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級 1 専門読解」コースでは、科学技術に関連した文章を教材とし、語彙、文型、表現の習得を目指している。さらに、「中級 2 専門語彙・漢字」では、コーパス研究チームで調査・研究した結果をもとに、専門語彙、漢字教育を行っている。「中級 3 専門聴読解」では、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事をもとに作成した東大の最先端の研究に関する文章を読み、工学系分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、当日本語教室で工学系に特化したオリジナル教材を積極的に作成し、日本語教育を実施している。

(4) 多文化理解教育

中級 3 以上を対象とする「多文化理解プロジェクト」では、多様な背景を持つ留学生がそ

それぞれの文化などを発信する「多文化理解ワークショップ」を日本の小学校・中学校で実施することで、地域社会への多文化理解に貢献している。この多文化理解プロジェクトは、学部・大学院の共通科目として開講され、留学生だけでなく日本人学生も履修できる。

(5) 就職支援

日本組織事情は、日本で就職を希望する留学生を対象とし、ビジネスマナーや就職活動のための知識や実践力を養うものである。優秀な外国人人材が日本の産業界などで活躍できる道が広がると期待できる。日本企業のグローバルな活動の活性化や経済の活性化など社会的な波及効果が見込まれる。

2.3 コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1参照）。開講1か月前に日本語教室のHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR

(Student Tools for Access and Review)システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教室で運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレースメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから選び、登録する。

このように、オンライン上で登録が可能のため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

各コースの第1週目はオリエンテーション・ウィークである。教師はオリエンテーション・ガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明をする。その一方で、履修登録をした留学生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認し、レベル変更を希望する留学生に対応する。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として、お寺・神社の花祭り見学、茶道体験、着付け体験などの文化的なイベントの企画と実践、ビジターセッションや International Cafe for You (ICYou)など、日本人と留学生の交流支援を行う。

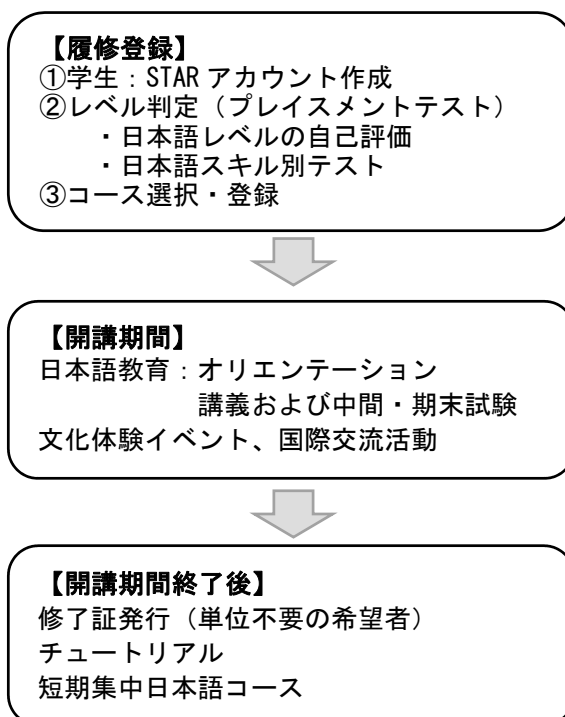


図1 コース履修のプロセス

開講期間終了後、単位を必要とせず、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証を発行する。

2.4 日本語教育コース実践報告

本節では、今年度を実施した各コースの実践とシラバス、続いてチュートリアルについて報告する。

入門

2017年度 S1S2

- レベル : 入門
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 06/ 06 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 13:00 - 14:45 火曜日
14:55 - 16:40 火曜日
13:00 - 14:45 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 123教室
- 学習目標 : 初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
カタカナ、ひらがなの認識ができる。
- 対象 : はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。
- テキスト : 『Basic Japanese for Students はかせ1』 (スリーエーネットワーク)
まるごと プラス Learning Japanese <http://www.marugotoweb.jp/>
- 評価 : 教室活動10%、課題10%、カタカナ15%、ひらがな15%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%
・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位3認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部FEN-JL4m01L1, 大学院3799-901-1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 中村亜美 NAKAMURA Ami
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	6/ 6	火	オリエンテーション, L1
2	6/ 6	火	カタカナ (ア～サ行)
3	6/ 8	木	L2, カタカナ (タ～ハ行)
4	6/ 13	火	L2, L3
5	6/ 13	火	カタカナ (マ～ワ行)
6	6/ 15	木	L4, カタカナ (特殊音)
7	6/ 20	火	L4, L5
8	6/ 20	火	カタカナ復習
9	6/ 22	木	L6, カタカナクイズ, 課題1 締切
10	6/ 27	火	中間試験
11	6/ 27	火	L6, L7, ひらがな (あ～さ行)
12	6/ 29	木	L8, L9, ひらがな (た～は行)
13	7/ 4	火	L11, 課題2 締切
14	7/ 4	火	ひらがな (ま～わ行)
15	7/ 6	木	L12, ひらがな (特殊音)
16	7/ 11	火	L13, ひらがなクイズ, 課題3 締切

17	7/ 11	火	学期末口頭発表準備
18	7/ 13	木	L14, 学期末口頭発表準備, 課題4 締切
19	7/ 18	火	休講
20	7/ 18	火	休講
21	7/ 20	木	学期末試験
22	7/ 25	火	学期末口頭発表
23	7/ 25	火	学期末口頭発表

入門

報告者： 内田 あゆみ
中村 亜美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

日本語ゼロ初級の学生を対象とし、『はかせ1』（スリーエーネットワーク）を中心に授業を行った。このクラスは新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュール及び日本語レベルや進度の関係で初級1コースの履修が難しい学習者が参加することを想定し、6月6日に開講し、週3コマ、7週間の授業を行った。授業は主に①ディクテーションによる復習②新出語彙の導入③文型の導入と練習④ペアーワークなどによる会話練習、インフォメーションギャップなどの応用練習の流れで行った。

1-2. 授業の内容

スケジュールの都合上、『はかせ1』のL1～9及びL11～14を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、挨拶、数字、時刻、動詞、形容詞などを学び、その定着をはかった。文字に関しては、テキストはローマ字が併記されているもので、中間試験までは板書や試験問題もローマ字表記で行ったが、ひらがなとカタカナの読み書きも奨励した。授業では毎回15文字ずつ導入し、徐々に板書などにも取り入れた。カタカナから学び始め、カタカナとひらがなのそれぞれのクイズを行い、成績の評価にも入れた。

2. その他（特記事項）

学期を通して4回、教室外で行う課題を出した。短期滞在の学生が文字に親しみを持てるよう、メニューなどからカタカナのことばをさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用した「日記」などを課題とした。最終課題の「わたしの国」の作文はひらがなで書くことを課題にしたところ、熱心に取り組む様子が見られた。学期末口頭発表では自分の国や食べ物などについて発表をし、学生間の質疑応答も活発に行われた。

3. まとめ・今後の課題

他コースと異なり、中間・期末試験までの期間が短く、やや過密なスケジュールだが、学生たちは熱心に授業に参加し、試験などでも高得点を取る学生が多かった。しかし、今学期は滞在期間が短く、学期の途中で帰国しなければならない研修生が多く、最大13名いた学生が最終的には5名となった。学期によって、受講する学生の身分が異なり、次の学期も日本に残る継続生の多い学期とそうではない学期があるため、その都度、学生のニーズを把握し、それに応じた授業作りが課題となる。

インテンシブ初級 I AM

2017年度 S1S2

レベル	: インテンシブ初級 I AM
スキル	: 総合
開講期間	: 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 10:25 - 12:10 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日 10:25 - 12:10 水曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 123号室
学習目標	: 初級の約93文型を習得し、総合的な日本語能力を養成する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地 I メインテキスト』 (スリーエーネットワーク) 『大地 I 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジN4-5 (かんじ) 』 (アスク)
評価	: 中間試験20%、期末試験20%、中間プロジェクト10%、期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、文法クイズ5%、宿題10%、ひらがなカタカナ漢字クイズ10%、 1.以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 2.コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 3.中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位10認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部FEN-JL4m10L1, 大学院3799-902-1. 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, ハワード 文江 HOWARD Fumie, 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション,はじめましょう
2	4/ 5	水	L1,語彙クイズL1
3	4/ 7	金	読解・聴解,ひらがな1
4	4/ 10	月	語彙クイズL2, L2
5	4/ 10	月	L2
6	4/ 12	水	休講
7	4/ 12	水	休講
8	4/ 14	金	ひらがなクイズ1,読解・聴解,ひらがな2
9	4/ 17	月	語彙クイズL3, L3
10	4/ 17	月	L3
11	4/ 19	水	語彙クイズL4, L4
12	4/ 19	水	L4
13	4/ 21	金	読解・聴解,ひらがなクイズ2, カタカナ1
14	4/ 24	月	語彙クイズL5, L5

15	4/ 24	月	L5
16	4/ 26	水	L6語彙クイズ, L6
17	4/ 26	水	つつじ祭り
18	4/ 28	金	読解・聴解,カタカナクイズ1, カタカナ2
19	5/ 1	月	L6
20	5/ 1	月	L6, まとめ1
21	5/ 3	水	祝日
22	5/ 3	水	祝日
23	5/ 5	金	祝日
24	5/ 8	月	L7語彙クイズ, L7
25	5/ 8	月	L7
26	5/ 10	水	L8語彙クイズ, L8
27	5/ 10	水	L8
28	5/ 12	金	読解・聴解,カタカナクイズ2,漢字 (1-15)
29	5/ 15	月	L9語彙クイズ, L9
30	5/ 15	月	L9
31	5/ 17	水	L10語彙クイズ, L10, プロジェクトワーク1
32	5/ 17	水	L10
33	5/ 19	金	読解・聴解, 漢字クイズ1(1-15), 漢字(16-30)
34	5/ 22	月	L11語彙クイズ, L11, プロジェクトワーク2
35	5/ 22	月	L11
36	5/ 24	水	L12,L12語彙クイズ
37	5/ 24	水	L12
38	5/ 26	金	漢字クイズ2(16-30), まとめ2,復習 (L1-L12)
39	5/ 29	月	休講 (中休み)
40	5/ 29	月	休講 (中休み)
41	5/ 31	水	中間試験(L1-L12)
42	5/ 31	水	読解・聴解, 漢字(31-40)
43	6/ 2	金	休講 (中休み)
44	6/ 5	月	L13語彙クイズ,L13
45	6/ 5	月	L13
46	6/ 7	水	中間試験FB,L14
47	6/ 7	水	L14
48	6/ 9	金	読解・聴解, 漢字クイズ3(31-40), 漢字(41-50)
49	6/ 12	月	辞書形クイズ, L15語彙クイズ, L15
50	6/ 12	月	L15
51	6/ 14	水	て形クイズ, L16語彙クイズ, L16
52	6/ 14	水	L16
53	6/ 16	金	読解・聴解,漢字クイズ4(41-50), 漢字(51-60)
54	6/ 19	月	L17語彙クイズ, L17
55	6/ 19	月	L17
56	6/ 21	水	ない形クイズ, L18語彙クイズ, L18
57	6/ 21	水	L18
58	6/ 23	金	読解・聴解,漢字クイズ5(51-60), 漢字(61-70)
59	6/ 26	月	まとめ3,た形クイズ, L19語彙クイズ, L19
60	6/ 26	月	L19

61	6/ 28	水	普通形クイズ, L20語彙クイズ, L20
62	6/ 28	水	L20
63	6/ 30	金	読解・聴解,漢字クイズ6(61-70), 漢字(71-80)
64	7/ 3	月	L21語彙クイズ, L21
65	7/ 3	月	L21, 学期末口頭発表導入
66	7/ 5	水	L22語彙クイズ, L22
67	7/ 5	水	L22
68	7/ 7	金	読解・聴解,漢字クイズ7(71-80), 漢字(81-90)
69	7/ 10	月	学期末口頭発表準備
70	7/ 10	月	読解・聴解,漢字クイズ8(81-90), 漢字(91-100), 学期末口頭発表準備
71	7/ 12	水	まとめ4,復習 (L13-L22)
72	7/ 12	水	復習 (L13-L22)
73	7/ 14	金	読解・聴解,漢字クイズ9(91-100), 漢字(101-110)
74	7/ 17	月	祝日
75	7/ 17	月	祝日
76	7/ 19	水	学期末試験
77	7/ 19	水	学期末口頭発表準備
78	7/ 21	金	漢字クイズ10(101-110), 学期末口頭発表準備
79	7/ 24	月	学期末試験FB
80	7/ 24	月	学期末口頭発表

インテンシブ初級 I AM

報告者：古市 由美子、ハワード 文江、米谷 章子、

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

インテンシブ初級 I は、日常生活での基本的なコミュニケーション能力を養うことを目標に、教科書『大地 1』（スリーエーネットワーク）を使用し、1 課から 22 課まで自作教材で補いながら授業を行った。1 課を 2 コマ（1 コマ 105 分）で扱い、月曜日と水曜日は、93 文型の習得とそれを応用した会話練習を中心とし、金曜日の 1 コマは、読み書きを中心に進めた。ひらがな・カタカナは自主教材、漢字は教科書『にほんごチャレンジ N 4・5 [かんじ]』（アスク出版）を使用し、1 課から 11 課まで修了した。学習した漢字は 110 字（JLPT N5 レベル）である。

1-2. 授業の内容

文型・会話習得を目的とした授業内容は、各課の語彙導入と語彙クイズを実施後に、文型導入および基本練習を行い、文型の理解を確認した。基本練習後に教科書の総合練習に取り組み、補助教材を用いた運用練習を行うことによって文型の定着を図った。さらに、教科書の会話の内容理解を確認し、ロールプレイ練習を行った。

金曜日には、ひらがな・カタカナ・漢字を導入し、クイズを行い、文字と読み書きに特化した授業を行った。また、月曜日・水曜日で学んだことを生かした会話活動を行った。学期後半は、作文、スピーチ作成等文字コミュニケーションにも取り組んだ。

2. その他（特記事項）

学期の半ばに日本人学生、留学生、既習の文型を用いたインタビューを行い、その結果をクラスで発表した。また、期末のプレゼンテーションは、書くこと、読むこと、話すことの総合力を向上させる機会となった。

本コースにおいて、初期の段階で文字および語彙習得に困難を感じる学生が数名いた。無欠席の学習者ではあったが、授業中に文字・語彙を理解するのに時間がかかり、そのため学習進度・理解度・運用度に大きな差が出た。この学生以外にも語彙力が不足している学生が多かったため、受講者がエクセルに『大地 1 語彙リスト』を作成し、各課の語彙整理をした。また、語彙学習のためのアプリなどを紹介し、使用した。

3. まとめ・今後の課題

日本語教室では、未習学習者のための独自のオンライン文字教材を作成している。コース前にオンライン教材を周知し、受講者に文字学習を促し、コース開始後の学習効果を高めたい。同時に、対面による個人サポート（例チュートリアル）を充実させたい。

初級1

2017年度 S1S2

レベル	: 初級1
スキル	: 総合
開講期間	: 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 08:30 - 10:15 木曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 初級の47文型を習得し、総合的な日本語能力を養成する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地Ⅰ メインテキスト』 (スリーエーネットワーク) 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク) TBA: 『にほんごチャレンジN4-5 (かんじ) 』 (アスク)
評価	: 語彙クイズ10%, かなクイズ5%, 漢字クイズ10%, 教室活動5%, 宿題10%, 中間試験20%, 中間プロジェクト10%, 期末試験20%, 期末発表10% ●以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ●中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位6認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) 学部: FEN-JL4m20L1, 大学院:3799-904-1. 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 栗田 奈美 KURITA Nami, 片岡 さゆり Sayuri KATAOKA, 臼井 直也 USUI Naoya, ハワード 文江 HOWARD Fumie, 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	Orientation, L0(Let's Start), Classroom Japanese
2	4/ 7	金	L1(1,2,3), Intro to online learning site
3	4/ 10	月	L1(4,5), Hiragana(1) a, ka, ga-line
4	4/ 13	木	L1Review, VocabQuizL1, Hiragana(2) sa, za, ta, da-line
5	4/ 14	金	L2(1,2,3,4), VocabQuizL2, Hiragana(3) na, ha, ba, pa-line
6	4/ 17	月	L2(5,6,7), HiraganaQuiz1, Hiragana(4) ma, ya, ra, wa-line
7	4/ 20	木	L3(1,2), VocabQuizL3, Hiragana(5) SpecialHiragana
8	4/ 21	金	L3(3,4), HiraganaReview
9	4/ 24	月	L4(1,2), VocabQuizL4, HiraganaReview
10	4/ 27	木	L4(3,4), HiraganaQuiz2
11	4/ 28	金	L2&L3&L4(Application exercise), Katakana(1) a, ka, ga-line
12	5/ 1	月	L5(1,2,3), VocabQuizL5, Katakana(2) sa, za, ta, da-line
13	5/ 4	木	祝日(みどりの日)
14	5/ 5	金	祝日(こどもの日)
15	5/ 8	月	L5(4,5), Katakana(3) na, ha, ba, pa-line

16	5/ 11	木	L6(1,2,3), VocabQuizL6, Katakana(4) ma, ya, ra, wa-line
17	5/ 12	金	L6(4,5), KatakanaQuiz1, Katakana(5) SpecialKatakana
18	5/ 15	月	L5&L6(Application exercise), KatakanaReview
19	5/ 18	木	Matome1(L1-L6), KatakanaQuiz2
20	5/ 19	金	Review(L1-L6), KanjiL1#1-5
21	5/ 22	月	中間試験 Mid-term Exam(L1-L6), KanjiL1#6-10
22	5/ 25	木	L7(1,2), VocabQuizL7, KanjiQuizL1(#1-10)
23	5/ 26	金	L7(3,4), KanjiL2#11-15, Project Work 1
24	5/ 29	月	中休み
25	6/ 1	木	中休み
26	6/ 2	金	中休み
27	6/ 5	月	Mid-term Exam FB, KanjiL2#16-20, Project Work 2
28	6/ 8	木	L8(1,2), VocabQuizL8, KanjiQuizL2(#11-20)
29	6/ 9	金	L8(3,4,5), KanjiL3#21-25
30	6/ 12	月	L7&L8(Application exercise), KanjiL3#26-30
31	6/ 15	木	L9(1,2), VocabQuizL9, KanjiQuizL3(#21-30)
32	6/ 16	金	L9(3,4), KanjiL4#31-35
33	6/ 19	月	L10(1,2), VocabQuizL10, KanjiL4#36-40
34	6/ 22	木	L10(3,4), KanjiQuizL4(#31-40)
35	6/ 23	金	L9&L10(Application exercise), KanjiL5#41-45
36	6/ 26	月	L11(1,2,3), VocabQuizL11, KanjiL5#46-50
37	6/ 29	木	L11(4,5), KanjiQuizL5(#41-50)
38	6/ 30	金	L12(1,2), VocabQuizL12, KanjiReview
39	7/ 3	月	L12(3), Introduction to Final Presentation(FP), KanjiMatomeQuizL1-5(#1-50)
40	7/ 6	木	L11&L12(Application exercise), Matome2(L7-L12)
41	7/ 7	金	Preparation for FP-1, Review
42	7/ 10	月	Preparation for FP-2, Review
43	7/ 13	木	Preparation for FP-3, Review
44	7/ 14	金	Preparation for FP-4, Review
45	7/ 17	月	祝日(海の日)
46	7/ 20	木	期末口頭発表, Final Presentation
47	7/ 21	金	期末試験, Final Exam(L7-12)
48	7/ 24	月	FB

初級 1

報告者：A クラス 栗田 奈美、臼井 直也、米谷 章子
B クラス 片岡 さゆり、ハワード文江、栗田 奈美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースは週 3 回（1 コマ 105 分）のコースで、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の前半（L1～L12）を扱い、新しく導入される文法項目の定着ならびに「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能をバランスよく伸ばすことを目指し、授業を行った。文字についてはひらがな、カタカナの導入後、漢字教材として『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）を使用し、L5 までの 50 字を導入した。

1-2. 授業の内容

各課の初めに語彙クイズを実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本練習を行った。さらに、2 課終えるごとに読解、作文を含む応用練習を実施し、定着を図った。並行して、文字の導入、練習、確認クイズを実施した。

学期半ばには、中間プロジェクトとして日本人ならびに留学生に対するインタビューを課し、タスクシートにまとめたものをクラスで発表した。さらに、学期末には総復習として PPT を使用した期末口頭発表を 2 クラス合同で実施した。

2. その他（特記事項）

今学期は初級レベルの学生の増加を受け、A, B の 2 クラス編成で授業を行った。なお、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>

コースが進むにつれて習熟度の差は出てきたものの、和やかに学習を楽しむ様子が窺えた。専門の授業の関係等で、決まった曜日に欠席する学生が見られたため、今後、対策を検討したい。

<B クラス>

クラスの活動に積極的に取り組み、協力し合う態度が顕著であった。ひらがなへの移行時、および専門授業の比重増加に伴い、コース半ばで出席人数が減少した点は残念であるが、今後とも、文法事項等を授業時間内に効果的に習得できるよう留意していきたい。

<共通>

中間プロジェクトならびに期末口頭発表は教材の整備も進み、授業時間もしっかり確保できたことで、内容の濃いアクティビティとなり、学生も達成感を得られたようである。ひらがな、カタカナの導入・クイズについては、内容、スケジュールともに見直したい。

初級2

2017年度 S1S2

レベル	: 初級2
スキル	: 総合
開講期間	: 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 初級の前半の46文型を習得し、総合的な日本語能力を養成する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級1の修了者、日本語を40時間程度勉強した人 ひらがな、カタカナの読み書きができる人、JLPT N5 相当
テキスト	: 『大地 I メインテキスト』 (スリーエーネットワーク) 『大地 I 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジN4-5 (かんじ) 』 (アスク)
評価	: 中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、文法クイズ10%、漢字クイズ10%、課題10%、教室活動5%

以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。

1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験

コース修了者には以下の基準で成績を付与する。

A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%

中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

- その他 :
- 単位(4)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
UT-mate コード : 学部FEN-JL4m30L1, 大学院3799-905-1.
 - 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 - コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 - 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 - 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 - 授業内容と教室は変わる可能性がある。

担当 : 栗田 奈美 KURITA Nami, 中村亜美 NAKAMURA Ami, 臼井 直也 USUI Naoya , 鈴木 恵理 SUZUKI Eri

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、復習
2	4/ 10	月	L13(1-2)
3	4/ 13	木	L13(3-4)、Listening&Dialogue、Reading&Writing、語彙クイズ(L13)
4	4/ 17	月	L14(1-2)、漢字#51-55、語彙クイズ(L14)
5	4/ 20	木	L14(3-4)、文法クイズ (辞書形) 、漢字#56-60
6	4/ 24	月	L14(5)、L&D、R&W、課題1、漢字クイズ(#51-60)
7	4/ 27	木	つつじ祭り、課題2
8	5/ 1	月	L15(1-3)、漢字JLPT(L4-6)、語彙クイズ(L15)
9	5/ 4	木	祝日
10	5/ 8	月	L15(4-5)、文法クイズ (て形) 、漢字#61-65
11	5/ 11	木	L16(1-2)、漢字#66-70、語彙クイズ(L16)
12	5/ 15	月	L16(3-4)、課題3、漢字クイズ(#61-70)

13	5/ 18	木	L17(1-3)、漢字#71-75、語彙クイズ(L17)
14	5/ 22	月	L17(4)、L&D、R&L、文法クイズ（ない形）、漢字#76-80
15	5/ 25	木	漢字クイズ(#71-80)、中間試験
16	5/ 29	月	中休み
17	6/ 1	木	中休み
18	6/ 5	月	L18(1-2)、中間試験FB、語彙クイズ(L18)
19	6/ 8	木	L18(3-4)、L&D、R&W、文法クイズ（た形）、課題4、漢字#81-85
20	6/ 12	月	まとめ3、L19(1-2)、漢字#86-90、語彙クイズ(L19)
21	6/ 15	木	L19(3)、L&D、R&W、文法クイズ（普通形）、漢字クイズ(#81-90)
22	6/ 19	月	L20(1,2-1,2-2,2-3)、漢字JLPT(L7-9)、語彙クイズ(L20)
23	6/ 22	木	L20(2-4,2-5)、L&D、R&W、課題5、漢字#91-95
24	6/ 26	月	L21(1,2)、漢字#96-100、語彙クイズ(L21)
25	6/ 29	木	L21(3)、L&D、R&W、漢字クイズ(#91-100)
26	7/ 3	月	L22(1-2)、漢字#101-105、学期末口頭発表導入、語彙クイズ(L22)
27	7/ 6	木	L22(3-4)、L&D、R&W、学期末口頭発表練習1、漢字#106-110
28	7/ 10	月	まとめ4、学期末口頭発表練習2、漢字クイズ(#101-110)
29	7/ 13	木	復習、学期末口頭発表練習3、漢字JLPT(L10-11)
30	7/ 17	月	祝日
31	7/ 20	木	学期末試験
32	7/ 24	月	学期末試験FB、学期末口頭発表、漢字テスト(#61-110)

初級 2

報告者：A クラス 栗田 奈美、中村 亜美
B クラス 鈴木 恵理、臼井 直也

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースは週 2 回（1 コマ 105 分）のコースで、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）を使用し、L6 から L11 までの 60 漢字を導入した。

1-2. 授業の内容

各課の初めに語彙クイズを実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。また、動詞の活用等については、文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、読解、作文については課題を出し、学習を促した。並行して、漢字の導入、練習、確認クイズを実施した。

学期末には、当該コースで学んだ文型を盛り込み、それぞれのテーマで準備したスクリプトを基に、PPT を使用した期末口頭発表を実施した。

2. その他（特記事項）

今学期は初級レベルの学生の増加を受け、A, B の 2 クラス編成で授業を行った。なお、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>

真面目な学生が多く、授業態度も良好で与えられた課題もしっかりこなしていた。また、自身の研究や学会参加とも両立させようとする姿勢が見られ、受講生のおよそ 7 割が修了できた点は評価できる。一方で、全般的にやや積極性に欠ける傾向が見られた。比較的マイペースでおとなしい学生の多いクラスでの活動をいかに活気づけ、発話に結びつけていくかが今後の課題である。

<B クラス>

日本語が使えるようになりたい意志は感じられるものの、専門分野の授業や課題の負担が多く、日本語学習に思うように時間を割けない様子の学生が多かった。そのため授業出席者数は徐々に減っていったり、授業には参加していても既習のはずの語彙が定着していなくてその日の活動に時間がかかったりすることがあった。初級段階では語彙の習得は必須なので、今後はそこにも力を入れる必要があると感じた。最終的に残った学生同士は絆が深まり、明るい雰囲気での学習に取り組んでいたのは良かったと思う。

インテンシブ初級Ⅱ AM

2017年度 S1S2

- レベル : インテンシブ初級Ⅱ AM
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 08:30 - 10:15 火曜日
10:25 - 12:10 火曜日
08:30 - 10:15 木曜日
10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 123号室
- 学習目標 : 初級後半の約72の文型と900の語彙を習得し、総合的な日本語能力養成する。日本語能力試験N4相当の漢字を約200字習得する。研究生活での基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : 初級4、インテンシブ初級Ⅰの修了者、日本語100時間程度既習者、JLPT N5相当
- テキスト : 『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験対策 にほんごチャレンジ N4-5 [かんじ]』（アスク出版）
- 評価 : 教室活動10%、中間試験20%、学期末試験20%、漢字テスト15%、語彙クイズ15%、学期末口頭発表10% 課題10%。
以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率 70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(8)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
UT-mate コード: 学部FEN-JL4n01L1, 大学院3799-906-2。
2. 修了証は成績がC以上の noncredit の学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 栗田 奈美 KURITA Nami, 宮瀬 真理 MIYASE Mari
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション レベルチェック 復習 L23(1)
2	4/ 6	木	オリエンテーション 復習 L23(1) 漢字 L1 #111-120
3	4/ 11	火	L23(2,3) 語彙クイズL23
4	4/ 11	火	L23(2,3) 漢字L2 #121-130 漢字クイズL1
5	4/ 13	木	L24 語彙クイズL24
6	4/ 13	木	L24 漢字L3 #131-140 漢字クイズL2
7	4/ 18	火	L25 語彙クイズL25 提出: 課題①作文「日本でできるようになったこと」
8	4/ 18	火	L25 漢字L4 #141-150 漢字クイズL3
9	4/ 20	木	L26 語彙クイズL26
10	4/ 20	木	L26 漢字L5 #151-160 漢字クイズL4
11	4/ 25	火	L27 語彙クイズL27
12	4/ 25	火	L27 漢字L6 #161-170 漢字クイズL5
13	4/ 27	木	まとめ5 漢字L7 #171-180 漢字クイズL6
14	4/ 27	木	つつじ祭り@根津神社
15	5/ 2	火	L28 語彙クイズL28 提出: 課題②根津神社タスク

16	5/ 2	火	L28 漢字L8 #181-190 漢字クイズL7
17	5/ 4	木	
18	5/ 4	木	
19	5/ 9	火	L29 語彙クイズL29 提出：課題③基本問題集 L23-27
20	5/ 9	火	L29 漢字復習L1～L8 漢字クイズL8
21	5/ 11	木	L30 語彙クイズL30 提出：課題④作文「日本に留学した理由」
22	5/ 11	木	L30 漢字L9 #191-200
23	5/ 16	火	L31 語彙クイズL31
24	5/ 16	火	L31 漢字L10 #201-210 漢字クイズL9
25	5/ 18	木	L32 語彙クイズL32
26	5/ 18	木	L32 漢字L11 #211-220 漢字クイズL10
27	5/ 23	火	まとめ6 提出：課題⑥基本問題集L28-L32
28	5/ 23	火	まとめ6
29	5/ 25	木	中間試験(L23-L32)
30	5/ 25	木	多読
31	5/ 30	火	休講
32	5/ 30	火	休講
33	6/ 1	木	中休み
34	6/ 1	木	中休み
35	6/ 6	火	L33 語彙クイズL33 提出：課題⑤読解タスク
36	6/ 6	火	L33 漢字L12 #221-230 漢字クイズL11
37	6/ 8	木	L34 語彙クイズL34
38	6/ 8	木	L34 漢字L13 #231-240 漢字クイズL12
39	6/ 13	火	L35 語彙クイズL35
40	6/ 13	火	L35 漢字L14 #241-250 漢字クイズ L13
41	6/ 15	木	L36 語彙クイズL36
42	6/ 15	木	L36 漢字復習 L9～L14 漢字クイズL14
43	6/ 20	火	L37 語彙クイズL37 まとめ7 提出：課題⑦作文「国にある有名なもの」
44	6/ 20	火	L37 まとめ7 漢字L15 #251-260
45	6/ 22	木	L38 語彙クイズL38
46	6/ 22	木	L38 漢字L16 #261-270 漢字クイズL15
47	6/ 27	火	L39 語彙クイズL39 提出：課題⑧基本問題集 L33-L37
48	6/ 27	火	L39 漢字L17 #271-280 漢字クイズL16
49	6/ 29	木	L40 語彙クイズL40
50	6/ 29	木	L40 漢字L18 #281-290 漢字クイズL17
51	7/ 4	火	L41 語彙クイズL41 提出：課題⑨ 作文「こどものときに受けた教育」
52	7/ 4	火	L41 漢字L19 #291-300 漢字クイズL18 学期末口頭発表導入
53	7/ 6	木	L41
54	7/ 6	木	L41 漢字L20 #301-310 漢字クイズL19
55	7/ 11	火	L42 語彙クイズL42 学期末口頭発表準備 提出：発表原稿
56	7/ 11	火	L42 漢字復習L15～L20 漢字クイズL20 学期末口頭発表準備
57	7/ 13	木	L42 まとめ8 学期末口頭発表準備 提出：課題⑩基本問題集 L38-42
58	7/ 13	木	L42 まとめ8 学期末口頭発表準備
59	7/ 18	火	休講
60	7/ 18	火	休講
61	7/ 20	木	学期末試験

62	7/ 20	木	学期末口頭発表準備
63	7/ 25	火	学期末口頭発表 提出：プレゼン原稿の清書
64	7/ 25	火	学期末試験フィードバック

インテンシブ初級ⅡAM

報告者： 宮瀬 真理
栗田 奈美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースは週2回、各2コマ（1コマ105分）のコースで、『大地2』（スリーエーネットワーク）を主教材とし、初級後半の文型と語彙を導入した。漢字教材には『にほんごチャレンジN4-5かんじ』（アスク）を使用し、日本語能力試験N4レベルの漢字の習得を目指した。

1-2. 授業の内容

各課の初めに語彙クイズを実施し、2コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。授業内では学生間、また日本人ボランティアとの協働学習に十分時間を割き、読解・作文は課題として定着を図った。また、並行して漢字の導入、練習、確認クイズを実施した。

学期末には各自が選んだテーマについて、当該コースで学んだ文型を盛り込んだスクリプトを準備し、PPTを用いた口頭発表を実施した。

2. その他（特記事項）

授業内活動として、根津神社訪問や茶道体験（休み時間を利用）を行った。また、期末口頭発表前の授業では、複数の日本人ボランティアを依頼し、小グループでリハーサルをする活動を取り入れた。また、アクティビティとして多読の時間を取り、学習者用にレベル別に書かれている読み物を、辞書を使わず訳さず読んでいく読み方を体験させ、日本語で読書を楽しむきっかけを作った。

3. まとめ・今後の課題

全般的に日本語学習を楽しもうという姿勢の学生が多く、和やかな雰囲気の中で、クラスワークにも積極的に参加していた。一方で、研究等が忙しく、休みがちになる学生も見られた。このコースは1日（2コマ）で1課を学ぶため、1度欠席するとその課の学習内容が分からずに終わってしまうことがあったが、文法のまとめの課題等を出し、クラス内でフィードバックすることで、多少は補えたかと思う。

また、課によっては文型の導入と基本練習だけでかなりの時間を取り、実践的な応用練習まで至らないことがあった。効率的な導入、練習を心がけると同時に、場合によっては項目を取捨選択し、優先順位の高いものを定着させるよう努めたい。

学期末口頭発表は、テーマを自由としたため、個性的な発表を楽しめた反面、完成度に差があった。次学期以降、ある程度の枠組みを与えることも検討したい。

初級3

2017年度 S1S2

レベル	: 初級3
スキル	: 総合
開講期間	: 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 21
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 初級後半の36文型と語彙を習得し、総合的な日本語能力養成する。日本語能力試験N4相当の漢字を約100字習得する。研究生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級2,インテンシブ初級Ⅰの修了者、日本語を100時間程度勉強した人、又はJLPT N5相当。
テキスト	: 『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） 『日本語能力試験対策 にほんごチャレンジ N4-5【かんじ】』（アスク出版）
評価	: 中間試験20%、期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ15%、文法クイズ5%、課題10%、教室活動5%。

以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。

- 1) 出席率70%以上
- 2) 期末試験もしくは課題を受験

コース修了者には以下の基準で成績を付与する。

A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%

中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

- その他 :
1. 単位 (4) 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
UT-mate コード: 学部FEN-JL4n10L1, 大学院3799-908-1.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

担当 : 臼井 直也 USUI Naoya, 片岡 さゆり Sayuri KATAOKA
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	レベルチェックテスト, オリエンテーション, L1 かんじ#111-115
2	4/ 7	金	Adj&Te-Form&PlainFormふくしゅう, L23-1,2, L23ごいクイズ, L1かんじ#116-120
3	4/ 12	水	休講
4	4/ 14	金	L23-3,L&D, R&W, L1かんじクイズ (#111-120) , L2かんじ#121-125
5	4/ 19	水	L24-1,2, L24ごいクイズ, L2かんじ#126-130
6	4/ 21	金	L24-3,4,L&D, R&W, L24Potential Form クイズ かだい1, L2かんじクイズ#121-130
7	4/ 26	水	L25-1,2 L25ごいクイズ, L3かんじ#131-135
8	4/ 28	金	つつじ祭り,かだい2
9	5/ 3	水	祝日
10	5/ 5	金	祝日
11	5/ 10	水	L25-3,4 L&D, R&W, L3かんじ136-140
12	5/ 12	金	L26-1,2, L26ごいクイズ, L3かんじクイズ#131-140, L4かんじ#141-146

13	5/ 17	水	L26-3, L&D, R&W, かだい3, L4かんじ#146-150
14	5/ 19	金	L27-1.2, L27ごいクイズ, L4かんじクイズ#141-150, L5かんじ#151-155
15	5/ 24	水	L27-3, L&D, R&W, L5かんじ#156-160
16	5/ 26	金	まとめ5, Review, L5かんじクイズ#151-160
17	5/ 31	水	Mid-term Exam (L23-L27)
18	6/ 2	金	休講
19	6/ 7	水	Mid-term Exam FB, L28-1.2 L28ごいクイズ, L6かんじ#161-165
20	6/ 9	金	L28-3,4,L&D,R&W, L6かんじ#166-170
21	6/ 14	水	L29-1.2 L29ごいクイズ, L6かんじクイズ#161-170
22	6/ 16	金	L29-3.4, L&D, R&W, かだい4, L7かんじ#171-175
23	6/ 21	水	L30-1,2, L30ごいクイズ, L7かんじ#176-180
24	6/ 23	金	L30-3, L&D, R&W, L30Volitional Form クイズ, L7かんじクイズ#171-180, L8かんじ #181-185
25	6/ 28	水	L31-1,2,3, L31ごいクイズ, L8かんじ#186-190
26	6/ 30	金	L31-4.5, L&D, R&W, かだい5, L8かんじクイズ#181-190, L9かんじ#191-195
27	7/ 5	水	L32-1,2, Final Presentation Intro, L32ごいクイズ, L9かんじ#196-200
28	7/ 7	金	L32-3, L&D, R&W, FPれんしゅう, L9かんじクイズ#191-200, L10かんじ#201-205
29	7/ 12	水	まとめ6, ふくしゅう, FPれんしゅう, L10かんじ#206-210
30	7/ 14	金	ふくしゅう, FPれんしゅう, L10かんじクイズ#201-210
31	7/ 19	水	Final Exam (L28-32)
32	7/ 21	金	テストFB, FP

初級 3

報告者：片岡さゆり、臼井直也

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『大地 2』をメインテキストとし、前半の L23 から L28 を 1 課 2 回かけて行った。なお、授業回数は週に 2 回（105 分×2）である。副教材として『日本語能力試験対策 にほんごチャレンジ N4-5』を用い、100 の漢字を扱った。

1-2. 授業の内容

授業では各課のはじめに語彙クイズを行い、その後文型の導入、基礎練習、応用練習と進み、最後に漢字の導入、漢字の読み練習を行った。2 回の授業で各課が終了したのちは文法クイズや課題を行うことで文型や表現の定着を図った。

また、学期末には学習した文型を用い、指定のテーマで口頭発表を行った。

2. その他（特記事項）

試験はテキストに準拠した形で行い、聴解、読解、文型・文法、作文の内容を問うものとした。

3. まとめ・今後の課題

受講者は総じて学習意欲が高く、またクラスメートとも授業内外で積極的に交流する者が多かった。授業内では相互に教えあう場面が多々見られ、教師への質問も多かったこともあり、非常にいい学習環境であったと感じた。中間、期末試験の結果を見る限り、こうした環境が学習項目の定着にもつながったようである。

今後の課題として、受講者のアンケートには、「友達の会話をもっと練習したかった」、「自由度の高い応用練習が少なかった」、「漢字の筆順などの基本的なルールの説明がなかった」、「復習型の語彙クイズも行ってほしかった」という意見が見られた。一つ目と二つ目の回答に関しては、本コースの受講者は各文型の理解も早く、基本練習でつまづく者は少なかった。このような受講者にとってはより創造的な応用練習の割合を増やすべきであった。コースごとに受講者の日本語理解度は異なるので、今後は受講者にあわせて柔軟な授業が行えるように努めたい。漢字のルールについてだが、初級 3 のクラスは初級 1、初級 2 からの継続学習を前提としていたので、基本的な漢字のルールは既習の扱いとしてしまっていた。初級後半レベルは学習状況や学習歴にばらつきが生まれやすいところであるため、次回以降は改善をしたい。語彙クイズについては担当教員で情報を共有し、事前実施で統一する場合は受講者にその目的等を説明した上で行うことが必要となるだろう。

初級4

2017年度 S1S2

- レベル : 初級4
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 21
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M
- 学習目標 : 初級後半の36文型と語彙を習得し、総合的な日本語能力養成する。日本語能力試験N4相当の漢字を約100字習得する。研究生活での基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : 初級3の修了者、日本語を100時間程度勉強した人、又はJLPT N5相当。
- テキスト : 『大地II メインテキスト』（スリーエーネットワーク）『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）『日本語能力試験対策 にほんごチャレンジ N4-5 [かんじ]』（アスク出版）
- 評価 : 語彙クイズ10%, 漢字クイズ10%, 文法クイズ10%, 宿題10%, 教室活動10%, 中間試験20%, 期末試験20%, 期末口頭発表10%
・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1.単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UT-mate コード：学部FEN-JL4n20L1, 大学院3799-909-1.
2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 米谷 章子 KOMETANI Akiko, 栗田 奈美 KURITA Nami
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	レベルチェックテスト, オリエンテーション, L33単語
2	4/ 7	金	L23-32復習, L 33.1(1-1, 1-2, 1-3), 漢字#211-215
3	4/ 12	水	L33.1(1-4-1-9), L33語彙クイズ, 漢字#216-220, L33条件形クイズ
4	4/ 14	金	L33.2, Listening&Dialogue, Reading&Writing, 漢字クイズ#211-220, 漢字#221-225
5	4/ 19	水	L34.1&2 L34語彙クイズ, 漢字#226-230
6	4/ 21	金	L34.3&4, L&D, R&W, 漢字クイズ#221-230, 漢字#231-235
7	4/ 26	水	L35.1&2, L35語彙クイズ, 漢字#236-240
8	4/ 28	金	L35.3&4, L&D, R&W, 漢字クイズ#231-240, 漢字#241-245
9	5/ 3	水	祝日（憲法記念日）
10	5/ 5	金	祝日（こどもの日）
11	5/ 10	水	L36.1&2, L36語彙クイズ, 漢字#246-250
12	5/ 12	金	L36.3&4, L&D, R&W, 漢字クイズ#241-250, 漢字#251-255, L36受身形Quiz
13	5/ 17	水	L37.1&2 L37語彙クイズ, 漢字#256-260
14	5/ 19	金	L37.3, L&D, R&W, 漢字クイズ#251-260, 漢字#261-265
15	5/ 24	水	まとめ7, 復習, 漢字#266-270

16	5/ 26	金	中間試験(L33-37)
17	5/ 31	水	中間試験FB, L38.1&2, L38語彙クイズ
18	6/ 2	金	中休み
19	6/ 7	水	L38.3&4, L&D, R&W, 漢字クイズ#261-270, L38命令形禁止形クイズ
20	6/ 9	金	L39.1&2, L39語彙クイズ, 漢字#271-275
21	6/ 14	水	L39.3, L&D, R&W, 漢字#276-280
22	6/ 16	金	L40.1&2, L40語彙クイズ
23	6/ 21	水	L40.3&4, L&D, R&W, 漢字クイズ#271-280, 漢字#281-285, L40使役形クイズ
24	6/ 23	金	L41.1&2&3, 期末発表Intro, L41語彙クイズ, 漢字#286-290
25	6/ 28	水	L41.4&5&6, L&D, R&W, 漢字クイズ#281-290, L41尊敬動詞Quiz
26	6/ 30	金	L42.1&2, L42語彙クイズ, 漢字#291-295, 期末発表SignUpTitle
27	7/ 5	水	L42.3, L&D, R&W, 漢字#296-300, L42謙譲動詞クイズ
28	7/ 7	金	まとめ8, 復習, 漢字クイズ#291-300, 漢字#301-305, 期末発表Draft
29	7/ 12	水	復習, 漢字#306-310
30	7/ 14	金	期末発表練習, PPTcheck, 漢字クイズ#301-310, Draft返却
31	7/ 19	水	期末試験 (L38-42)
32	7/ 21	金	期末口頭発表, 期末試験FB, 発表FinalDraft

初級 4

報告者： 米谷 章子
栗田 奈美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『大地2』（スリーエーネットワーク）を主要教材として使用し、L33～42 の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目と様々な言語表現やその背景知識を習得しながら、聴解、読解、作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、『にほんごチャレンジ』（アスク）を用いて、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習も行った。

授業は、1) 漢字クイズ・語彙クイズの実施、2) 漢字、3) 文型の導入・練習、4) 応用練習・会話練習、5) 聴解・モデル会話の練習、6) 読解・作文、の順で実施した。

1-2. 授業の内容

授業では、各課のトピックに沿って、文型練習、聴解、モデル会話の練習、読解練習、作文などを通して文型の定着を図った。また、「自然災害」、「塾」、「インターンシップ」などのトピックを通して文化背景などの理解を深めた。

今学期は文法クイズを実施し、受身形、使役形、尊敬動詞、謙譲動詞などの定着を図るようにした。また、読解問題や作文などの課題を課し、総合的な運用能力、特に会話や作文などの産出能力の向上を目指し、教材作りを工夫した。

2. その他（特記事項）

今学期は、授業で扱ったディベート教材を基に、学期末口頭発表として説得型プレゼンテーションを実施した。複数の根拠を示し、予想される聞き手の反論も考慮に入れながら、自分の主張を伝えるというタスクであったが、しっかりと準備をし、質疑応答時には活発な意見交換が見られた。これまで授業で扱った初級レベルの学習内容の集大成となるような期末発表となった。

3. まとめ・今後の課題

レベルや日本語学習歴が異なる 20 名超の受講者でスタートしたクラスだったが、学期中盤から研究などが多忙になり、継続して出席することができなかった受講者が多かった。しかし、最後まで継続できた受講者の学習意欲がとて高く、少人数での練習やディスカッションが多くでき、受講者間での交流も深められたと思う。また、受講者 1 人 1 人の学習過程や成果が確認でき、細やかな指導が実現できた。

本コースは初級最後ということもあり、かなり数多くの文法項目が扱われていた。しかし、既習項目との関連や実生活への応用など、また中級への架け橋となることを意識した活動を取り入れられるような指導、教材作りを今後も続けたい。

中級1 総合

2017年度 S1S2

- レベル : 中級1
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 24
- 時間 : 08:30 - 10:15 月曜日
08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L号室
- 学習目標 : 初中級レベルの文型(自他動詞、使役受身、比較表現など)を習得し、総合的な運用力を養成する。
- 対象 : 初級2の修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、又は JLPT N4相当
- テキスト : 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)
※2016年発売のピンク色の表紙のものを使用します。
- 評価 : 教室活動10%、クイズ20%、作文15%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表15%
・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部FEN-JL-4o01L1, 大学院3799-921-1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション, レベルチェック
2	4/ 10	月	第1課① (文型1,2), 語彙クイズ (L1)
3	4/ 13	木	第1課② (文型3,4)
4	4/ 17	月	第2課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L2)
5	4/ 20	木	第2課② (文型4,5)
6	4/ 24	月	第3課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L3)
7	4/ 27	木	第3課② (文型4,5,6)
8	5/ 1	月	復習 (L1,2,3), 作文1
9	5/ 4	木	祝日
10	5/ 8	月	第4課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L4)
11	5/ 11	木	第4課② (文型4,5)
12	5/ 15	月	第5課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L5)
13	5/ 18	木	第5課② (文型4,5,6)
14	5/ 22	月	復習 (L4,5), 作文2
15	5/ 25	木	中間試験 (L1-5)

16	5/ 29	月	中休み
17	6/ 1	木	中休み
18	6/ 5	月	第6課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L6)
19	6/ 8	木	作文発表会, 第6課② (文型4)
20	6/ 12	月	第7課① (文型1,2,3,4), 語彙クイズ (L7)
21	6/ 15	木	第7課② (文型5,6,7)
22	6/ 19	月	復習 (L6,7), 作文3
23	6/ 22	木	第8課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L8)
24	6/ 26	月	第8課② (文型4,5,6)
25	6/ 29	木	第9課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L9), 学期末口頭発表導入
26	7/ 3	月	第9課② (文型4,5,6), 学期末口頭発表準備
27	7/ 6	木	第10課① (文型1,2,3), 語彙クイズ (L10), 学期末口頭発表準備
28	7/ 10	月	第10課② (文型4,5,6), 学期末口頭発表準備
29	7/ 13	木	復習 (L8,9,10)
30	7/ 17	月	祝日
31	7/ 20	木	学期末試験 (L6-10)
32	7/ 24	月	学期末口頭発表

中級 1 総合

報告者： 山口 真紀・内田 あゆみ

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。授業は、2 コマで 1 課を扱う形で進行した。具体的には、語彙クイズ→課のトピックについての話し合い→文型導入・練習→聴解→読解の順番で行った。学期中に作文執筆を 3 回設け、各課の作文課題に沿って執筆を行った。課題は、添削して返却した。学期の最後には、この作文の中から一つ好きなテーマを選び、加筆・修正ののちに、学期末口頭発表としてプレゼンテーションを行った。

1-2. 授業の内容

授業では、主に中級レベルの文型練習を中心に、200 字程度の作文、本文の読解、本文の聴解、トピックについての会話を行った。漢字学習については特に時間を設けなかったが、語彙クイズで漢字語彙を出題する形でカバーした。また、作文執筆においても漢字の積極的な使用を促した。

2. その他（特記事項）

学期中に 3 回復習の回を設け、各課の文法事項を復習した。また、学期末口頭発表の全段階として、作文発表会（お互いの作文をグループで発表し合う気楽な会）を設けた。

3. まとめ・今後の課題

全ての学生が熱心に学習に取り組んでいた。課題の提出率もよく、毎回、質の高い作文が提出された。学生同士の交流も活発に行われ、クラス全体の雰囲気も良く、授業進行もスムーズであった。授業後のアンケートでは、テキストの文法解説がわかりにくいとの指摘があった。このクラスは学習項目が多く、進度も早いため、一回の欠席がその後の理解に大きく影響する。2、3 回の欠席で、学習者が「追いつけない」と感じ、その結果学習の継続をあきらめるという結果はぜひとも避けたいところである。研究が忙しい工学系の学生の継続的参加を可能にするためには、参加しやすい雰囲気づくりと、欠席した日の内容について独習を可能にする配慮が必要であると感じた。また、宿題を増やしてほしいとの要望もあった。意欲がある学生にこたえるために自由課題を積極的に取り入れていくことも検討すべきかもしれない。今後の課題としたい。

中級1 聴解

2017年度 S1S2

レベル	: 中級1
スキル	: 聴解
開講期間	: 2017/ 04/ 07 - 2017/ 07/ 21
時間	: 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。
対象	: 初級4, インテンシブ初級2コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: 日本語集中トレーニング(アルク)
評価	: 教室活動20%、中間プレゼンテーション20%、期末テスト30%、ディクテーション30% ●以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ●中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4o10L1, 大学院 3799-922-1 2. 修了証は成績がC以上の者に授与される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション、自己紹介
2	4/ 14	金	L 1 日本人の家を訪問する
3	4/ 21	金	L 2 出張の報告をする
4	4/ 28	金	L 4 店で注文する
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	L 5 郵便局で荷物を送る
7	5/ 19	金	L 6 不動産屋でマンションを探す、中間準備
8	5/ 26	金	中間プレゼンテーション
9	6/ 2	金	休講 (中休み)
10	6/ 9	金	L 7 体験を話す
11	6/ 16	金	L 8 日本の習慣をたずねる
12	6/ 23	金	L 9 パック旅行を申し込む
13	6/ 30	金	L 10 奨学金についての情報を受け取る
14	7/ 7	金	L 14 セミナーの準備をする
15	7/ 14	金	L 15 先生の研究室を訪ねる
16	7/ 21	金	期末テスト

中級1 聴解

報告者： ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『日本語集中トレーニング』（アルク）を使用し、毎回の授業で1課ずつリスニングに焦点を当てて授業を行った。授業の進め方は、各課の新出単語と表現の確認後ディクテーションを行い、学生自身に誤りの分析をさせ、自らの弱点やスキルを意識させた。その後、会話の練習、実践的な場面のロールプレイを行うことによりディクテーションでは聞き取れなかった語彙や表現を会得してもらう授業構成とした。

1-2. 授業の内容

語彙の拡充や文型・表現の確認と定着を図るため、各課の単語と表現の予習を宿題として課した。単語や表現は日本語で説明する練習を重ね、日本の文化や独特の背景を含めた理解を図った。「荷物を送る」「不動産屋で部屋を探す」「奨学金について」など、留学生にとって身近なテーマの課を取り上げ、中級で必要な語彙、表現が聞き取れるようになる為の練習としてディクテーションを毎時間課した。ディクテーションを重ねていくうちに各自が弱点に気づき、その弱点をどのように克服する工夫をすべきか、僅かではあるが毎時間コンサルテーションの時間を取った。

2. その他（特記事項）

中間では「聞き取りにくかった日本語フレーズ」について、自ら調べ、レポートにまとめ発表する課題を課したが、工学系の専門用語や表現が多く取り上げられた。聞き取れなかった時の対処法など、学生間のストラテジーの共有に役立っていた。期末では学期中に学習した表現に加え、同様の表現を使用したリスニングの試験を課したが、聞き取り能力の向上が結果として現れた。

3. まとめ・今後の課題

開講当初は学生のレベル差が非常に大きかった為、授業の進度の調整に難しさを感じた。ゴールデンウィーク以降受講者が大きく減ってしまったが、回が進む毎に学生が自らの弱点を理解し、授業に備える気構えが生まれるようになり、自然にスピードアップすることが出来た。ボランティア学生を含め、多国籍、多文化の多様性に富むメンバーが、日本語の語彙や表現を日本語で苦労して説明し合うことで、クラス全体の連帯感が生まれていた。今後は初級から中級への橋渡しとなるスムーズな授業運営の工夫をしたい。

中級1 会話

2017年度 S1S2

- レベル : 中級1
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2017/ 04/ 07 - 2017/ 07/ 21
- 時間 : 10:25 - 12:10 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 132教室
- 学習目標 : 初級文法を復習しながら、会話運用能力の向上を目指す。授業内外でたくさんの会話練習を行う。
- 対象 : 初級コースの修了者、日本語200-250時間程度既習者、又はJLPT N4-N3相当
- テキスト : 『聞く・考える・話すー留学生のための初級日本語会話ー』スリーエーネットワーク
- 評価 : 教室活動10%、クイズ20%、課題20%、中間試験25%、学期末発表25%
- 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。
 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
 学部 FEN-JL4o20L1, 大学院 3799-923-1
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行 される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分 以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 鈴木 恵理 SUZUKI Eri
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション、レベルチェッククイズ, L1, L2
2	4/ 14	金	L3, L4, Vocab & Listening Quiz 1
3	4/ 21	金	L6, Vocab & Listening Quiz 2, 課題1提出
4	4/ 28	金	L8, pg36, pg81, Vocab & Listening Quiz 3, 課題2提出
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	L7, L15, Vocab & Listening Quiz 4, 課題3提出
7	5/ 19	金	L10, L19, Vocab & Listening Quiz 5, 課題4提出
8	5/ 26	金	中間試験
9	6/ 2	金	中休み
10	6/ 9	金	L12, L13, Vocab Quiz 6
11	6/ 16	金	L16, L20, Vocab & Listening Quiz 7, 課題5提出
12	6/ 23	金	L17, Vocab & Listening Quiz 8, 課題6提出
13	6/ 30	金	L21, Vocab & Listening Quiz 9, 課題7提出
14	7/ 7	金	学期末口頭発表準備、Listening Quiz 10、課題8提出
15	7/ 14	金	学期末口頭発表準備、課題9提出 (学期末口頭発表スクリプトの下書き)
16	7/ 21	金	学期末口頭発表、課題10提出 (学期末口頭発表スクリプトの清書)

中級 1 会話

報告者： 鈴木 恵理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

このコースでは、初級レベルで学んだ文型や表現を使って実際にやりとりできるようになることを目的とし、日常生活や研究生活で遭遇するであろう場面を意識して、ペアワークやグループワークを行った。テキストは『聞く・考える・話す 留学生のための初級にはんご会話』（スリーエーネットワーク）を使用した。また毎回、授業冒頭で前週に学んだ会話表現とその日扱う課の語彙についてクイズを行った。

1-2. 授業の内容

授業で扱った内容は、「レストランで注文する」「忘れ物を問い合わせる」「誘う・断る」「許可を求める」「アドバイスを求める」などで、より具体的な場面を機能シラバスで学んだ。ただ表現を整理するだけではなく、なぜ日本人がそういう言い方を好むのか、世代や相手の負担度によってどんな使い分けがあるのかを考える時間も取り、ボランティアできてくれた日本人学生からも生の声を聞く時間も取った。

2. その他（特記事項）

中間試験ではペアになって、その場で引いたロールカードを元に 2 場面のロールプレイを課した。一方、期末試験では小グループで既習表現やストラテジーを使ったスキット発表を課した。皆よく復習し、意欲的に取り組んでいた。

3. まとめ・今後の課題

開講当初に学生たちと話してわかったことは、初級文法を習得した学生たちなので、日頃の生活をなんとなくは日本語で送れているものの、適切な言い方、スマートな言い方ができなくて、「あのとき、なんというのが自然だったのかな」と気になりながら毎日を過ごしているということだった。その点を解決できるように授業運営には気をつけた。中間試験後、徐々に学生数減り、熱心な学生たちが残ったこともあり、テキストの内容がやや簡単な印象も見受けられたため、次学期はもう少しレベルアップした内容も含んでいるテキストを検討する必要性を感じた。

中級1 専門読解

2017年度 S1S2

- レベル : 中級1
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2017/ 04/ 10 - 2017/ 07/ 24
- 時間 : 13:00 - 14:45 月曜日
- 場所 : 工学部8号館 123
- 学習目標 : 科学の話題を素材にした文章を読み、科学技術日本語の読解力向上と専門的な語彙の習得を目指す。漢字学習を促進する。
- 対象 : 初級2の修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N3-4相当
- テキスト : 『科学技術の日本語』（スリーエーネットワーク）
- 評価 : 教室活動20% 漢字クイズ30% 中間テスト20% 期末テスト20% 発表10%
以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上
2) 期末試験もしくは課題を受験
3) コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
4) 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UT-mate コード：学部FEN-JL4o30L1, 大学院3799-924-1.
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある

担当 : 白井 直也 USUI Naoya
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	月	オリエンテーション、Level Check Quiz、第2課 日本科学技術未来館ホームページを見る
2	4/ 17	月	第2課 日本科学技術未来館ホームページを見る
3	4/ 24	月	第3課 ワードプロソフトで日本語文書を作成する、漢字クイズ L2
4	5/ 1	月	第4課 気温の変化、漢字クイズ L3
5	5/ 8	月	第5課 新幹線、漢字クイズ L4
6	5/ 15	月	木曜日授業 第5課 新幹線、漢字クイズ L5
7	5/ 22	月	中間試験
8	5/ 29	月	休講
9	6/ 5	月	第6課 ロボット
10	6/ 12	月	第7課 音声情報工学、漢字クイズ L6
11	6/ 19	月	第8課 新エネルギー、漢字クイズ L7
12	6/ 26	月	第9課 地球温暖化、漢字クイズ L8
13	7/ 3	月	第9課 地球温暖化
14	7/ 10	月	復習、発表、漢字クイズ L9
15	7/ 17	月	祝日
16	7/ 24	月	期末試験

中級1 専門読解

報告者：臼井直也

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

教科書は『初級文型で学ぶ科学技術の日本語』を使用し1課を1回から2回の授業で進めるシラバスを組んだ。授業は文法・文型の理解を中心に内容を理解する読解授業である。

1-2. 授業の内容

授業は上記テキストを中心に扱い、副教材などは使用しなかった。読解の内容が専門性の高いものであり、文章で使われる語彙も専門語彙が多く含まれることから、事前に単語の読みと意味を調べることを宿題とし、授業では文型の学習と内容理解に重点を置いた。各課の終了後には漢字の読みと単語の意味を問うクイズを行い、定着を図った。

2. その他（特記事項）

試験はテキストに準拠した形で行った。単語の読みや文型を問う問題、教科書の本文を用いた読解問題のほかに、中間、期末ともに新規の読解問題を加えた。

3. まとめ・今後の課題

S1S21 クラスに関しては単位が必要な受講者が一人であり、さらにその受講者も中間試験までの履修であったことから、後半は全員が単位を必要としない受講者となった。それが原因となったかは定かではないが、後半の受講者数が急減してしまい、期末試験の受験者はわずか1名であった。登録者は14名おり、初回、2回目までは一定数の受講者がいたことを考えると、受講者のニーズに合わなかったというほかに、コースの設定や授業方法などに問題があったと考えられる。授業の担当がかわったばかりであり手探りの状態でコースが始まったため、コース運営については改めて見直しを行う必要がある。授業ではグループで活動を行うことも予定していたことから、今後は受講者が期末試験まで来続けるようなコースになるよう改善をしたい。

なお、受講者が少ないこともあってか授業アンケートの回答もなく、授業についてのフィードバックを得ることができなかった。日々の授業で受講者と話した限りでは「専門の授業が忙しい」という声が多かったので、今後は課題や宿題の量など、こうした受講者にも対応できるような調整を行っていききたい。

中級 1 文章

2017年度 S1S2

- レベル : 中級 1
- スキル : 文章
- 開講期間 : 2017/ 04/ 11 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M教室
- 学習目標 : 趣味、旅行、など、様々なトピックに沿った文章を書くことにより、初級・中級レベルでの書く技術を養成する。また、それに必要な漢字学習を行う。
- 対象 : 初級4またはインテンシブ初級IIの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPTN4相当
- テキスト : みんなの日本語 初級第2版 やさしい作文 (スリーエーネットワーク)
- 評価 : 教室活動15%、クイズ20%、課題25%、中間試験20%、期末試験20%
 ●以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ●中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位 2 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
 UT-mate コード: 学部:FEN-JL4o40L1, 大学院3799-925-1.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 米谷 章子 KOMETANI Akiko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	レベルチェックテスト、オリエンテーション, ユニット 1
2	4/ 18	火	Unit 3&5
3	4/ 25	火	Unit 7&8, 漢字クイズ3&5
4	5/ 2	火	Unit 9&10, 漢字クイズ7&8
5	5/ 9	火	Unit 11&12, 漢字クイズ9&10
6	5/ 16	火	Unit 13&14, 漢字クイズ11&12
7	5/ 23	火	中間試験
8	5/ 30	火	中休み
9	6/ 6	火	Unit 15
10	6/ 13	火	Unit 16, 漢字クイズ15
11	6/ 20	火	Unit 17, 漢字クイズ16
12	6/ 27	火	Unit 18, 漢字クイズ17
13	7/ 4	火	Unit 19, 漢字クイズ18
14	7/ 11	火	Unit 20, 漢字クイズ19
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	期末試験

中級 1 文章

報告者： 米谷 章子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『みんなの日本語 やさしい作文 初級第2版』（スリーエーネットワーク）に沿って授業を進めた。前半は2課を1コマで進め、今までの初級レベルを発展させ、後半は1課1コマを使い進めた。初級で習った文法や表現を使い、初級・中級レベルでの書く技術の養成と向上を目標とした。

授業では主に、1) 漢字クイズ、2) 漢字・単語の確認、3) ペアで作文の例を音読、4) 作文の例を精読、流れと重要表現を確認、5) 作文のポイントの練習問題、6) トピックに関する意見交換、7) 作文（宿題）という流れで進めた。

1-2. 授業の内容

授業で扱った内容は、前半は「プレゼント」「旅行」「もし私が二人いたら」「趣味」「楽しい一日」「私の夢」「日本でびっくりしたこと」など身近なトピックである。今まで初級レベルでよく扱われる内容であっても、文章量や表現、構成に配慮するように指導した。

後半は「手紙」「隣の人に一言」「国との比較：ゴミ、交通」「スマートフォンは必要か」「私の周りの最近のニュース」「私の国の有名な人」等のトピックがあった。後半になるにつれ、最近のニュースや自分の国と日本を比較して考えるなど、多様な話題を取り上げた。

2. その他（特記事項）

毎回、学習した課のトピックについて作文の宿題を課した。また、毎回、読みと書き両方の漢字クイズを実施し、漢字の読み書きの定着を図った。宿題、クイズ、授業参加度、定期試験をバランスよく評価できるように構成した。

3. まとめ・今後の課題

受講者の身近なトピックを取り上げたため、教室内活動も宿題もとても熱心に取り組んでいた。課題を書く前の話し合いでは受講者の出身国が皆違っていたため、様々な意見が出るディスカッションができた。今後は受講者のニーズも把握しそれに合った教材を開発し、さらに書く力を向上させることに努めたい。また、実際に手紙やはがきを送ったり、メールを書いたりする活動も取り入れたい。

中級2 総合

2017年度 S1S2

- レベル : 中級2
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 19
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 132号室
- 学習目標 : 中級レベルの総合的な運用力を養成する。中級レベルの文型・表現を学習し、読解能力、語彙力の向上を目指す。
- 対象 : 中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当。
- テキスト : 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』（スリーエーネットワーク）※テキストはオレンジ色の表紙です。
- 評価 : 教室活動10%、クイズ30%、課題20%、中間試験20%、学期末試験20%
- 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ●中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4p01L1, 大学院3799-931-2.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 宮瀬 真理 MIYASE Mari
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 12	水	休講
3	4/ 19	水	L2
4	4/ 26	水	L2、課題①提出
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	L3、クイズ(L2)
7	5/ 17	水	L3、L4、課題②提出
8	5/ 24	水	L4、クイズ(L3)
9	5/ 31	水	中間試験 (L2,3,4)
10	6/ 7	水	L6、クイズ (L4) 、中間試験フィードバック
11	6/ 14	水	L6、課題③提出
12	6/ 21	水	L7、クイズ(L6)
13	6/ 28	水	L7、課題④提出
14	7/ 5	水	L8、クイズ(L7)
15	7/ 12	水	L8
16	7/ 19	水	学期末試験 (L6,7,8)

中級 2 総合

報告者： 宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本授業では、テキスト『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期』（スリーエーネットワーク）を使用して授業を行った。授業はテキストに沿って、1) 課で扱う話題についてのディスカッションや各国毎の情報のシェア→2) 本文の音読と内容の大意取り→3) ことばの練習→4) 文法（文型・表現）の学習、練習問題→5) 本文の読解→6) 聴解・ディクテーション→7) 作文 という流れで行った。学習した文法項目と漢字は各課が終わるごとにクイズを実施して定着を図り、課末の作文課題を 4 回、宿題として課した。

このテキストの各課の本文は書き言葉の読みもので、その本文から各 7 項目の文型や表現が学習項目として取り上げられている。授業はその学習項目の意味を理解し、使えるようになることを目指して練習問題を中心に進めた。

1-2. 授業の内容

1 つの課を二回に分けて進み、全 8 課中 6 つの課を扱った。テキストの各課の話題は「数字の意味」「日本で生活して面白いと思ったこと」「擬音語・擬態語」「特別な日の特別な料理」「職業」「第一印象」など、異文化理解を促す内容が多かった。各課の話題について、ペアやグループで話す時間を設け、そしてそこで話した内容を元に家で作文を書いてくるよう課題を出し、文法学習で終わらず、産出能力を高めることにもフォーカスをおいた。

2. その他（特記事項）

作文課題は、「好きな数字嫌いな数字」「日本に来てわかったこと」「私の国の特別な料理」「関心ある仕事」をテーマに 400 字程度で、学期を通して計 4 回課した。宿題の作文はコメントを付けて返却。文法のチェックだけでなく内容についてのフィードバックをすることで、教師・学習者間での意味のあるやりとりになるように心がけた。

3. まとめ・今後の課題

文法事項の練習のための例文作りや会話作り、話題についての話し合いでは、国毎の情報をクラスでシェアしながら、和気あいあいとした雰囲気クラスを進めることができた。その一方で、中級 2 のレベルに達しておらず、テキストの文法を理解するだけで精一杯の学生もいたため、レベルをどこに合わせるかに悩んだ。

宿題とした作文課題についても、書くことへの抵抗が少なくなり、能力が大きく伸びたと思われる学生も多かったが、研究やゼミ等で忙しい学生にとっては負担も大きかったと思われる。時には授業内で書く時間を設ける等、書く能力のための活動を増やしていくことも必要だと思われる。

クラス全体のレベルを引き上げるための効果的な授業運営を考えていく必要がある。

中級2 聴解

2017年度 S1S2

- レベル : 中級2
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 19
- 時間 : 10:25 - 12:10 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L教室
- 学習目標 : 日本で出会うであろう場面での生の会話の聞き取りを通して、ことばや表現を増やし、またその中から必要な情報を聞き取る力を身に付ける
- 対象 : 中級1コースの修了者。日本語を300－350時間程度勉強した学習者。
- テキスト : 『LIVE from TOKYO 生の日本語を聴き取ろう』(The Japan Times)
- 評価 : 教室活動20%, 中間試験25%, 期末試験25%, クイズ20%, 宿題10%
 ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4p10L1, 大学院 3799-932-1.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 米谷 章子 KOMETANI Akiko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	レベルチェッククイズ、オリエンテーション
2	4/ 12	水	休講 (入学式)
3	4/ 19	水	L1 成田空港で
4	4/ 26	水	L2 ホテルで, クイズL1
5	5/ 3	水	祝日 (憲法記念日)
6	5/ 10	水	L3 浅草で①, クイズL2
7	5/ 17	水	L4 浅草で②, クイズL3
8	5/ 24	水	L5 浅草で③, クイズL4
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	L6 旅行会社で
11	6/ 14	水	L7 観光バスで, クイズL6
12	6/ 21	水	L8 駅の窓口で, クイズL7
13	6/ 28	水	L9 地下鉄で, クイズL8
14	7/ 5	水	L10 銀座で, クイズL9
15	7/ 12	水	L11 劇場で, クイズL10
16	7/ 19	水	期末試験

中級2 聴解

報告者： 米谷 章子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『LIVE from TOKYO 生の日本語を聴き取ろう』(The Japan Times) を使用し授業を行った。日本で遭遇する可能性のある場面の生の会話を扱い、聞き取りを通して言葉や表現を増やし、またその中から必要な情報を聞き取る力を養うことを目標とした。

1 課を1 コマで扱い、主に、1) 聞き取り・単語クイズ、2) タイトルや説明文、写真などからどのような場面か考え CD を聞く 3) 語彙や表現の確認、3) 全体の聞き取りと、部分的にディクテーションや必要な部分の聞き取りを確認、4) ディクテーション部分の確認、表記や文化背景への理解を深める、5) ペアで会話練習、6) 作文の例を精読、流れと重要表現を確認、という流れで進めた。

また、最後にはトピックに関連した東京や日本の情報、受講者の今までの体験談などをペアやグループでディスカッションする時間を設け、受講者が多くても発話練習できるように配慮した。

1-2. 授業の内容

授業で扱った内容は、「成田空港で」「ホテルで」「浅草で」「旅行会社で」「観光バスで」「駅の窓口で」「地下鉄で」「コンビニで」である。初級が終わっている受講者でも教室内や学習者用の教材の日本語は理解できるが、実際に街で聞く日本人同士のやり取りは難しいと感じているようで、このクラスでは生の日本語に慣れてもらうことを目標とした。速いスピード、会話の重なり、フィラーや口語などを意識して聞き、練習を行い、受講者が授業内で習ったことをより日常生活で応用できるように心がけた。

2. その他（特記事項）

関連したトピックや、受講者の関心があるトピックを選び、使用教科書以外から聴解の宿題も課し、発展練習を通して理解をより深められるように工夫した。

3. まとめ・今後の課題

受講者の身近なトピックを取り上げたため、教室内活動も宿題もとても熱心に取り組み、修了率が高かった。また、ある程度長さのあるニュースやお知らせ、スピーチなどを聞く練習の必要性も感じた。今後は受講者のニーズも把握しそれに合った宿題や活動をより多く取り入れるように努めたい。

中級2 会話

2017年度 S1S2

- レベル : 中級2
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 20
- 時間 : 10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L教室
- 学習目標 : 日常のトピックに関する会話や身近なテーマや話題の聞き取りを通して、ことばや表現を増やし、クラスで話し合うことでトピックの理解を深める。
- 対象 : 中級1コースの修了者。日本語を300－350時間程度勉強した学習者。
- テキスト : 『日本語おしゃべりのたね』(スリーエーネットワーク)
- 評価 : 教室活動20%、クイズ20%、中間口頭試験20%、会話試験20%、学期末グループ発表20%
 ●以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上
 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ●中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1.単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード:学部FEN-JL4p20L1, 大学院3799-933-1. 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者
 にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.
 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウ
 ィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : ハワード 文江 HOWARD Fumie
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション, クラスメートを知ろう(レベルチェック) § 1, § 2, § 13
2	4/ 13	木	§ 3, § 14
3	4/ 20	木	§ 4, § 15
4	4/ 27	木	§ 5, § 16
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	§ 6, § 17
7	5/ 18	木	§ 7, § 18
8	5/ 25	木	【中間口頭発表】:文化紹介
9	6/ 1	木	休講【中休み】
10	6/ 8	木	§ 8, § 19
11	6/ 15	木	§ 9, § 20
12	6/ 22	木	§ 10, § 21
13	6/ 29	木	§ 11, § 22
14	7/ 6	木	§ 12, § 23
15	7/ 13	木	学期末グループ発表準備、【学期末会話テスト】
16	7/ 20	木	【期末グループ発表】

中級 2 会話

報告者： ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

中級話者としての自然な日本語表現のパターンが効果的に練習できる『なめらか日本語会話』（アルク）を抜粋で導入に使用し、『日本語おしゃべりのたね』（スリーエーネットワーク）の各課から留学生に身近で興味が湧くテーマを抜粋し会話の練習を行う 2 段階の授業を行った。授業の進め方は、毎回表現の導入として既習表現をより自然な日本語表現に転換させる練習と一定状況下での定型表現の学習を組み合わせ、その後その表現を使用して教科書のテーマについて小グループで会話練習を行った。

1-2. 授業の内容

導入で学習した表現の定着を図るため、練習問題を宿題として課した。毎回会話のテーマは教科書から自国の文化や社会問題など、具体的には「伝統的な祭り」や「最近の結婚事情」といった自国の社会事情を反映するテーマを取り上げた。各テーマに必要な語彙や文型を教科書で確認し、スムーズに会話練習に入ることが出来るように図った。最後に時間が許す限り、グループ毎に会話内容のまとめを発表してもらった。

2. その他（特記事項）

国際色豊かなクラス内で、自国の社会事情を日本や他国と比較しながら行う会話は学生に多くの気付きももたらし、学生間の交流を深めていた。結婚事情などのテーマでは各グループで会話の盛り上がりを見せていたが、学生同士のみの会話練習ばかりにならないようボランティア学生の協力が不可欠であった。中間では授業中に取り上げたテーマの発表を個人に課し、期末ではグループ発表とした。その他に学期中に学習した表現を使った会話テスト日を 1 日設け、教師と 1 対 1 でのテストを行った。受験者は開講時に比べ、自然な日本語の表現を身に付けていた。

3. まとめ・今後の課題

受講生のレベル差が大きく、又週に 1 度しかない授業でも諸事情で欠席せざるを得ないなどの理由で、中には自然な日本語表現の学習に付いて来られず伸び悩んだ学生もいた。単位取得後中級 3 のクラスへ進学することを考えると、学期終了時には一定の表現を身に付けていることは欠かせないが、今後は忙しい中で受講している学生をどのようにフォローすることが出来るか、更に工夫が必要であると感じた。

中級2 読解

2017年度 S1S2

- レベル : 中級2
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2017/ 04/ 11 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 08:30 - 10:15 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M号室
- 学習目標 : 多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。
- 対象 : 中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、又はN3相当。
- テキスト : 『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
- 評価 : 教室活動20% クイズ20% 宿題10% 中間試験25% 期末試験25%
 ●以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ●中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
 UT-mate コード: FEN-JL4p30L1, 大学院:3799-934-1.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 米谷 章子 KOMETANI Akiko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	レベルチェックテスト、オリエンテーション、単語、多読
2	4/ 18	火	L1語のまとまりをとらえましょう p.2、漢字クイズ①、多読
3	4/ 25	火	L1語のまとまりをとらえましょう p.2, L2p.8、多読
4	5/ 2	火	L2「する・される」の関係をつかみましょう p.8, L3「文の構造をとらえましょう」p.21、漢字クイズ②、多読
5	5/ 9	火	L3「文の構造をとらえましょう」p.21, L4「前件と後件の関係をつかみましょう」p.24、漢字クイズ③、多読
6	5/ 16	火	L4「前件と後件の関係をつかみましょう」p.24, p.29-31、漢字クイズ④、多読
7	5/ 23	火	中間試験
8	5/ 30	火	中休み
9	6/ 6	火	L6「省略されているものが何か考えましょう」p.44、多読
10	6/ 13	火	L6「省略されているものが何か考えましょう」p.44, p.49、漢字クイズ⑤、多読
11	6/ 20	火	L6「省略されているものが何か考えましょう」p.49、漢字クイズ⑥、多読
12	6/ 27	火	L7「関連のある言葉を探しましょう」p.52、多読
13	7/ 4	火	L8「文末に注目して筆者の意見を見抜きましょう」p.67、漢字クイズ⑦、多読
14	7/ 11	火	多読のビブリオバトル
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	期末試験

中級2 読解

報告者： 米谷 章子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『留学生のための読解トレーニング』（凡人社）を使用し、読解ストラテジーを習いながら様々なジャンルの文章を読み、より高度な読解力を身につけることを目標に授業を行った。主に、1) 漢字クイズ、2) トピックの導入および自由会話、3) 新出・重要語彙確認、4) 読解ストラテジーの練習問題、5) 教科書の読み物を音読、6) 全体で精読・内容確認、7) トピックについてのディスカッション、の順で行った。また、毎回最後の10～15分間は『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』（アスク出版）を使用し、多読授業を行った。毎回読書記録と感想を記入し、コメントを付けて翌週返却した。

1-2. 授業の内容

授業では、「後のまとまりをとらえる」、「文の構造をとらえる」、「省略されているものが何か考える」など、課のテーマに沿った読解ストラテジーの習得を目標に練習問題をし、読み物に対する理解を深めた。読み物のテーマは、「1人で外食すること」、「大食い番組の是非」など、現代の日本社会における問題についての読み物が多く、受講者は大変興味を持ち、ディスカッションでも様々な意見が出た。トピックに関する意見を書く宿題も課した。

2. その他（特記事項）

上述のように、教科書の読解以外に多読を実践した。多読の4大ルール、「簡単なものから」、「辞書を引かない」、「わからなくなったら飛ばす」、「進まなくなったら他の本を読む」、を説明し、これらのルールを守るように指導した。一番好きな本の要約を書く課題を与えたり、最終日にはビブリオバトル実施後にチャンプ本を選出したり、読むだけではなく本の内容を活用し、クラスメートと発展練習ができるように工夫した。

3. まとめ・今後の課題

教科書の練習問題や読み物は、語彙も文法も難しいと感じる受講者がいた一方、多読時間で個人のレベルにあった読書時間を設けることにより、満足度を高められたと思う。それぞれの研究等で多忙ながらも、授業外での読書の動機付けを促せるように、受講者のニーズに適した本を選ぶこと、図書リストを作ることをこれからも続けたい。

中級2 文章

2017年度 S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: 文章
開講期間	: 2017/ 04/ 10 - 2017/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日
場所	: 工学部8号館 88L教室
学習目標	: 表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。
対象	: 中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、又はJLPT N3相当。
テキスト	: 『大学・大学院留学生の日本語2 作文編』(アルク)
評価	: 教室活動20% 提出物・課題レポート50% 学期末レポート20% 学期末試験20% ・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部FEN-JL4p40L1, 大学院3799-935-1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	月	オリエンテーション, L1 作文の基本
2	4/ 17	月	L2 書き言葉
3	4/ 24	月	L3 段落
4	5/ 1	月	L4 「は」と「が」
5	5/ 8	月	L5 テーマを述べる
6	5/ 15	月	L6 理由・経過を述べる
7	5/ 22	月	L7 定義をする, L8 判明していることを述べる
8	5/ 29	月	中休み
9	6/ 5	月	L9 問題点を述べる
10	6/ 12	月	L10 引用する
11	6/ 19	月	L11 解決策を述べる
12	6/ 26	月	L12 手順を述べる
13	7/ 3	月	L13 指示詞を使う
14	7/ 10	月	L14 研究計画書
15	7/ 17	月	祝日
16	7/ 24	月	期末テスト, 学期末レポートフィードバック

中級2 文章

報告者： 山口 真紀

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『大学・大学院留学生の日本語②作文編』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。授業は、1コマで1課を扱う形で進化した。具体的には、課題解説→作文技術の確認→練習問題→課題（宿題）の順番で行った。各課が終わるごとに400～800字の課題執筆を課した。課題は添削して返却した。学期の最後には、作文の基本技術を確認する意図で期末テストを行い、また学習した知識の総まとめとして、1200字のレポート執筆（研究計画書または、自由レポート）を行った。

1-2. 授業の内容

授業では、主に書き言葉の練習を中心に短文作成、及び表現についての話し合いを行った。漢字学習については特に時間を設けなかったが、課題執筆において漢字の積極的な使用を促した。

2. その他（特記事項）

学期の中間に、今まで出された課題の傾向を分析し、個別にフィードバックを行い、今後の学習目標について話し合った。

3. まとめ・今後の課題

非常に熱心に学習に取り組んでいた。課題の提出率もよく、毎回、質の高い課題が提出された。食欲に知識を吸収しようという雰囲気がクラス内では強くあったため、学生同士の交流や意見交換も活発に行われた。中級2レベルは、学習者に共通して現れる課題と、個別に現れる課題がある。特に書くことについては、漢字量や語彙量、文法の正確さなど、個々人によって得意・不得意が異なる。個人の特質に沿った形で、アドバイスができるよう、課題添削では務めたが、フィードバックにより多くの時間を割き、より詳細な説明をしてほしいとの要望があった。限られた時間内で、どれだけ個別に対応する時間を捻出するかが課題である。

中級2 専門語彙・漢字

2017年度 S1S2

- レベル : 中級2
- スキル : その他
- 開講期間 : 2017/ 04/ 11 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L教室
- 学習目標 : 日本の生活に必要な語彙、研究生活全般で使用するアカデミックな語彙に加え、工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2-3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。
- 対象 : 中級1を修了した人、日本語を200-250時間程度勉強した人、JLPT N3相当
- テキスト : 自主教材
- 評価 : 教室活動10%、課題15%、クイズ25%、中間口頭試験 25%、学期末試験 25%
以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) 学部 FEN-JL4p50L1, 大学院 3799-936-1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. このコースでは授業にPCを使用するため、各自持参すること。
- 担当 : 中村亜美 NAKAMURA Ami
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	オリエンテーション レベルチェック
2	4/ 18	火	第1課：漢字1-5 短文作成
3	4/ 25	火	第2課：漢字6-10 短文作成 1課漢字クイズ
4	5/ 2	火	第3課：漢字11-15 短文作成 2課漢字クイズ 課題（締切5月23日）
5	5/ 9	火	第4課：漢字16-20 短文作成 3課漢字クイズ
6	5/ 16	火	第5課：漢字21-25 短文作成 4課漢字クイズ
7	5/ 23	火	中間試験（L.1-L.5） 第6課：漢字26-30
8	5/ 30	火	休講
9	6/ 6	火	第7課：漢字31-35 短文作成 6課漢字クイズ
10	6/ 13	火	第8課：漢字36-40 短文作成 7課漢字クイズ
11	6/ 20	火	第9課：漢字41-45 短文作成 8課漢字クイズ
12	6/ 27	火	第10課：漢字46-50 短文作成 9課漢字クイズ
13	7/ 4	火	第11課：漢字51-55 短文作成 10課漢字クイズ
14	7/ 11	火	第12課：漢字56-60 短文作成 11課漢字クイズ
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	学期末試験（L.6-L.12）

中級2 専門語彙・漢字

報告者： 中村 亜美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本クラスは「理工学系話し言葉コーパス」の研究を応用実践したコースの一つである。日本語能力試験の旧 3, 4 級レベルの単漢字をベースにし、日常生活で使われる語彙、研究室で話されているアカデミックな語彙や工学系分野に特有な語彙も学習する。

教材は、前任者作成の自主教材で、「理工学系話し言葉コーパス」のためのデータ収集に協力をお願いした 7 つの専攻「電気系工学」「建築学」「都市環境工学」「都市計画」「化学システム」「社会基盤」「電子情報学」のデータをもとに、各分野に共通する頻出語彙を中心に旧 3 級漢字を 60 字選んだものである。

1-2. 授業の内容

1 コマの授業で 5 つの単漢字を導入し、音読み、訓読みをはじめ熟語を学習してから、各語彙を用いた例文を紹介した。また、当該漢字を含む 2 級以上や級外の語彙も必要に応じて導入し、共起することば、ゼミで使う表現などについても学習した。学習後、学習者は習った語彙、あるいは自ら辞書などを使って調べた語彙を使って例文を作成し、他の学習者と共有した。

2. その他（特記事項）

中間試験以降、1 回 1~2 名の担当者が「〇〇〇で知った漢字」（例：研究室、コンビニなど）というテーマで、学習者が教室外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現などについての発表を行った。

3. まとめ・今後の課題

毎回 10 人弱のクラスであったが、中級に足を踏み入れたばかりの学生と、上級レベルの学生が混在していた。そのような中で、どのような語彙や用例を学習者に提示するかが難しかったが、学習者による例文作りでは、レベルの違う学生同士がお互いから学ぶ姿が見られた。他の学生が紹介した語彙や例文に対する反応は、教師作成のプリントとは違う特別なものが見られた。

また、今学期は教える側に余裕がなく、一方的な解説になってしまう場面も多く、漢字学習を楽しめるような活動ができなかった。「クイズが終われば忘れてしまう漢字」ではなく、学習者の記憶に残り、自主的かつ継続的に漢字学習ができるような活動や教材作りを目指したい。

多文化理解プロジェクト

2017年度 A1A2

- レベル : 中級-上級
- スキル : その他
- 開講期間 : 2017/ 09/ 26 - 2018/ 01/ 23
- 時間 : 13:00 - 14:45 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M教室
- 学習目標 : 留学生と日本人学生がそれぞれの母文化の慣習と考え方を共通点に焦点を当て比較し、Culture, Communication, Community, Connection, Comparisonの観点から相互の文化を理解する。
相互の文化理解をより深めるために、教室内、学内でなく、教育機関などで発表し、地域への多文化理解への貢献も目指す。
- 対象 : 中級-上級の留学生、日本人学生
- テキスト : 自主教材
- 評価 : 教室活動20%、課題50% (資料20%、発表30%)、報告書30%
1. 以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 2. コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 3. 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位 2 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 学部CO 442L1, 大学院3799-034.
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者により発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 古市 由美子 FURUICHI Yumiko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	9/ 26	火	オリエンテーション 多文化共生の理論について
2	10/ 3	火	日本・母国の文化を知る1 (教育制度)
3	10/ 10	火	日本・母国の文化を知る2 (伝統・現代文化)
4	10/ 17	火	日本・母国の文化を知る3 (食文化)
5	10/ 24	火	日本・母国の文化を知る4 (言語)
6	10/ 31	火	発表資料準備
7	11/ 7	火	クラス発表1
8	11/ 14	火	休講
9	11/ 21	火	クラス発表2
10	11/ 28	火	日本の高校、中学校、小学校で発表 1
11	12/ 5	火	日本の高校、中学校、小学校で発表 2
12	12/ 12	火	東京大学における多文化共生を考える
13	12/ 19	火	グループ資料作成
14	12/ 26	火	休講
15	1/ 2	火	冬休み
16	1/ 9	火	グループ資料作成
17	1/ 16	火	休講

18	1/ 23	火	クラス発表
----	-------	---	-------

中級3 多文化理解プロジェクト

報告者： 古市由美子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

多文化理解プロジェクトは、以下の3つを目的とした。①日本人学生・留学生の自国の文化と他の文化の相違点・共通点を理解する。②SL (Service-Learning)の手法を外国語教育と融合し、Culture, Communication, Community, Comparisonの視点に照らし合わせて総合的に学ぶ。③学内だけでなく、学外の教育機関などで活動することによって、地域社会への多文化理解に貢献する。

1-2. 授業の内容

今学期は留学生が6名（中国1名、韓国1名、アメリカ1名、インド1名、シリア1名、タイ1名）と、日本人が8名で、グループディスカッションを中心とした授業を実施した。

本授業では文化を「固定化した集団社会における文化」ではなく、「個の文化」とみなすことを定義した。その後、「教育」「食文化」のテーマで、グループディスカッションによって相違点・共通点を整理した。4週目から大田区立矢口西小学校で小学校3年生を対象に実施する「多文化理解ワークショップ」の準備にとりかかり、12月19日に実施した。1組はインドと韓国と日本の小学生の生活について相違点・共通点をクイズ形式で紹介した。ステレオタイプに陥らない工夫と共通点に目を向けるクイズの仕掛けがあった。2組は「世界再発見」と題し、小学生の記憶に残る参加型アクティビティを行った。3組ではシリアとタイの文字に注目し、「国は違っても言葉で通じ合える、全然違う国でも同じ様な人たちがいる」というテーマで、世界の多様性に気づくことを目的とした。

次に、東京大学内における多文化共生キャンパスの実現を達成するために何ができるかという課題に取り組んだ。まず、東大における国際交流プログラムの実態調査をグループで実施した。学生の大半がプログラムの存在を知らず、参加したことがなかった。そこで、本授業では、東京大学の多文化共生を目指し、留学生と日本人学生が対等に参加できる国際交流プログラムを作ることにした。Language Exchange Programのデジタル化、「恋愛トーク」など身近なテーマを話す交流会などの提案があったが、「International Mario Kart Olympic」というゲームを楽しんだ後、交流しようという企画に決定した。1月末に学生主体で交流会を実施した。

2. その他（特記事項）

大田区立矢口西小学校での多文化理解ワークショップは今年度で5年目を迎える。矢口西小学校の石井正美校長先生には毎回校長室にお招きいただき、留学生に温かい言葉を頂いた。ここに深謝の意を表する。

中級3 総合

2017年度 S1S2

- レベル : 中級3
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 04/ 11 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 08:30 - 10:15 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L教室
- 学習目標 : 中上級レベルの文型・表現を学習し、語彙力と読解力の向上、総合的な運用力を養成する。また敬語の学習も行う。
- 対象 : 中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、又はJLPT N2相当。
- テキスト : 『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』（スリーエーネットワーク）
- 評価 : 教室活動20%、クイズ20%、課題20%、中間試験20%、学期末試験20%で評価する。
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UT-mate コード：学部FEN-JL4q01L1, 大学院3799-941-1
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 中村亜美 NAKAMURA Ami
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	オリエンテーション、レベルチェックテスト
2	4/ 18	火	敬語「誘う」、第1課①
3	4/ 25	火	敬語「断る」、第1課②、語彙クイズ(L1)、課題1(締切5月2日)
4	5/ 2	火	敬語「申し出る」、第2課①
5	5/ 9	火	敬語「お詫びする」、第2課②、語彙クイズ(L2)
6	5/ 16	火	第2課③、課題2（締切5月30日）
7	5/ 23	火	中間試験
8	5/ 30	火	休講
9	6/ 6	火	敬語「相談を受ける」、第3課①
10	6/ 13	火	敬語「面接を受ける」、第3課②、語彙クイズ(L3)、課題3（締切6月20日）
11	6/ 20	火	敬語「会話作り」、第3課③、課題4（締切7月4日）
12	6/ 27	火	敬語「会話作り」、第4課①、語彙クイズ(L4)
13	7/ 4	火	敬語「報告をする」、第4課②
14	7/ 11	火	敬語「学期末口頭発表」
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	学期末試験

中級3 総合

報告者： 中村 亜美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

総合クラスであるこの授業では、会話練習を中心とした「敬語」と教科書の読みを中心とした「読解」の2つを軸として授業を行った。敬語は『初級が終わったら始めよう 新にほんご敬語トレーニング』、読解は『中級を学ぼう 日本語文型と表現 82』をテキストとした。敬語は1) 敬語を使った会話の穴埋め(何も聞かずに考える)、2) ディクテーション、3) 会話練習、4) 関連表現の学習という順で、読解は1) テーマについてのディスカッション、2) 新出語彙や文型の確認、3) 本文の精読という順で授業を行った。

1-2. 授業の内容

敬語は各回「誘う」「断る」「お詫びをする」「報告する」などのテーマの会話を学習した。13週目に集大成としてペアで作成したオリジナルの会話の発表会を行った。「就職の面接」「デパートの化粧品売り場」など場面における会話を発表した。読解では「病院の色」や「制服の是非」についての読み物を読んだ。各課の読解に入る前に語彙クイズを行い、読解のテーマに関する作文を課題として2回課した。

2. その他(特記事項)

本クラスは、2015年度まで「中級3 敬語」という授業であったが、コースの再編により2016年度から新しく開設されたものである。これまでの学習内容を引き継いだ敬語の学習と、新たに加えた読解教材の二本立てで四技能の総合的な力を伸ばすことを目的とした。同レベルで「専門読解」の授業があるため、読解教材は分野が重ならないものを選んだ。

3. まとめ・今後の課題

敬語に関して、授業外で敬語に接する頻度やニーズに個人差があり、関心の度合いや定着にかかる時間に差が見られた。実生活の中で使われている敬語を学生が自ら見つけてくるような活動なども今後は取り入れていきたいと考えている。読解教材は、本コースの中級2の次のクラスということを重視し、教材も中級2で使用している教科書に続くものを使用した。しかし、「上級クラスの1つ前のクラス」の教材としては、レベルや内容が適切かどうか不安が残る。コース全体の中でどのレベルの学生を対象とし、どのような学習内容にするべきか見極めていきたい。

中級3 聴解

2017年度 S1S2

- レベル : 中級3
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 19
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 132号室
- 学習目標 : 大学の講義やハンドアウトのある研究発表などのモノローグを聞く力をつける。
また、聞いた話を要約して書く、グループでディスカッションするなどの応用力を養う。
- 対象 : 中級2コースの修了者、日本語を500時間以上勉強した人、又は、JLPT N2相当
- テキスト : 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中上級）』スリーエーネットワーク
- 評価 : 教室活動10%、課題10%、中間試験40%、期末試験40%
1.以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
2.コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
3.中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1.単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード：学部FEN-JL4q10L1, 大学院3799-942-1.
2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 白井 直也 USUI Naoya
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション,レベルチェック
2	4/ 12	水	休講
3	4/ 19	水	L3
4	4/ 26	水	L9
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	L10
7	5/ 17	水	L13
8	5/ 24	水	L14
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	中間試験FB, L1
11	6/ 14	水	L4
12	6/ 21	水	L5
13	6/ 28	水	L6
14	7/ 5	水	L7
15	7/ 12	水	L8
16	7/ 19	水	学期末試験

中級 3 聴解

報告者：臼井直也

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中上級）』を使用し1課を1つの授業で進めるシラバスを組んだ。授業ではテキストの学習を行った後、講義をメモを取りながら聞き、まとめるための要約練習を行った。

1-2. 授業の内容

授業ではまず上記テキストの学習を行った。受講者のレベル差を協働で埋め、他の受講者とのコミュニケーションの機会を増やすために毎回グループでの活動を行わせた。グループ活動では、各問題に対して自分の答えとその根拠を述べることを行ったが、これは聴解と関連したディスカッションの技能向上を意図したものである。

テキストの学習後は同『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』の「中級」教材を用いて、講義を聞きながらメモを取り、メモを基に要約を構築する練習を行った。これは実際の大学の講義において必要となるノートテキング、そしてメモから講義内容を再構築する練習である。

2. その他（特記事項）

試験はテキストに準拠した形で行った。テキストには視覚情報（スライド）付きの課と視覚情報のない音声のみの課があるが、中間試験では前者を用い、期末試験では後者を用いた。なお、要約問題については中間・期末ともに新規問題を1問ずつ加えた。

3. まとめ・今後の課題

日本語での専門科目の受講の有無に関わらず受講者は初回から大きく減ることはなかった。これはこれまで以上に単位取得の受講者が多かったからだと考えられる。人数が多いとグループ活動も活発になることから受講者には好印象となり、結果的に受講の定着につながったのではないかと考えている。

これまでの授業アンケートでは「要約活動の意図が分からない」という回答が見られたので、コース開始時に位置づけの説明を行った。その後のアンケートには要約活動の意図については回答が見られないので、改善したのではないかとと思われる。一方で、前回のアンケートに見られた「授業がワンパターンである」という点については十分な改善をすることができなかった。引き続きの課題としたい。

中級3 会話

2017年度 S1S2

- レベル : 中級3
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2017/ 04/ 11 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 132教室
- 学習目標 : 留学生の実生活場面に結びついた多くの表現を学び、様々な状況を考え、話すことを通して、よりよい人間関係を築くための「伝える力」向上を目指す。また文化、社会性のあるテーマについて理解を深め、簡単な日本語でディスカッションできるようになる。
- 対象 : 中級2コースの修了者、日本語を500時間以上勉強した人、又は、JLPT N2相当
- テキスト : 日本語上級話者への道(スリーエーネットワーク)
- 評価 : 教室活動15%、ショートスピーチ15%、課題20%、中間テスト20%、期末テスト30% 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1)出席率70%以上 2)期末試験もしくは課題を受験 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4q20L1, 大学院 3799-943-2.
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
6. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
- 担当 : 片岡 さゆり Sayuri KATAOKA
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	オリエンテーション、L1 自己紹介
2	4/ 18	火	L2 きっかけを語ろう、キャンパス会話1
3	4/ 25	火	L3 なくした経験を話そう、キャンパス会話2
4	5/ 2	火	L7 言い換えて説明しよう①, 課題1 - ①
5	5/ 9	火	L7 言い換えて説明しよう②, 課題1 - ②
6	5/ 16	火	L8 比べてよさを伝えよう
7	5/ 23	火	中間プレゼンテーション
8	5/ 30	火	休講
9	6/ 6	火	L9 ストーリーを話そう, 課題2 - ①
10	6/ 13	火	L10最近の出来事を話そう, 課題2 - ②
11	6/ 20	火	L11 健康について話そう
12	6/ 27	火	ディスカッション1
13	7/ 4	火	ディスカッション2
14	7/ 11	火	ディスカッション3
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	最終プレゼンテーション

中級3 会話

報告者： 片岡 さゆり

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『日本語上級話者への道』（スリーエーネットワーク）を使用し、様々な状況において的確に話し、聞く力を向上させ、よりよい人間関係構築を図ることを目的として授業を行った。スピーチ、ペアワーク、小グループの会話を通してコミュニケーション能力を養うとともに、社会的テーマについて情報を収集し、ディスカッションする方法を実践的に学べるよう授業を進めた。

1-2. 授業の内容

コース前半では、実生活に結びついた場面での会話表現をブラッシュアップし、各自の課題に気づくこと、ショート・スピーチ「日本での経験」（毎回 2～3 人、各自 3 分）などを通してクラスのメンバーと理解し合うことを目的の一つとしながら、テキスト前半の内容を習得した。中間試験は「身近な物」（実験道具、楽器、自国にあって日本にないもの 等）について説明するプレゼンテーションを行い、これを評価した。

コース後半では、テキスト後半の内容習得に加えて、ディスカッションの表現を学び、いくつかの社会的なテーマを取り上げて小グループ、およびクラス全体でのディスカッションを行った。さらに、本学の「女子学生に対する家賃補助制度」について、新聞記事、雑誌記事、インタビューなどの情報収集を行い、制度の是非や効果について自分の意見を述べる準備を進めた。期末試験は、同テーマについての小グループディスカッションを行い、これを評価した。

2. その他（特記事項）

秋学期、春学期ともに受講希望者が予想以上に多く、中級後半レベルの会話を学習したいと考える学生が多数いることを改めて認識した。プレゼンテーションでは、全員が遂行するのには時間がかかったが、どの学生も最後まで意欲的に参加したことを特記したい。

3. まとめ・今後の課題

文法表現、発音については個々の学生に対して指導する時間が不足しがちである。受講人数の調整と指導方法の工夫が必要であると思われる。

中級3 専門読解

2017年度 S1S2

レベル	: 中級3
スキル	: 読解
開講期間	: 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 20
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部 広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。
対象	: 中級2の修了者、日本語を500時間程度勉強した人、又は、JLPT N2相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動20% クイズ20% 課題20% 読解教材20% 試験20%

以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。

- 1) 出席率70%以上
- 2) 期末試験もしくは課題を受験
- 3) コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
- 4) 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4q30L1, 大学院3799-944-1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
-----	---

担当	: 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826
----	---

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、見直される木造住宅 (建築)
2	4/ 13	木	見直される木造住宅 (建築)
3	4/ 20	木	機械工学を社会に広く役立てる (機械工学)、漢字クイズ1
4	4/ 27	木	次世代社会の基幹デバイス-リチウムイオン電池- (化学システム)、漢字クイズ2
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	計算機で地震に挑む (社会基盤)、漢字クイズ3
7	5/ 18	木	次世代インターネット実現へ-右手に研究、左手に運用を- (電子情報工学)、漢字クイズ4
8	5/ 25	木	次世代インターネット実現へ-右手に研究、左手に運用を- (電子情報工学)、復習
9	6/ 1	木	【中休み】
10	6/ 8	木	ロボットに意志は持てるか (情報学環)、漢字クイズ5
11	6/ 15	木	山崎宇宙飛行士インタビュー、漢字クイズ6
12	6/ 22	木	教材作成、漢字クイズ7

13	6/ 29	木	教材作成
14	7/ 6	木	教材作成フィードバック、修正
15	7/ 13	木	発表
16	7/ 20	木	期末試験

中級3 専門読解

報告者： 内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本授業では東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的とした。授業では、漢字クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、ディスカッション、要約作成、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、授業と同時進行で学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、読解教材を作成した。

1-2. 授業の内容

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学工学系日本語教室の講師あるいは過去の学生が作成したものである。様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。

授業と同時進行で行った読解教材作成は、3週目から課題を出し、課題1で記事と使用箇所決め（800字）、課題2でその記事を選んだ理由と要約、課題3で内容確認問題の作成、課題4で言葉リストの作成をし、少しずつ進め、その都度フィードバックをする方式を取った。最終的には教材作成に授業2コマを使用し、教室で「表現文法」、「ことば」、「話してみよう」などの残りの部分の作成をした。

2. その他（特記事項）

毎回読解教材でインタビューを読んだ先生が取り上げられているウェブサイトを読む課題を出し、読解練習をする機会を増やした。また、漢字・語彙クイズを行い、専門用語の定着を促進した。学期末には授業で扱った読解教材と初見の記事を含んだ期末試験を実施した。読解教材作成は、グループ発表の形式で行った。

3. まとめ・今後の課題

教材作成は記事選びから問題作成まで、教室外での学習が求められ、内容質問や表現文法の練習問題の作成など教材作成ならではの難しさもあり、負担が大きかった。しかし、最終的に読解教材を完成させることができた学生は5名と少なかったが、非常に完成度の高い教材を作成することができた。教材作成後のアンケートでも自分が選んだ記事を長期間に渡り読み、教材を作成していくことがその分野の理解と語彙の習得に効果的だったという声が多かった。

中級3 文章

2017年度 S1S2

- レベル : 中級3
- スキル : 文章
- 開講期間 : 2017/ 04/ 07 - 2017/ 07/ 21
- 時間 : 10:25 - 12:10 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 130教室
- 学習目標 : 日本語でレポート、研究発表要旨、論文などに必要な言い換え、書き換える表現や文章力を習得する。
- 対象 : 中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した学習者、又は、JLPT N2相当
- テキスト : アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習 (スリーエーネットワーク)
- 評価 : 教室活動10%、課題作文50%、中間試験20%、学期末試験20%
以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(2)認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部FEN-JL4q40L1, 大学院3799-945-1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分 以上の遅刻または早退は欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 栗田 奈美 KURITA Nami
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション 話し言葉から書き言葉へ 課題1 Due: 4/11 23:59
2	4/ 14	金	第一部 1課 書き言葉 課題2 Due: 4/18 23:59
3	4/ 21	金	2課 和語と漢語 課題3 Due: 4/25 23:59
4	4/ 28	金	3課 名詞化 課題4 Due: 5/2 23:59
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	4課 ジャンルによる使い分け
7	5/ 19	金	第二部 1課 長い文・複数の文 課題5 Due: 5/30 23:59
8	5/ 26	金	中間試験
9	6/ 2	金	中休み
10	6/ 9	金	2課 上位概念 課題6 Due: 6/13 23:59
11	6/ 16	金	3課 簡潔な表現 課題7 Due: 6/20 23:59
12	6/ 23	金	4課 含意・解釈 課題8 Due: 6/27 23:59
13	6/ 30	金	要約練習 課題9 Due: 7/4 23:59
14	7/ 7	金	要約練習 課題10 Due: 7/11 23:59
15	7/ 14	金	要約練習
16	7/ 21	金	学期末試験

中級 3 文章

報告者： 栗田 奈美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースでは、日本語でレポート、研究発表要旨、論文などを書く力をつけることを目標に、論文で使われる文型・表現を習得できるよう、さまざまな教材を使用して書く練習を行った。教科書には『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』を主教材として用い、その他の教科書などから、学習者のレベルに応じて必要な箇所を適宜抜粋して使用した。

1-2. 授業の内容

授業では、まず前回の課題からクラス全体で共有したほうがいいと思われる項目をフィードバックし、その後、教科書を使用して新規項目の導入、練習問題、グループワークでの確認作業、最後に教師によるフィードバックを行った。また、その回の学習事項の総復習となる問題を翌週までの課題とし、授業内で導入した項目の定着を図った。

2. その他（特記事項）

中間・期末試験では、教科書内の復習問題と、応用問題として時間内に要約をさせる問題を課した。非漢字圏で漢字に苦手意識を持つ学生が複数いたため、試験問題のルビを増やして対応した。

3. まとめ・今後の課題

全般に授業態度もよく、課題もしっかりこなす学生が多かった。本コースの受講者の大半は漢字圏の学生であったが、上記の 2 でも述べた非漢字圏で漢字に苦手意識を持つ学生が複数おり、配慮が必要であった。基本的には語彙を導入し、文章を書くコースであったが、学生間の協働作業を取り入れるなどして、文字に対するハードルを下げる工夫をした。

コース終盤は主教材を離れて要約練習を取り入れ、コースで学んだ内容を基に総合的な作文力向上を目指したが、比較的余裕のある学生にとっては、やや難易度が低かったように思われる。次学期に向けて、学習内容を精査したい。

また、新規の学生の中には日本語力は中級 3 レベルであっても、作文には慣れておらず、全体の構成まで考えて書くことができない学生も見られた。前半は話し言葉を書き言葉に書き換えるという練習に重きを置いたが、次学期は同時にまとまった文を書く際の文章構成等を意識した練習を取り入れたい。

上級 日本組織事情

2017年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : その他
- 開講期間 : 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 20
- 時間 : 10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 号室
- 学習目標 : 日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。
- 対象 : 中級3を修了した人、又はJLPT N1相当、学部3年生、修士1年生、2年生、博士2年生、3年生、交換留学生、USTEP
- テキスト : 自主教材
- 評価 : 教室活20%、課題45%、発表15%、クイズ20%
 1 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 2 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 3 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位_2_認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
 UT-mate コード : 学部 FEN-JL4r50L1, 大学院 3799-951-1.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある
- 担当 : 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 本村 理恵 MOTOMURA Rie
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 13	木	エントリシートの基本1、自己理解
3	4/ 20	木	日本の就職事情
4	4/ 27	木	エントリーシート対策 (*課題①自己アピール・*課題②学生時代に頑張ったこと) 2
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	エントリーシート対策 (企業・業界研究) 3
7	5/ 18	木	エントリーシート対策 (*課題③志望動機) 4
8	5/ 25	木	*課題④業界研究発表
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	敬語とコミュニケーション
11	6/ 15	木	メール、報告書の書き方
12	6/ 22	木	内定者・OB/OGの話を聞く
13	6/ 29	木	面接 (面接マナー) 1
14	7/ 6	木	面接 (個人面接) 2
15	7/ 13	木	面接 (グループディスカッション) 3
16	7/ 20	木	*学期末試験

上級 日本組織事情

報告者： 本村理恵・古市由美子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

就職やインターンシップのために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを養うことを目的に、キャリアカウンセラーの本村理恵講師と共に実践的な授業を実施した。就職活動スケジュールを考慮し、「就職支援」「ビジネスマナー」のコンテンツを半年間にまとめた。

1-2. 授業の内容

授業内容は、エントリーシートの書き方 3 回、業界研究発表 1 回、敬語やビジネスマールの書き方、最後に面接について、実践的な授業を実施した。エントリーシートは、自己理解、自己分析を通して、職業と自身の専門性を結びつけたキャリアプランについて検討した。「自己PR」、「学生時代頑張ったこと」を 400 字の課題とした。その後、業界・企業研究の方法を導入し、学生の発表を中間試験（課題）とした。A1A2 は受講者が多かったため、2 回に分けて業界・企業研究発表を実施した。企業研究に基づき、400 字の「志望動機」を課題にした。その後、ビジネス敬語、報告書の作成などに必要なビジネスマナーについての授業を行った。最後に面接について、「個人面接」「グループディスカッション」「グループ面接」の授業を 3 回行った。エントリーシートの添削は、文字だけではフォローできないため、口頭で具体的なアドバイスなど個別に対応した。学生の希望によっては、複数回の添削を行った。

2. その他（特記事項）

今年度は S1S2 と A1A2 の受講者数が大きく異なった。今年度の S1S2 は受講者数が少なく、目標が漠然としている学生が多かった。そのような学生は、エントリーシートの課題を負担に感じ、全種類を提出できないまま脱落してしまう傾向にある。一方、就職を本格的に目指す学生の履修が A1A2 に集中し、定員を大きく上回った。今後もこのような傾向が続くと考えられるため、来年度の A1A2 は 2 セクション展開を検討したい。

本講座に参加した先輩に内定者・OB/OG として講話会に参加してもらった。自らの経験や反省を踏まえての講話が、具体的で有益な情報を現役留学生に与えた。こうした OB/OG 講話会は学生からの評判が高く、先輩たちにとってもいい機会になるが、内定者や OB/OG のスケジュール確保が困難である。S1S2 では、異なる業種に内定した先輩 3 人がそれぞれの経験を振り返って後輩へのメッセージを紹介し、有意義な時間となった。

日本人学生授業ボランティアはディスカッションやロールプレイ練習の際、良い刺激となるため、継続的な参加を期待する。

上級 総合

2017年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2017/ 04/ 07 - 2017/ 07/ 21
- 時間 : 10:25 - 12:10 金曜日
- 場所 : 工学部 8 号館 88M教室
- 学習目標 : ビデオと文章を用いソーシャルメディアツールから自己発信をする。そのための聞き手に伝わりやすい、好印象を与える日本語について文化面も含めて考える。又「自律的な発音学習」ができるようになることを目指す。
- 対象 : 中級3コースの修了者、またはJLPT N1相当
- テキスト : 伝わる発音が身につく！にほんご話し方トレーニング(アスク)
- 評価 : 教室活動30%、課題30%、ソーシャルメディアへのアップロードと発表40%
 ●以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ●コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ●中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1.単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4r01L1, 大学院3799-952-1.
 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : ハワード 文江 HOWARD Fumie
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 14	金	ソーシャルメディアツールと注意事項 発音クリニック 1
3	4/ 21	金	発音クリニック 2
4	4/ 28	金	発音クリニック 3
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	発音クリニック 4
7	5/ 19	金	発音クリニック 5
8	5/ 26	金	中間試験—発表
9	6/ 2	金	休講【中休み】
10	6/ 9	金	自主教材 発音確認と内容についてのディスカッション 1
11	6/ 16	金	自主教材 発音確認と内容についてのディスカッション 2
12	6/ 23	金	自主教材 発音確認と内容についてのディスカッション 3
13	6/ 30	金	自主教材 発音確認と内容についてのディスカッション 4
14	7/ 7	金	ビデオ原稿
15	7/ 14	金	ビデオ—ビデオ上映と発表
16	7/ 21	金	学期末試験

上級 総合

報告者： ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『伝わる発音が身につく！にほんご話し方トレーニング』（アスク）を使用し自然な日本語の発音を学習し、更に『The Great Japanese 30 の物語—人物で学ぶ日本語』（くろしお出版）の各物語の発表を学生に分担してもらい、その発表内容に対する意見交換で得た考えを更に発表することで、総合的な力を養うことを目標に授業を行った。授業の進め方は、まず教科書の発音マークが付いた文章を正しく読む練習を行い、次にテーマに対し短い意見文を発音マークを付けて書き発表することで、正しい発音の定着を図った。次に人物の物語に対する発表を聞き、それに対する意見交換をグループに分かれて行った。

1-2. 授業の内容

物語のジャンルは「歴史」「経営」「芸術」「文学」「漫画/アニメ」「政治」「学者」と幅が広く、その人物の考え方や業績について、自国の文化や具体的な事例と比較しながら、発表を行ってもらった。発表には復習表現・文法を含ませる課題を与え、上級文法の復習を試みた。又発音は OJAD（オンライン日本語アクセント辞書）を事前に利用し、正しく発音できるように準備してもらうことで自律的な発音学習の定着を図った。

2. その他（特記事項）

発音学習の成果を学生自身が確認できるよう、中間ではまず各学生が担当した物語の意見発表をビデオ撮影し、そのビデオの発音と物語の意見に対し、クラス全員に評価をしてもらった。期末ではまず学生自身の物語を自己発信するためのビデオ撮影をしてもらい、更に 30 の物語から一人の人物を選び、発音マークの記入と意見発表をしてもらった。グループディスカッションでは就職活動中にインタビューを受けている設定で、意見交換をしてもらい、後半の僅か数回ではあったがボランティアの学生にもディスカッションに参加してもらい、積極的、実践的な意見交換が行われた。

3. まとめ・今後の課題

今期の学生登録数は開講時 33 名と多かったものの、一度も出席しなかった学生が 17 名と半数いた為、学生のレベル差は大きかったが、ニーズやレベルに合わせた対応を取ることが出来た。ビデオ撮影には事前準備に多くの時間が掛かる為、多忙な学生にとっては時間を作ることに困難があったが、結果的にはビデオ撮影は発音クリニックには非常に効果的で、又期末に作成したビデオは就職・進学に役立つ具体的成果になったという肯定的意見が多く得られた。今後は学生数により物語の発表の分担方法を考慮したい。

上級 聴解

2017年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2017/ 04/ 07 - 2017/ 07/ 21
- 時間 : 08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 123教室
- 学習目標 : 日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。
- 対象 : 中級3の修了者、又はJLPT N1相当
- テキスト : 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 上級』（スリーエーネットワーク）、NHKのニュースやドキュメンタリー番組。
- 評価 : 教室活動20%、課題20%、クイズ20%、中間試験20%、学期末試験20%
- 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。
 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
 学部 FEN-JL4r10L1 大学院 3799-953-1
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分 以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 鈴木 恵理 SUZUKI Eri
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 14	金	L1、聴解ストラテジー1
3	4/ 21	金	L2、聴解ストラテジー2、語彙クイズ (L1) 、課題1
4	4/ 28	金	L4、聴解ストラテジー3、語彙クイズ (L2) 、課題2
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	L5、聴解ストラテジー4、語彙クイズ (L4) 、課題3
7	5/ 19	金	L6、聴解ストラテジー5、語彙クイズ (L5)
8	5/ 26	金	中間試験
9	6/ 2	金	中休み
10	6/ 9	金	L8、聴解ストラテジー6、課題4
11	6/ 16	金	L9、聴解ストラテジー7、語彙クイズ (L8)
12	6/ 23	金	L10とL13、語彙クイズ (L9)
13	6/ 30	金	L11、聴解ストラテジー8、語彙クイズ (L10&13) 、課題5
14	7/ 7	金	L12、聴解ストラテジー9、語彙クイズ (L11) 、課題6
15	7/ 14	金	L14、聴解ストラテジー10、語彙クイズ (L12)
16	7/ 21	金	学期末試験

上級 聴解

報告者： 鈴木 恵理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

毎回、初めの 20 分間は、『聴くトレーニング 聴解・聴読解 応用編』（スリーエーネットワーク）の「パート 2」部分を使用し、推測、予測、情報の照合、情報の統合など聴解のストラテジー能力を身に付けるためのトレーニングを行った。

残りの時間で、『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 上級』（スリーエーネットワーク）を使用した。毎回、①聞く前に（トピックについて各国の状況などの話し合い）、②問題 A（内容理解の○×形式の問題）、③問題 B（内容理解の記述式の問題）、④問題 C（要約作文）、⑤問題 D（構成）の順番で、1 課ずつ進めた。課によって、「④問題 C（要約作文）」は、課題として翌週に提出させることもあった。また毎回、授業冒頭で前週の語彙についてクイズを行った。

1-2. 授業の内容

授業では、論理的・抽象的な内容についてのスピーチや解説を聞き、その内容を理解するだけでなく、それについての自分の考えをクラスメートに話したり、聞いた内容の構成を意識しながら要約文を書いたりした。

2. その他（特記事項）

初出の難解な語彙もたくさんあるが、前後の文章から予測したり推測したりして補うように促し、あとで皆で確認し定着を図った。学生から「このクラスを通じて、語彙力がついた」というフィードバックを受けた。このテキストを使用したのは初めてであったが、課によっては PPT のスライドを見ながら CD を聞く、聴読解の要素も盛り込まれており、アカデミック・ジャパニーズとして、レベル的にも内容的にも実用的な教材で、学生からも評判がよかった。

3. まとめ・今後の課題

学生は非常に熱心に授業に取り組んでいた。耳から聞いた日本語をただ理解するというだけでなく、社会的な問題や視点に関して、各国事情を踏まえた情報交換や意見交換ができる環境について、学生たちも意義を感じているようだった。今後も、文化背景の異なる留学生が集まるクラスの特徴を生かし、授業運営を考えていきたい。

上級 会話

2017年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2017/ 04/ 05 - 2017/ 07/ 19
- 時間 : 10:25 - 12:10 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 132教室
- 学習目標 : 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる会話技術を習得することを目指す。
- 対象 : 中級3の修了者、又はJLPT N1相当
- テキスト : なし 新聞や本、テレビ番組などの生教材を使用
- 評価 : 教室活動 30% 中間口頭発表 20% 期末口頭発表 30% 提出課題 20%
 ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率 70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 学部 FEN-JL4r20L1, 大学院 3799-954-2.
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 宮瀬 真理 MIYASE Mari
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション, 自己紹介
2	4/ 12	水	休講
3	4/ 19	水	好きなもの、大切なもの、興味があることについて語る
4	4/ 26	水	グループディスカッション トピック1
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	グループディスカッション トピック2
7	5/ 17	水	中間口頭発表 準備
8	5/ 24	水	中間試験(口頭発表)
9	5/ 31	水	中間試験(口頭発表)
10	6/ 7	水	グループディスカッション トピック3
11	6/ 14	水	グループディスカッション トピック4
12	6/ 21	水	インタビュー調査準備
13	6/ 28	水	グループディスカッション トピック5
14	7/ 5	水	グループディスカッション トピック6
15	7/ 12	水	学期末プレゼンテーション
16	7/ 19	水	学期末プレゼンテーション

上級 会話

報告者： 宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

受講生の関心のある内容や社会問題について、情報を得て話し合っただけで考えを深め、お互いの考えを理解し合い、同時に日本語のスキルも身に付けることを目指して授業を進めた。内容(content)、言語(communication)、思考(cognition)、協学(community)の4つのCを意識し、それを有機的に結びつけて、授業を組立てることにより、効率的で深いレベルの学習が起こるという CLIL の考え方をベースに授業を組み立て、内容の学習だけでなく、日本語学習だけでなく、高いレベルの日本語力と思考力を身に付けることを目指した。また受講生が自分自身や他の人の話し方やプレゼンテーション発表を客観的に評価できるように、教師と学生と一緒に目標・目指していく形を授業内で設定し、それを踏まえてお互いに評価しコメントをし合った。

授業の基本的な進め方は、まずビデオ視聴や記事読解からトピックに関する情報を得てグループで話し合い、または確認し合う。語彙がわからない場合はグループで語彙を確認する。次に最初のグループで話し合ったこと、または同じ記事を読んで理解し合ったことを、グループを替えて別の違うグループに紹介する。他のグループの話聞いて元のグループに持ち帰り、お互いが聞いてきたことシェアして、また話し合い、最終的にグループの考えをまとめてクラス全体に発表というジグソー法を取った。グループで話し合った内容は、付箋や模造紙に残してもらった。

1-2. 授業の内容

授業で話し合ったトピックは、『豊かさ』とは何か」「日本の若者の印象」「ブラックバイト」「いいプレゼンとは・プレゼンの評価基準を作る」「子どもの貧困問題/見えない貧困問題」「人工知能」など。NHKの「クローズアップ現代」やドキュメンタリー番組、朝日新聞の新聞記事を使用した。

2. その他（特記事項）

中間・期末の課題はプレゼンテーションとし、テーマについては、中間は「(わたしがよく知っている) みんなに伝えたいこと」、期末は「聞いたかったことを日本人に聞いてみたインタビュー」とした。各学生が選んだ発表内容は多岐に渡り、プレゼンテーション後の質疑応答も興味深かった。

ボランティアの日本人学生2人が毎回授業に参加してくれ、ディスカッションがより有意義なものになった。日本人学生からも学びが多かったとコメントをもらい、お互いが学び合える場が作れた。

3. まとめ・今後の課題

上級レベルといっても、中級を終えたばかりのレベルから、ネイティブスピーカーに近いレベルまで幅が広く、どのレベルに焦点を合わせて、レベル差にどう対応していくかが難しかった。

日本語スキル向上のためのステップを考えていきたい。

上級 読解

2017年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2017/ 04/ 11 - 2017/ 07/ 25
- 時間 : 08:30 - 10:15 火曜日
- 場所 : 工学部8号館 132号室
- 学習目標 : 新聞・エッセイ・小説など日本社会についてのさまざまな文章を通して、クリティカル・リーディング力をつける。
- 対象 : 中級3コースの修了者、またはJLPT N1相当
- テキスト : 『日本文化を読むー上級学習者向け日本語教材』（アルク）（抜粋）、自主教材
- 評価 : 教室活動15%、クイズ15%、課題20%、中間試験25%、期末試験25% 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1)出席率70%以上 2)学期末試験もしくは課題を受験 コース修了者には以下の基準で成績を付与する。
A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2 認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UT-mate コード：学部FEN-JL4r30L1, 大学院3799-955-2.
2. 修了証は成績がC以上の noncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
6. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
- 担当 : 片岡 さゆり Sayuri KATAOKA
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	オリエンテーション
2	4/ 18	火	第1課
3	4/ 25	火	第9課(1)、ことばクイズ
4	5/ 2	火	第9課(2)、ことばクイズ
5	5/ 9	火	第13課(1)、ことばクイズ
6	5/ 16	火	第13課(2)、ことばクイズ
7	5/ 23	火	中間試験
8	5/ 30	火	休講
9	6/ 6	火	第16課、ことばクイズ
10	6/ 13	火	自主教材①
11	6/ 20	火	自主教材②
12	6/ 27	火	クリティカル・リーディングセッション①
13	7/ 4	火	クリティカル・リーディングセッション②
14	7/ 11	火	クリティカル・リーディングセッション③
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	期末試験

上級 読解

報告者： 片岡 さゆり

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースは、週1回（1コマ105分）のコースである。『日本文化を読む』（アルク）より評論、エッセイ、小説など様々なスタイルの文章を読み、読解力を向上させるとともに、論点をさらに掘り下げられるような評論、および文学作品を自主教材とし、ディスカッションを行って授業を進めた。

1-2. 授業の内容

コース前半は、主に『日本文化を読む』（アルク）より多様なジャンルの文章を選び、原則として1～2回で1課を読んだ。各課に読解のためのタスクを用意し、授業内で活用したのち、語彙、短文の課題を含めて記述したものを提出してもらった。中間試験は既習の課に関する内容理解を確認する設問に加え、論述選択課題（800-1000字）を事前に通知し、試験時間に記述する形式を採用した。

コース後半は、テキストで取り上げた文章の内容をさらに深められる教材を用意し、社会背景や筆者の思想などについて理解を深め、互いの意見を交換することに重点を置いて授業を進めた。秋学期は「自然と人間」をテーマとして、内山節『自然と労働』（農山漁村文化協会）の抜粋を取り上げ、様々な分野の研究者が「自然と人間」についてどのように考察しているかをディスカッションした。春学期は文学作品の潮流に着目して芥川龍之介「鼻」（テキスト）、「蜘蛛の糸」および村上春樹の短編を取り上げてクラスで意見を出し合いながら読み進めた。期末試験は各学期の特色をふまえ、秋学期は中間試験に準じた形式とし、春学期は一作品を選んで各自が「どのような観点で読んだか」を論述し、発表する形式とした。

2. その他（特記事項）

春学期末発表では、「因果応報について」（「蜘蛛の糸」）、「出会いの描写について」（村上春樹 短編）など、各自の視点から興味深い発表が行われた。

3. まとめ・今後の課題

受講生はタスクを手がかりとして、根気よく読解に取り組み、ディスカッションでは積極的に意見を述べる姿勢が見られた。

コース後半では自主教材が中心となるため、テキストから取り上げる課は全体の三分の一程度になってしまう。今後は各教材の配分をさらに吟味し、テキストの選択、購入について改めて考える必要があると思われる。

上級 文章

2017年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 文章
- 開講期間 : 2017/ 04/ 06 - 2017/ 07/ 20
- 時間 : 08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M教室
- 学習目標 : 日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、書けるようになることを目指す。
また礼状や詫言状など改まった手紙やメールを書けるようになることを目指す。
- 対象 : 中級3コースの修了者、またはJLPT N1相当
- テキスト : 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク）
- 評価 : 教室活動20%、課題作文40%、中間試験20%、学期末試験20%
- 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
コース修了者には以下の基準で成績を付与する。
A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
学部 FEN-JL4r40L1 大学院 3799-956-1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分 以上の遅刻または早退は欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 鈴木 恵理 SUZUKI Eri
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、ミニ作文
2	4/ 13	木	第1課「作文の基本1」、フォーマルなEメール1、課題1
3	4/ 20	木	第2課「作文の基本2」、フォーマルなEメール2、課題2
4	4/ 27	木	第3課「課題の提示」、フォーマルなEメール3、課題3
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	第4課「目的の提示」、フォーマルなEメール4、課題4
7	5/ 18	木	第5課「定義と分類」、第6課「図表の提示」、課題5
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	第7課「変化の形容」、中間試験フィードバック、課題6
11	6/ 15	木	第8課「対比と比較」、第9課「原因の考察」、課題7
12	6/ 22	木	第10課「列挙」、第11課「引用」、課題8
13	6/ 29	木	第12課「同意と反論」、課題9
14	7/ 6	木	第13課「帰結」、課題10
15	7/ 13	木	第14課「結論の提示」
16	7/ 20	木	学期末試験

上級 文章

報告者： 鈴木 恵理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（アルク）を使用し、授業を行った。1) クイズ、2) 構成要素、3) 展開パターン、4) 文型と表現、5) 練習、6) 課題の順に、毎回、1 課か 2 課分を扱った。課によって、「6) 課題」を、宿題として翌週に提出あるいは、クラス全体で確認することもあった。

なお、開講当初の 4 回は、お礼のメール、お詫びのメール、就職活動の際の会社への問い合わせメールなど、改まったメールの書き方も合わせて扱った。

1-2. 授業の内容

授業では、学術的文章でよく使われる文型、表現、展開パターンを、序論、本論、結論のそれぞれのパート（課題の提示、目的の提示、定義と分類、図表の提示、変化、対比、原因の考察、同意と反論、帰結、結論の提示など）に分けて学んだ。テキストは、本編だけでなく、巻末の「文型・表現集（言い回しの一覧）」、「例文集（様々な分野の学術論文からの抜粋）」もその都度参照した。

2. その他（特記事項）

課題に取り組む前に、そのテーマに関する自分の意見を論理的に話す時間を設け、学生たちがより主体的に課題に取り組めるよう心がけた。

3. まとめ・今後の課題

出席人数は変動があったものの、出席している学生は、単位が不要な学生も含め、非常に熱心に授業に取り組んでいた。上級クラスに来る学生は、すでに多くの語彙や文型やコミュニケーションストラテジーを持っていて、だいたいのことをそれなりにやりこなすことができる。しかし本クラスを履修することで、年齢や立場、状況に見合った、より適切な配慮や表現を使った文章活動ができるよう、来学期もサポートしていきたい。

ビジターセッション・日本事情

2017年度 S1S2

レベル : 全レベルの学習者
スキル : 該当無し
開講期間 : 2017/ 04/ 19 - 2017/ 07/ 05
時間 : 13:00 - 14:45 水曜日
場所 : 工学部8号館 88L
学習目標 : 留学生と日本人のボランティアの方たちと共に留学生の出身地の文化、そして日本文化について様々な切り口から学ぶ。
 ・好きなトピックについて日本語で話ができる
 ・日本語や日本文化について知識のある人に質問できる
 ・授業ではないのでリラックスして日本語が使える
 ・少人数(2～3名) のグループでゆっくり話ができる
対象 : 全レベルの学習者
テキスト : なし
評価 : 単位なし
その他 : 学期の途中からでも参加できます。来られない週があっても大丈夫です。
担当 : 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 早坂 美和子 HAYASAKA Miwako
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 19	水	オリエンテーション 自由会話
2	4/ 26	水	自由会話
3	5/ 3	水	祝日
4	5/ 10	水	自由会話
5	5/ 17	水	自由会話
6	5/ 24	水	いけばなワークショップ
7	5/ 31	水	自由会話
8	6/ 7	水	自由会話
9	6/ 14	水	自由会話
10	6/ 21	水	自由会話
11	6/ 28	水	浴衣ワークショップ
12	7/ 5	水	自由会話

ビジターセッション&日本事情

報告者： 堀切 友紀子
早坂 美和子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

当日本語教室のボランティアの方に来ていただき、少人数のグループで自由なトピックで会話をした。今度も、秋山賢一さん、北林三枝子さん、篠崎いずみさん、田中勉さん、種子田實さん、寺田美奈子さん、橋本富美栄さん、松枝文恵さん、持丸文子さん、野城ゆうこさんの 10 名にご協力を頂いた。参加留学生は日本語教育を今学期始めた学生から、上級の学生まで全レベルに渡る学生が参加した。

1-2. 授業の内容

ビジターセッションでは、基本的に毎回異なったボランティアの方々と留学生たちそれぞれがペアやグループになったりして、様々な話題について日本語で話し合った。毎回のセッション終了時に、ボランティアの方及び参加留学生それぞれが簡単な報告書にその日に話し合ったことについて記した。

2. その他（特記事項）

S1S2、A1A2 それぞれ、下記の行事を開催した。

S1S2：華道体験(5/24)、尾車部屋力士訪問(6/14)、浴衣着付け体験(6/28)

A1A2：一葉式いけ花 家元によるデモンストレーション(11/8)、着付け(12/6)

これらの行事は、ビジターセッションに登録していない留学生も参加できるように枠を広げた。また、尾車部屋力士訪問、いけ花デモンストレーション以外は、イベントがある日にも同時進行で自由会話ができる部屋を別途確保し、ボランティアの方々及び留学生にも参加の選択肢を増やした。これにより、一定の参加者が確保できた。

3. まとめ・今後の課題

今回も自由会話セッションはもちろん、浴衣や着物のセッションは着物の歴史、着付け、作法などボランティアの方々に丁寧に指導して頂きながら学べる楽しいセッションとなっており、学生からの評判もよかった。また、今年度の特徴として例年よりも自由会話の学生参加・継続率が高かったことが挙げられる。学生からは1学期を通して様々なボランティアの方々と会話を深めることができたという声があった。末筆ながらボランティアの方々のご尽力に心から感謝を申し上げたい。

*2003 年より長きに渡りボランティアとして留学生の為に貢献されました種子田實様
がご逝去されました。心からの感謝と共に哀悼の意を表します。

チュートリアルセッション

報告者： 栗田 奈美

1. 概要

日本語教室では、通常の授業では対応できない学習者ごとのニーズに合わせ、教員が個別指導を実施することで、自律学習を支援している。概要は以下の通りである。

目的： 留学生の個別日本語学習支援

対象： 工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

指導内容：日本語学習全般に関する支援

- ・ 論文、レポート、研究計画書の添削
- ・ エントリーシート、奨学金申請書類の添削や面接の練習
- ・ 日本語能力試験対策指導
- ・ 日本語学習方法アドバイス
- ・ 既習事項の確認 など

2. 実績

今年度は中上級レベルの学習者を対象に、2017A1A2 のみ開講した。実績は以下の通りである。

開講日時：2017A1A2 (10/20-1/26) 毎週金曜 第3時限目 (13:00-13:45/14:00-14:45)

時間： 1回 45分

利用件数：9件

指導内容：就職活動	4件
奨学金申請	3件
日本語能力試験対策	1件
既習事項の確認	1件

3. まとめ・今後の課題

利用可能枠が週に2枠（各45分）のみだったため、対象を日本語での就職活動等が想定される中上級レベルに絞って周知を行った。また、限られた時間内で最大限の効果を上げるために、見てもらいたい資料がある場合は事前提出を徹底したため、効率的な指導が実現し、利用者の満足度も高かったようである。

個別指導に対する潜在的なニーズはまだ高いと思われるため、利用可能枠を増やし、レベルを限らずに周知を行い、誰もが利用できるようにすることで、専門の研究に忙しい大学院生にとって大きなメリットになるものと考えられる。

冬季日本語特別集中科目1

2017年度 冬季集中

- レベル : 初級2
 スキル : 総合
 開講期間 : 2018/ 02/ 06 - 2018/ 03/ 01
 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
 10:25 - 12:10 木曜日
 場所 : 工学部8号館 123教室
 学習目標 : 初級の前半の46文型を習得し、総合的な日本語能力を養成する。日本語能力試験 N5相当の漢字を約60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
 対象 : 初級1の修了者、日本語を40時間程度勉強した人
 ひらがな、カタカナの読み書きができる人、JLPT N5 相当
 テキスト : 『大地 I メインテキスト』 (スリーエーネットワーク)
 『大地 I 文型説明と翻訳』 (スリーエーネットワーク)
 『にほんごチャレンジN4-5 (かんじ)』 (アスク)
 評価 : 期末試験30%、語彙クイズ20%、漢字クイズ10%、文法クイズ15%、課題20%、
 教室活動5%

以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。

- 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験

コース修了者には以下の基準で成績を付与する。

A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%

期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

- その他 : 1. 単位1認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 4. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

担当 : 栗田 奈美 KURITA Nami
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	2/ 6	火	オリエンテーション, L13
2	2/ 8	木	L14,15 語彙クイズL14,15 漢字クイズL6
3	2/ 13	火	L16,17 語彙クイズL16,17 漢字クイズL7 文法クイズ (辞書形)
4	2/ 15	木	L18,19 語彙クイズL18,19 漢字クイズL8 文法クイズ (て形)
5	2/ 20	火	【8:30-10:15】 L20,21 語彙クイズL20,21 漢字クイズL9 文法クイズ (ない形)
6	2/ 22	木	【8:30-10:15】 L22 復習 語彙クイズL22 漢字クイズL10 文法クイズ (普通形)
7	2/ 27	火	休講
8	3/ 1	木	期末試験 漢字クイズL11

冬季集中講座 1

報告者： 栗田 奈美

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

当該コースは工学系研究科日本語教室初級 2 レベル相当の集中コースで、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の L13～22 を 7 日間で扱った。具体的には 105 分 1 コマの授業を週に 2 回（火曜日、木曜日）合計 7 コマ実施した。授業時間を最大限に活かすため、新出語彙の予習、文法の復習、及び漢字学習を自宅学習とし、1 コマ 2 課のペースで授業を進めた。以下は授業外学習と教室活動内容である。

【予習】 語彙学習（授業で扱う課の語彙を学習し、クイズに備える）

漢字学習（漢字シートを使って毎日漢字を 10 ずつ自習し、クイズに備える）

【教室活動】 文型導入および運用練習

【復習】 文法学習（文型練習問題を課題として配付。動詞の活用を復習し、クイズに備える）

1-2. 授業の内容

次の流れで授業を行った。

20 分 課題提出、語彙クイズ（当該課）、漢字クイズ、文法クイズ（前回の学習内容）

75 分 当該課文型導入、内容確認質問と応答、各文型を基にした運用練習

10 分 学習内容の確認、宿題確認

2. その他(特記事項)

コースを修了した学生のうち、希望する受講生には全員単位を付与した。また、当該コース修了学生には通常の日本語コースにおける次レベルのコース受講資格が与えられるため、通常コースと授業内容を揃えるよう努めた。

3. まとめ・今後の課題

通常の学期では 28 コマをかけて学ぶ内容を 7 コマで修了するコースであったため、予復習を含め、学生の負荷はかなり高かったものと思われるが、受講した 6 名が最後までよく努力し、全員修了できたことは賞賛に値する。コース終了後のアンケートでは、短期間で集中的に効率よく学ぶことができる当該コースに満足し、一定の評価をする一方で、進度が速すぎるという指摘も複数見られた。具体的には「学習内容が消化しきれない」「語彙を十分に覚える時間がない」「授業の間に 1 日しかないと言復習が間に合わない」「クイズではいい点数が取れても、数日後には忘れてしまう」「忙しい研究者には向いていない」等である。

学生が指摘する通り、学生自身のかんりの努力により、学習項目は概ね理解されたものの、運用練習の時間が十分には取れなかったため、表現や語彙が日常生活で利用できるレベルまで定着したとはいえない。新学期から次のレベルのコースに進んだ学生が、十分にクラス活動についていける実力がついたかどうか、今後注意して見ていく必要がある。授業内容については学生からの評価も高く、学期休み中の集中コースのニーズもあるだけに、次年度からは授業コマ数の増加や授業開設曜日の調整を図ることで、さらに満足度の高いコースとして発展していけるものと思われる。

冬季日本語特別集中科目2

2017年度 冬季集中

- レベル : 初級3
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2018/ 02/ 06 - 2018/ 03/ 01
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M
- 学習目標 : 初級後半の文型と語彙を習得し、総合的な日本語能力養成する。日本語能力試験 N4相当の漢字を約60字習得する。研究生活での基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : 初級2の修了者、日本語を100時間程度勉強した人、又はJLPT N5相当。
- テキスト : 『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験対策 にほんごチャレンジ N4-5 【かんじ】』（アスク出版）
- 評価 : 学期末試験30% 語彙クイズ20% 漢字クイズ10% 文法クイズ10% 課題25%
教室活動5%
- ・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。
 - 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
 - ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 - ・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位あり（1単位）
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
4. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 堀切 友紀子 HORIKIRI Yukiko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	2/ 6	火	オリエンテーション, L23
2	2/ 8	木	L24, L25, 語彙クイズL24, L25, 漢字クイズ L1
3	2/ 13	火	L26, L27, 語彙クイズL26, L27, 漢字クイズ L2, 文法クイズ(可能形)
4	2/ 15	木	L28, L29, 語彙クイズL28, L29, 漢字クイズ L3
5	2/ 20	火	8:30-10:15 L30, L31, 語彙クイズL30, L31, 漢字クイズ L4
6	2/ 22	木	8:30-10:15 L32, 語彙クイズL32, 漢字クイズ L5, 文法クイズ(意向形)
7	2/ 27	火	休講
8	3/ 1	木	期末試験, 漢字クイズ L6

冬季集中講座 2

報告者： 堀切 友紀子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

当該コースは、工学系研究科日本語教室初級 3 レベル相当の集中コースで、『大地 2』（スリーエーネットワーク）の L23～32 を 7 日間で扱った。具体的には 105 分 1 コマの授業を週に 2 回（火曜日、木曜日）合計 7 コマ実施した。基本的には授業時間を最大限に活かすため、新出語彙の予習、文法の復習、及び漢字学習を自宅学習とし、1 コマ 2 課のペースで授業を進めた。以下は授業外学習と教室活動内容である。

【予習】 語彙学習（授業で扱う課の語彙を学習しクイズに備える）

漢字学習（漢字シートを使って毎日 10 個ずつ漢字を練習し、クイズに備える）

【教室活動】 文型導入、会話練習および運用練習

【復習】 文法学習（当該課の文型練習問題を課題として配布。教員の採点後返却。）

1-2. 授業の内容

次の流れで授業を行った。

15 分 課題提出、語彙クイズ（当該課）、漢字クイズ

80 分 当該課文型導入、内容確認質問と応答

各文型を基にした運用練習、応用練習

10 分 学習内容の確認、宿題確認

2. その他(特記事項)

当該コースは集中コースという性質上、通常コースでは 1 課を 2 コマで扱うのに対して、2 課を 1 コマで扱うという 4 倍のスピードで学習を進めた。このスピードについていくためには、十分な自己学習の時間の確保が必須となるため、授業開始時のオリエンテーションについてもその旨を確認してコースを開始した。履修者 9 名のうち 8 名が終了したが、彼らの授業外学習時間を調査したところ 2～3 時間(4 名)、4～5 時間(2 名)、6～7 時間(1 名)という結果となり、現状のスピードでの学習にはかなりの自己学習が必須であることが改めて明らかとなった。

一方で、コース修了後のコース評価においては、「運用練習をもっとしたかった」、「短期間に覚えることが多いためすぐに忘れてしまう」、「会話に特化したクラスもあると良かった」などの意見が見られた。加えて 7 回の授業のうち、シラバスの都合上 1 コマで 1 課のペースで進めた授業の際には、「このぐらいのペースがちょうどいい」という声が聞かれた。

3. まとめ・今後の課題

受講者からのアンケートから、授業の開講時間が早かったこと及びペースが速かったことが今後の改善点として挙げられるが、集中コース自体には概ね満足していることが伺えた。ただ、語学学習の特徴を考えた際に、短期間で知識・情報を詰め込んでもそれが運用に繋がらなければ意味がないので、今後のコース運営においては通常コースの 2 倍のスピードとし、その中に運用練習を盛り込んで行くことが妥当ではないかと思われる。

2.5 受講者と修了者

2017 年度に実施した S1S2、A1A2 の受講者と修了者について報告する。

図 2 は 2011 年度から 2017 年度までの年度別延べ数および実数の受講者数推移である。2011 年度と比較し、2017 年度は約 2 倍である。受講者のニーズを踏まえた日本語科目のカリキュラムの改善と 2015 年度の日本語科目の単位化が浸透してきたことにより、受講者が急増している。前年比では、延べ数 141 名、実数 19 名減少している。これは 2017 年度から STAR（登録・管理システム）を都市工学日本語教室とシステム創成系日本語教室と共有し、受講者のバランスを図ったためである。

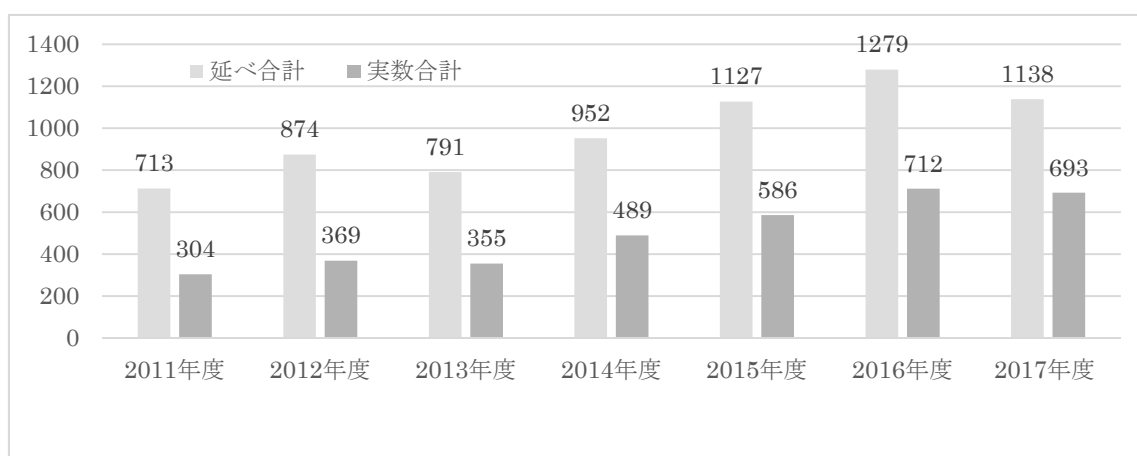


図 2 年度受講者数推移

2.5.1 S1S2受講者

S1S2の受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室受講者

工学系研究科の受講者が占める割合は 63% である。近年、他研究科、全学交換留学生が増加している。全学交換留学生(延べ数)の単位申請者が工学系の単位申請者より多いことは特筆すべきである。

身分別では、修士(延べ数:157 名、実数 92 名)が最も多く、研究生(延べ数:157 名、実数:44 名)博士(延べ数:157 名、実数:44 名)と続く。全学交換留学生、大学院特別聴講学生、学部特別聴講学生の交換留学生を合計すると延べ数が 117 名、実数 67 名で、近年、交換留学生が増加傾向にある。

専攻別では、建築学専攻が最も多く、機械工学、技術経営戦略専攻と続く。

国籍は、中国が 37% を占めている。合計 51 カ国で、上位 6 位にアジア(中国、タイ、韓国)3 カ国と、欧米(フランス、ドイツ、英国)3 カ国となった。アジア 3 カ国は正規生が多く、欧米 3 カ国は交換留学生が多い。

表2 研究科別・レベル別受講者数

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科	51	30	55	69	53	53	311(33)	193(27)
②情報理工学系	6	12	4	14	7	6	49(27)	34(19)
③新領域研究科	0	0	0	0	1	3	4 (3)	2(2)
④全学交換留学生	8	2	6	12	13	24	65(59)	30(26)
⑤他研究科	2	2	21	29	28	19	101(21)	46(15)
合計①～⑤	67	46	86	124	102	105	530(143)	305(89)

()内は単位申請者数

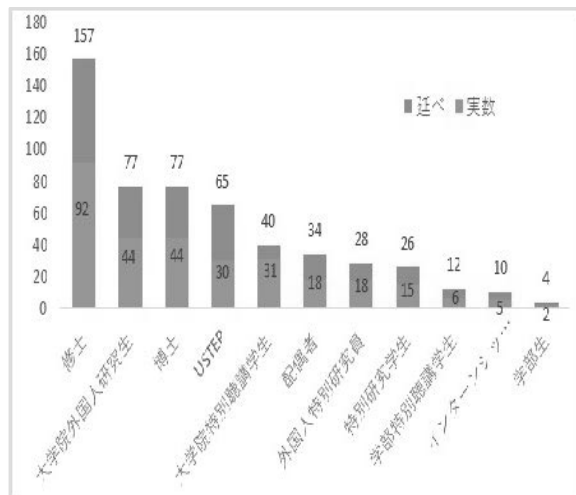


図3 身分別受講者数

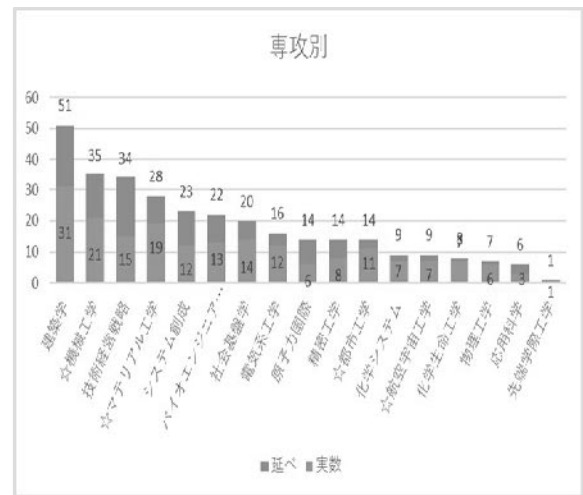


図4 専攻別受講者数

☆修了単位として認める専攻

表3 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	合計	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	
1	中国	7	8	25	56	61	55	212	114
2	フランス	5	5	8	17	4	3	42	23
3	タイ	0	3	9	19	0	2	33	14
4	韓国	2	1	0	1	7	15	26	12
5	ドイツ	8	3	1	0	4	4	20	14
6	英国	3	1	0	5	4	4	17	8
7位～51計		40	27	43	26	23	21	180	120
合計		65	48	86	124	103	104	530	305

2) 専攻日本語教室受講者

表 4 は工学系内の専攻日本語教室の S1S2 の受講者である。

2017年度 S1S2 より、都市工学日本語教室とシステム創成系日本語教室と STAR(Student Tools for Access and Review) システムを共有し、日本語コースの登録を開始した。STAR を共有することによって、日本語コースレベルの統一ができ、受講者数のバランスが改善されつつある。都市工学日本語教室は、都市工学専攻の留学生より他専攻の留学生のほうが多い。専攻日本語教室の受講者数は下記のとおりである。

表 4 S1S2 専攻日本語教室受講者数

専攻 \ レベル	初級 I	初級 II	中級	計
社会基盤学	8	22		30
都市工学	都 0・工 7	都 1・工学 5	都 1・工 1	都市 2・工学 13
システム創成系			シスソ 6・工 3	シスソ 6・工学 3
IME			5	5

2.5.2 S1S2 修了者

S1S2修了者について報告をする。

1) 工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室の修了者は延べ 241 名、実数 154 名である。単位取得者は、延べ 116 名、実数 70 名である。修了者割合は 50%で、近年 5 割前後の横ばいが続いている。研究科別では、工学系研究科の修了割合は 42%で、単位取得率が平均より低い。一方、全学交換留学生の修了者割合は 9 割を超え、単位取得率が非常に高い。

身分別では、修士、全学交換留学生の修了者が多く、国籍では 38 カ国の留学生が終了している。修了者は中国が 52 名、ドイツ 10 名、タイ 9 名、フランス 9 名と続く。

表 5 研究科別・レベル別修了者 () 内は単位取得者

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	修了者 延べ数	修了者 実数
①工学系研究科	30	8	20	27	13	12	110(22)	82(18)
②情報理工学系	3	7	3	12	5	5	35(24)	23(17)
③新領域創成学	0	0	0	0	1	1	2(2)	1(1)
④全学交換留学生	7	2	6	12	14	19	60(54)	28(24)
⑤他研究科	1	0	8	12	12	1	34(14)	20(10)
①～⑤ 合計	41	17	37	63	45	38	241(116)	154(70)

2) 専攻日本語教室修了者

専攻日本語教室の修了者数は、以下のとおりである。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、終了要件の単位として2単位が付与される。社会基盤専攻は受講者のほとんどが単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は1コマ2単位が付与されるが、共に単位取得数は多くない。

表6 専攻日本語教室修了者数 () 内は単位取得者

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	個人指導	合計
社会基盤学	22 (22)	10(8)			32(30)
都市工学	都1・工4	都1・工3	都1・工1		11(3)
	(1)	(0)	(2)		
システム創成系			シ5・工3		8(0)
			(0)		
IME			4	予約制	4

2.5.3 A1A2受講者

A1A2の受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室受講者

2017年度A1A2は6レベル、31コースを開講した。受講者は延べ数606名、実数388名である。昨年度A1A2と比較すると、延べ数168名、実数28名減少している。研究科別に見ると、工学系、情理、新領域の学生が減少し、全学交換留学生、他研究科（公共政策大学院14名、経済学10名など12の研究科）が増加している。工学系研究科の受講生が占める割合は68%ある。レベル別では、今学期は例年より初級Ⅰレベルの受講者が多かった。

身分別に見ると、圧倒的に修士が多く、博士、全学交換留学生、研究生と続く。全学交換留学生と学部特別聴講学生が46名で、研究員、配偶者、インターンシップ生など多様な身分の受講者が存在する。

専攻別に見ると、今学期も17専攻の留学生が受講し、その中で機械工学、建築学がそれぞれ約1割を占め、電気系工学、マテリアルと続く。修了要件が認められている専攻の学生は単位取得率が高い。

国籍別では46カ国だった。中国が193名で約半分を占める。特に中級以上のコースで中国の受講者が多く、上級は中国人学生が大部分である。以前よりこうした傾向があったが、今学期はそれが顕著である。近年は台湾、タイに続き、フランス、ドイツからの交換留学生も一定数を占める。

表 7 研究科別・レベル別受講者数

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上 級	延べ数	実数
①工学系研究科	71	40	86	64	49	91	401	263
②情報理工学系	11	2	3	16	9	10	51	31
③新領域創成学	0	0	1	0	1	0	2	2
④全学交換留学生	19	4	14	3	4	26	70	43
⑤他研究科	7	3	6	20	24	22	82	49
合計①～⑤	108	49	110	103	87	149	606	388

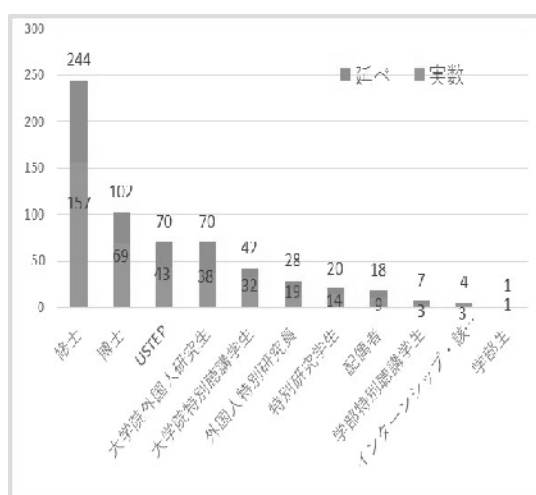


図 5 身分別受講者数

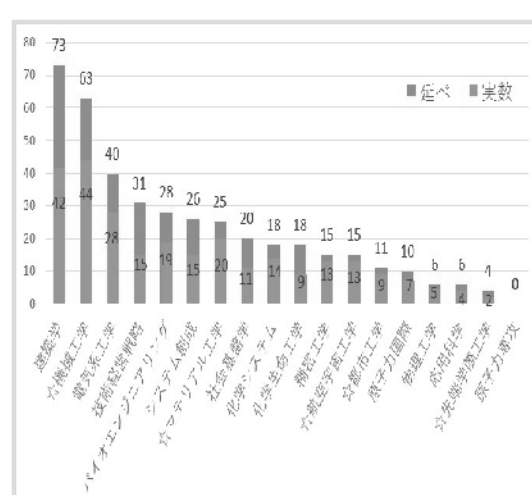


図 6 専攻別受講者数

表 8 国籍別・レベル別受講者数

	レベル 国籍	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	合計	実数
		延べ	延べ	延べ	延べ	延べ	延べ	延べ)	
1	中国	32	13	55	61	49	112	322	193
2	台湾	3	3	6	3	9	7	31	20
3	タイ	3	2	1	10	10	0	26	16
4	フランス	8	2	5	1	9	0	25	16
5	ドイツ	7	2	6	7	0	0	22	14
6	韓国	2	0	3	1	0	11	17	9
7 位～51 位計		53	27	34	20	10	19	163	120
合計		108	49	110	103	87	149	606	388

2) 専攻日本語教室受講者

2017 年度より都市工学、システム創成系日本語教室は、工学系日本語教室のオンライン登録システム「STAR」を共有することによって、専攻日本語教室における工学系の受講者が増加している。

表 9 A1A2 専攻日本語教室受講者数

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	個人指導	合計
社会基盤学	26 (25)	6(5)	—	—	32(30)
都市工学	都 5・工 14	都 1・工 2	都 1・工 4	—	27(15)
	(12)	0	(3)		
システム創成系	シ 8・工 1	—	シ 6・工 8	—	23(5)
	(1)		(4)		
IME	—	2		予約制	2

○システム創成系の初級は 3 月まで開講 () 内は単位希望者

2.5.4 A1A2 修了者

A1A2 の修了者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室修了者

A1A2の修了者数は実数212名、延べ数303名で、修了者の割合は実数：約55%、延べ数：50%である。工学系の単位取得率は45%だが、全学交換留学生の単位取得率は約9割と高い。専攻別では、単位が修了要件として認められた専攻の単位取得率が高く、身分別では単位化に伴い、修士が圧倒的に多く、次に、全学交換留学生と続く。国籍別では中国が92名で修了者の約5割を占め、台湾、フランス、タイ、ドイツと続く。

表10 研究科別・レベル別修了者

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科	37	16	33	34	25	31	176(80)	127(59)
②情報理工学系	9	1	1	9	0	4	24(21)	17(15)
③新領域研究科	0	0	1	1	1	0	3(3)	2 (2)
④全学交換留学生	15	4	12	3	4	27	65(64)	39(38)
⑤他研究科	6	1	0	12	10	6	35(22)	27(17)
合計①～⑤	67	22	47	59	40	68	303(190)	212(131)

2) 専攻日本語教室日本語教室

専攻日本語教室の修了者数は、以下のとおりである。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、終了要件の単位として 2 単位が付与される。社会基盤専攻は受講者のほとんど

が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は 1 コマ 2 単位が付与されるが、システム創成系専攻の受講者の取得率は高くない。

表 11 A1A2 専攻日本語教室日本語教室修了者

専攻	初級 1	初級 1	中級 2	個人指導	合計
社会基盤学	19(18)	13(12)	—	—	32(30)
都市工学	都 5・工 10	都 1・工 1	都 1・工 4	—	22(12)
	(9)	(0)	(3)		
システム創成系	シ 6・工 1	—	シ 5・工 5	—	17(3)
	(0)		(3)		
*IME	—	—	2	予約制	2

() 内は単位取得者 *IME・個別指導は利用者数の延べ人数。修了者数は対象外

2.5.5 冬季日本語特別集中講座 1・冬季日本語特別集中講座 2 の開講

今学期は 2 月 6 日～3 月 1 日まで計 7 回の特別集中講座を 2 レベルで実施した。マサチューセッツ工科大学交換留学生および工学系研究科日本教室 2017A1A2 の当該コースレベルの学生を対象とした。受講者と修了者は下記のとおりで、2 コースともに全員が修了した。

- ・冬季日本語特別集中講座 1 (初級 2 レベル相当) : (6 名受講/6 名修了)
- ・冬季日本語特別集中講座 2 (初級 3 レベル相当) : (8 名受講/8 名修了)

2.6 日本語教室のコース評価

日本語教室では、2013 年度冬学期よりオンラインコース評価を学期末に実施している。
2017 年度 A1A2 学期は、下記の通りコース評価結果を実施した。

1) 2017 年度 A1A2 学期オンラインコース評価概要

- 実施期間 : 2018 年 1 月 10 日(水)～1 月 26 日(金)
- 対象者 : 日本語教室在籍の研究生、修士、博士、研究員、交換留学生、配偶者
- 回答者 : 計 136 名
- 実施言語 : 英語
- 質問項目 : 1. 回答者身分
2. コースの目標は明確だった
3. 授業のスピードは適切だった
4. 講義内容は分かりやすかった
5. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた
6. 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった
7. 当該コースの内容は自分にとって将来役に立つと思う
8. 当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか
9. 当該コースに出てどんなことができるようになったか
10. 当該コースについての自由記述
11. 履修登録の手続きは分かりやすかった
12. 上記 11 の理由 (自由記述)
13. プレシメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた
14. プレシメントテストに関するコメント (自由記述)
15. ボランティアの学生が授業に入ってよかった
16. 上記 15 の理由 (自由記述)
17. 日本語教室に期待していること

2) 結果の概要

実施したコース評価の項目は、主に①授業内容について (上記質問 2～10)、②履修登録について (同 11～14)、③その他 (同 15～17) であった。以下、この 3 点についての結果の概略を報告する。

①授業内容について

コース評価の該当項目の回答において、コース目標の明確さ、授業スピードの適切さ、講義内容の分かりやすさ、担当教員の熱意に関しては、全ての項目において回答者の 9 割以

上が「そう思う」「強くそう思う」と回答していた。これは、初級～上級の全てのレベルにおいて、学習者が概ねその学習内容・形式に満足していることが窺える。

特筆すべき結果としては、当該授業科目の予習復習にどのぐらい時間を使ったかという項目において、初級・中級前半・中級後半～上級において下記の通り差異が見られた。

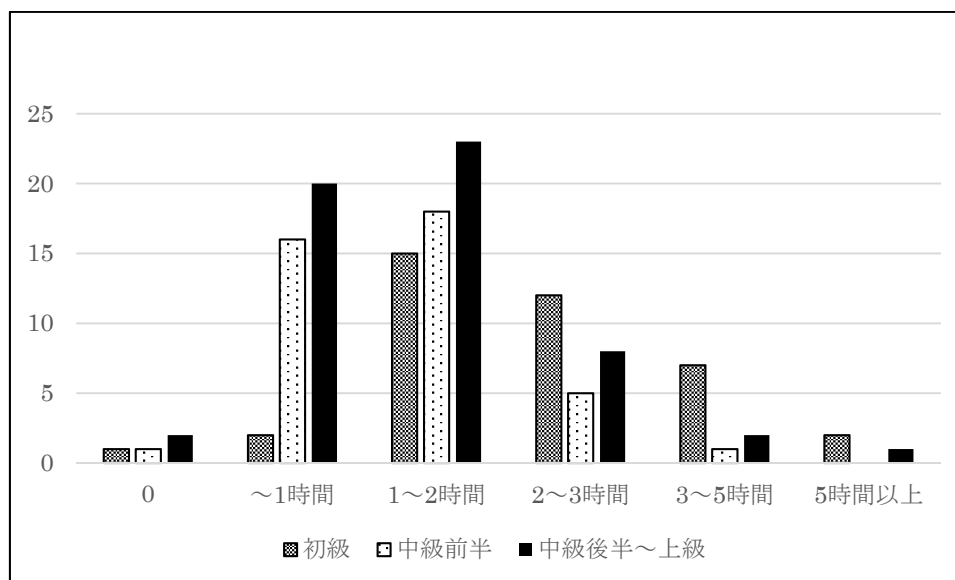


図 7 1 週間で予習・復習に充てた時間

図 7 の通り、初級の学生においては 1 週間あたり 1～5 時間を当該コースの予習・復習に充てたと回答した学生が主だったのに対し、中級前半及び中級後半～上級の学生となると、1～2 時間もしくは 1 時間未満と回答した学生が大部分であった。これは、中級以上になるとコース編成がスキル別（聴解、読解、会話、作文等）に細分化され、1 つのコースにかかる時間が少なくなることが 1 つの要因として考えられる。また、日本語学習が習慣化されることにより予習・復習が効率化された可能性も考えられる。

一方で、物理的な制約が多い工学系の研究生・大学院生にとっては、日本語学習の入り口である初級レベルにおいて平均 2～3 時間程度の学習時間を確保できるかどうか、その後の日本語学習継続を決定付ける一因となっている可能性ある。その場合、初級コース運営においては効率的な日本語学習に加えて、学習者自身の学習動機を高めることをより意識化することが重要である。今回のコース評価において、授業を受けて学習意欲が高まったかという項目については、9 割の回答が「そう思う」「強くそう思う」であったが、具体的な内容や程度については今回は調査の対象とはなっていない。

以上のことから、現状の日本語教室のコース全般については授業内容に大きな問題はなく学生は概ね満足しているということに併せて、初級コースにおいて学習者の学習動機を高めることを目的とした活動形態や課題などを引き続き検討していく余地があると言える。

②履修登録について

日本語教室で日本語学習をするためには、全員が必ず STAR システムに登録をしたうえで履修登録を行うことが必要である。2014 年よりオンラインプレイスメントテストを開始し、履修登録に係る作業を全て各自が STAR オンライン上で行うことになり、毎学期事に調整を行っているため、その手続きや結果について調査を行った。

その結果、図 8 の通り、9 割以上の学生が「履修の手続きは分かりやすかった」「適切なレベルのコースを履修することができた」と回答していた。このことから、現状の履修登録及びプレイスメントテストの手続きにおいて、大規模な改修が必要な問題はないと考えられる。今後もプレイスメントテストの精緻化、及び履修登録の簡易化もしくは明確化を目的とした調整を続けていく予定である。

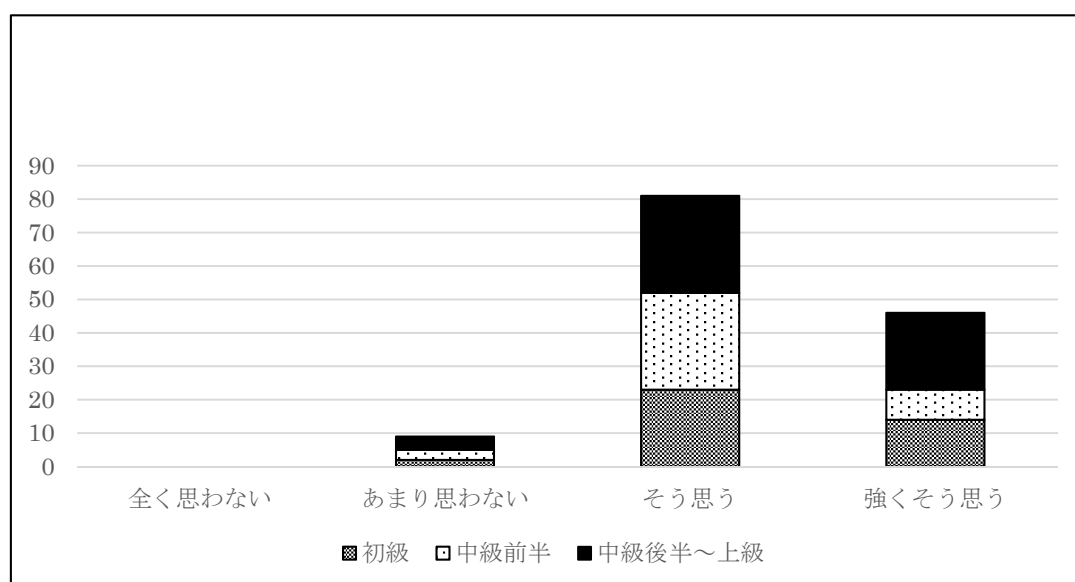


図 8 プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができたか

③その他

コース評価の項目として、日本語教室に期待していることは何かを調査した。その結果は図 9 の通りである。これを見ると、初級・中級前半・中級後半～上級の全てのレベルにおいて、やはり日本語学習を期待していることが分かる。

また、特筆すべき事項として、中級後半～上級においては、日本語学習と同程度の割合で、大学生生活・就職などの日本語支援を期待していることが挙げられる。これは、日本語レベルが高い学生ほど、日本語で大学生生活及び就職活動を行うことを目的としており、そのための日本語支援のニーズがあることを表している。このことから、これまでも断続的に開講してきたチュートリアルセッションの今後の位置づけ及び開講形式などを検討する意義があると考えられる。

さらに、日本文化体験、日本人学生との交流、留学生との交流も一定数の学生が期待していることが明らかになったため、学生の期待に応えられる交流活動の検討・運営を行って行きたい。

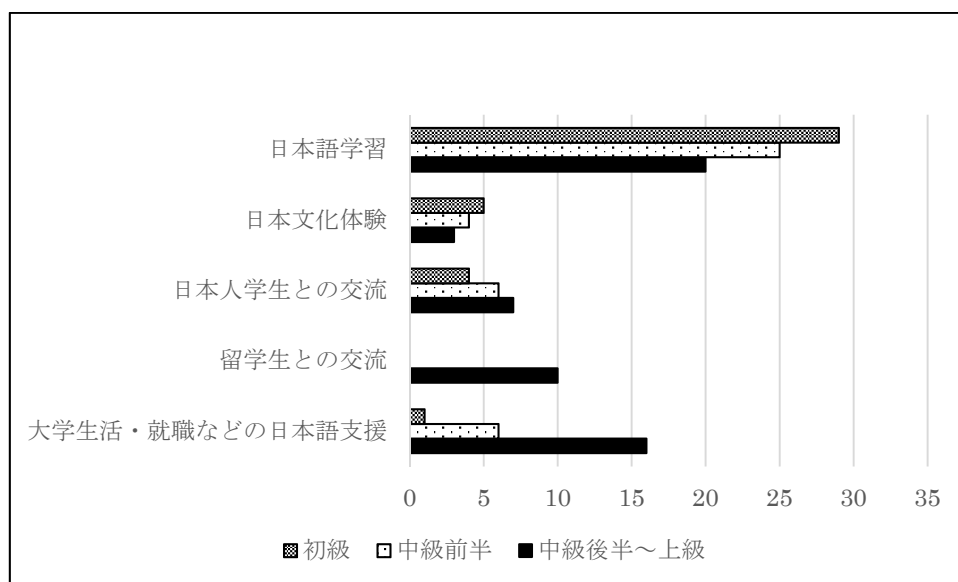


図 9 日本語教室に期待していること

3) まとめ

以上のコース評価結果より、留学生はおおむね日本語教室の授業に満足し、日本語学習が彼らの日常生活および研究生活に貢献していることが分かった。

2015 年度から日本語科目が単位化され、2016 年度から 2017 年度にかけて初級コースの整備を行って行く中で、プレイスメントテストやコース内で実施する試験・クイズ類の整備を行ってきた。今回のコース評価の結果から、それらの調整が留学生の日本語学習における満足度を上昇させる結果として評価されていると解釈することもできるであろう。

また、2018 年度からは中級以上のコースにおいて中級 1～3・上級のレベル別、聴解・読解・会話・作文等のスキル別の調整を開始することを目指している。この中級以上の調整においては、前述のチュートリアルセッションの検討に加えて、今回の日本語教室に期待していることで明らかになった学生のニーズを可能な限り反映したコース作りを行っていきたいと考えている。

最後に、本コース評価実施における課題として、似たような時期に実施される言語背景調査との住み分けや、期末試験時期と重複することから来る慌しさ、連絡の徹底の問題などから、500 名を超える対象者が登録している中で、回答が得られたのが 136 名という回答率の低さが挙げられる。今後の日本語教育のコース運営をより良いものにしていくためにも、オンラインコース評価の実施を徹底し、より多くの学習者の声を集めることが重要であると考えている。

2.7 言語背景調査

日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンライン言語背景調査を実施している。2017 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

1) 2017 年度 A1A2 オンライン言語背景調査概要

- 実施期間 : 2017 年 10 月
- 対象者 : 日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者
- 回答者 : 計 107 名
- 実施言語 : 日本語／英語
- 主な質問項目 : 1. 母語
2. 日本滞在期間
3. 日本語学習歴
4. 研究室での使用言語
- ・指導教員、日本人学生、留学生との会話
 - ・研究発表、打合せ、研究に関する資料
5. 指導教員から求められる日本語能力
6. 学生自身が目指す日本語能力
7. 日常生活で日本語ができなくて困ること

2) 結果の概要

全般的な傾向は、概ね例年通りであった。そのうち、昨年度の調査から変化が見られた「母語」と「研究室での使用言語（研究発表、打合せ、研究に関する資料）」ならびに今年度から新たに質問項目に加えた「自国での日本語学習歴」の 3 点について報告する。

① 母語別学習者割合

回答者の母語について尋ねた結果を昨年度の調査結果と比較したものが、次の図である。図 10 は今年度、図 11 は昨年度の結果である。

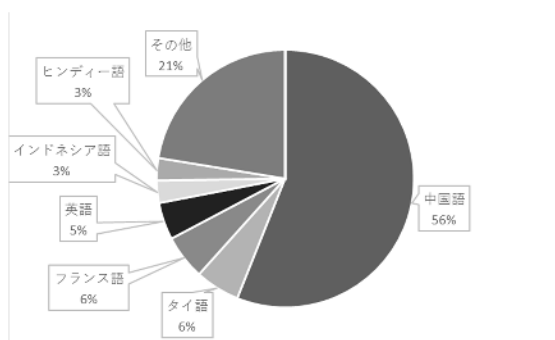


図 10 2017 年度 母語別学習者割合

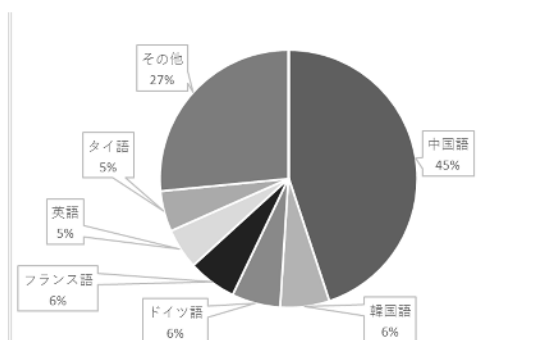


図 11 2016 年度 母語別学習者割合

図 10 から分かる通り、今年度の母語別学習者割合は中国語母語話者が 56%と最も高く、次いでタイ語母語話者、フランス語母語話者がそれぞれ 6%、英語母語話者 5%と続いている。昨年度も中国語母語話者が 45%と最多であったが、この 1 年でかなりの増加を見せている。授業活動を考えた場合、漢字圏の学生が非漢字圏の学生を上回る結果となっており、今後もこの傾向が続くようであれば、漢字指導を始め、教授方法等を検討していく必要がある。

② 自国での日本語学習歴

昨年度までは日本語学習歴に関する質問で、自国での学習歴と日本での学習歴を分けて尋ねることをしていなかったが、今年度はそれぞれの学習歴を尋ねた。ここで注目したいのは自国での学習歴である。日本での学習歴には前学期の当日本語教室での学習が含まれるが、自国での学習歴からは来日前の日本語学習状況を知ることができるためである。その結果は以下の図 12 に示す通りである。

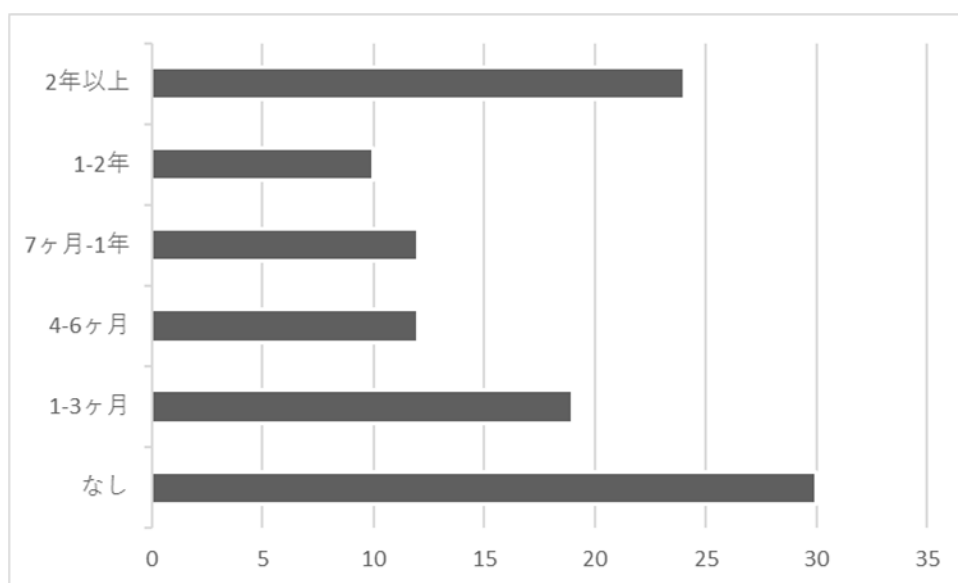


図 12 自国での日本語学習歴

この図を見ると、30%の回答者は自国での日本語学習歴がなかったが、それ以外の70%の学習者は来日前に日本語を学習していたことが分かる。工学系研究科の大学院生を主なターゲットにする日本語コースとしては、比較的高い数字と言えよう。今回の調査では学習形態まで尋ねていないため、推測の域を出ないが、日本語を専門とする学生とは異なり、自国の大学の授業以外の形態で学んでいる可能性がある。学期開講前に行う受講コース選択のためのコンサルテーションでも、日本語をインターネット等で独学で学んだと答える学生が増加しており、同様の傾向が見られる。従来は、日本語学習歴がある場合、教科書を使用して、教師が体系的に教える授業によって、「読む、書く、聞く、話す」の4技能をバランスよく身につけている学生が多かった。しかし、今後はこうした変化への対応も必要であると思われる。

③研究室での使用言語（研究発表、打合せ、研究に関する資料）

研究室での使用言語については、「指導教員、日本人学生、留学生との会話」と、「研究発表、打合せ、研究に関する資料」における言語使用状況を尋ねた。前者は若干日本語の使用が減ってはいるものの、概ね例年通りの結果となった。具体的には、指導教員、留学生との会話より、日本人学生との会話の方が日本語の使用率が高く、また、研究に関する会話より雑談の方が日本語使用率が高いというものである。

今回注目したいのは、後者の「研究発表、打合せ、研究に関する資料」における言語使用状況である。これらはいずれも昨年度の調査に比べ、「日本語」もしくは「日英両方」の使用率が高まっていた。今年度の調査結果は、以下の通りである。

まず、図13は、研究室での研究発表で使用される言語の割合を示している。これを見ると、英語が38%（昨年度45%）、日本語が35%（同33%）、日英両方が26%（同19%）となっており、英語の使用が優勢ではあるものの、全般的に日本語使用率が上がっている。

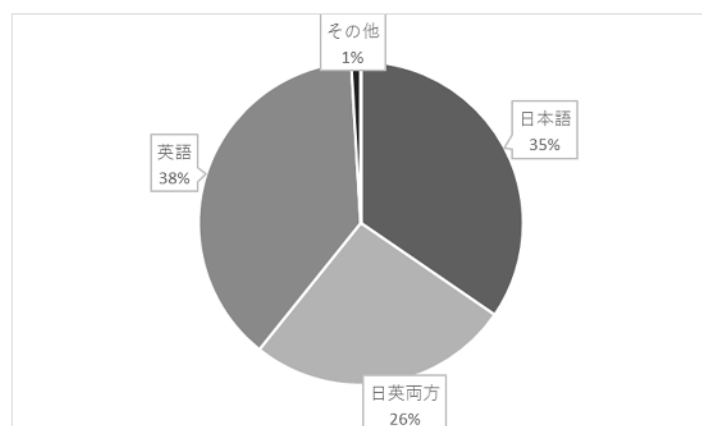


図13 研究室での研究発表で使用される言語

次に、研究に関する資料に使用される言語では、英語が 41%（昨年度 47%）、日英両方が 33%（同 31%）、日本語が 26%（同 19%）となっており、この項目でも日本語使用率が上がっていることが分かる（図 14 参照）。

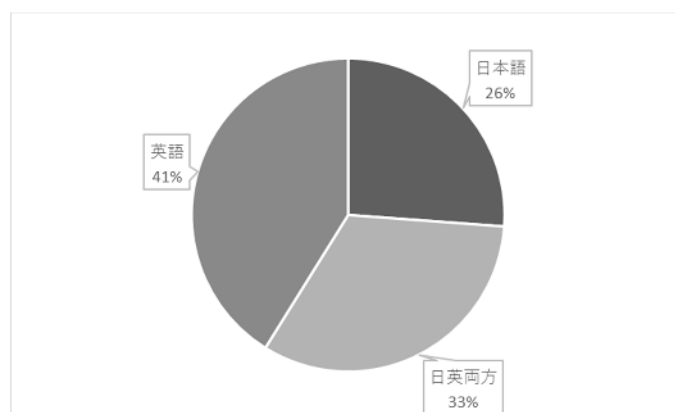


図 14 研究に関する資料に使用される言語

最後に、研究室での打合せに使用される言語では、日本語が 45%（昨年度 38%）、英語が 32%（同 34%）、日英両方が 22%（同 25%）となっており、日本語、日英両方を合わせると約 7 割を占めることになる（図 15 参照）。前述の 2 つの項目同様、昨年度より日本語使用率が上がっており、日本語運用力が十分でない留学生が研究室での打合せに参加する場合にはかなりの困難が予想される。

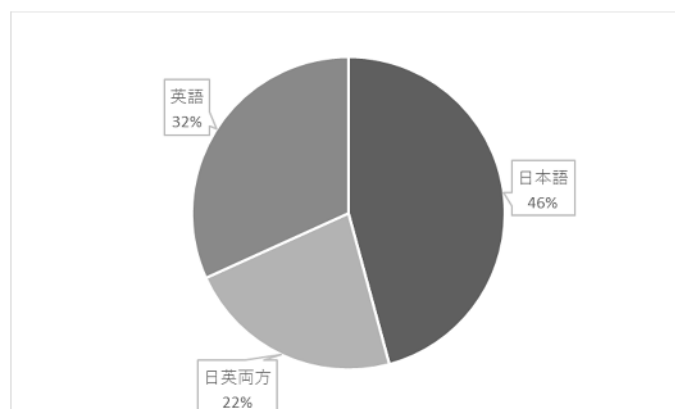


図 15 研究室での打合せに使用される言語

この結果を裏付けるように、「大学の日常生活で日本語ができなくて困ること」（自由記述）を尋ねた質問では、回答者 16 名のうち 5 名が“Lab meeting”と答えていた。これらの結果から、研究室での打合せの日本語使用が高まっており、且つ、留学生がそのことに困難を感じていることが窺える。今後は、こうした場面に特化した練習を授業内容に組み込んでいくことも検討の余地がある。

3) まとめ

今年度の言語背景調査からは、以下の傾向が見られた。

1. 中国語を母語とする学生（漢字圏の学生）の比率が高まっている。
2. 学生の7割は来日前に日本語を学習している。
3. 研究室での研究発表、打合せ、研究関連の資料に使用される言語のうち、日本語が占める割合が増加しており、特に、日本語での打合せには困難を感じている学生が目立つ。

上記の結果に基づき、今後は、授業での漢字指導の方法や、独学で学んだために日本語の体系的な知識が不足している学生に対する指導、さらには研究室での打合せを始め、学生が日常生活で困難を感じている場面を極力減らしていけるような授業内容等を検討していきたい。

第3章 日本文化事情・文化体験

3.1 S1S2 日本文化体験

報告者：早坂 美和子

(1) つつじ祭り（4月26、27日）

重要文化財にも指定されている根津神社のつつじ祭りに行った。暖かな春の陽射しの下、鮮やかに咲いたたくさんのつつじに囲まれて学生達はリラックスしていた。お饅頭やたこ焼きの屋台も出て、専攻や国籍を超えての楽しい交流となった。



(2) いけばなワークショップ（5月24日）

一葉式いけばなの先生方を招いていけばなワークショップを開催した。学生達は持参したマグカップを花瓶代わりにして、真っ赤な薔薇やスターチス、ナルコランなどを自由にアレンジして、それぞれ個性的な作品に仕上げていた。ワークショップが進むにつれて教室がとても華やかになり、全員がお花から元気をもらうことが出来たようだ。日本の美に親しむことの出来た素敵なひとときだった。



(3) 茶道体験（6月5～9日）

留学生にも認知度の高い「茶道」をもっと身近に感じてもらう為、ミニ茶会を行った。コーヒーや紅茶を飲むのとは違った日本のお茶の作法に、ちょっと戸惑いながらみんな神妙な顔つきをしていた。「お抹茶をカプチーノみたいに泡立ててください！」との先生の言葉に和んでちょっとリラックスしていた。それぞれにお茶の世界を楽しんでいた。



(4) 相撲体験(6月14日)

日本の国技である相撲に親しんでもらうため、留学生と尾車部屋との交流会を開催した。今年で5回目になる今回も、尾車部屋から呼び出しの禄郎さん、体重200kgの天風関、体重135kgの栄風さんに来て頂いた。留学生との質疑応答、股割り、相撲体験、呼び出し実演・体験など、学生達は大いに盛り上がった。禄郎さん、力士達のユーモア溢れるパフォーマンスに、会場は終始爆笑の渦に包まれた。



(5) ゆかたワークショップ(6月28日)

シニアボランティアの方々に浴衣の着方を教えて頂く毎年大人気のワークショップだ。今年も約30名の留学生が参加した。浴衣選びから始まり、みんなワクワクしていた。帯を結ぶところではさすがに苦戦していたが、手伝ってもらいながらなんとか着付けが完成した。着付けが完了すると、今度はあちらこちらで写真撮影会が始まった。今回の体験が、留学生達にとって浴衣に親しむきっかけになってくれれば嬉しい。



(6) 七夕(7月)

七夕の笹に、学生達が日本語、英語、中国語などで、思い思いの願いをしたためた。「世界平和」といった壮大なものから、「彼女ができますように」「試験に合格しますように」「家族が健康に暮らせますように」といったものまで、いろいろな願いが込められた賑やかな笹になった。



3.2 A1A2 日本文化体験

報告者 辻野 伊都子

(1) 湯島天神の菊祭り (11月1日、2日、3日)

日本語教室では、日本の文化を体験する一環として、神社訪問を企画し、学生と引率の先生が湯島天神を訪れた。湯島天神では菊祭りが開催中で、見事な菊の鉢植えや、菊人形などを楽しんだ。ちょうど新嘗祭の前でもあり、豊作を祈願する奉納の俵なども見ることができた。2000株に及ぶ丹精された菊は見事で、地元の



小・中学生が育てた菊も展示され、学生達も感心していた。手水舎ではお清めの方法を引率の先生から習ったり、猿回しの芸を見たり、また、おみくじを引く学生もいて、神社でのひと時は、いろいろな日本文化を体験でき大変有意義なものであった。

(2) 「一葉式いけ花」家元によるいけばなデモンストレーション (11月8日)

11月8日の午後、集まった50名を超える留学生を前に、一葉式いけ花家元、粕谷明弘氏が生け花のデモンストレーションを行った。皆になじみのあるバラを使った直立型、丸水盤に木瓜、ダリアを生けた傾斜型、ピンクッションなどトロピカルな花材を使った平面型、野茨、小菊などを笹に竹の花入れに生け下垂型をいけ、初心者には **irregular triangle** が大事であるなど、英語で説明をしながら生けて下さった。学生達は皆大変熱心にデモンストレーションを拝見しお話を楽しんでいた。最後は石化柳、鶏頭、雪柳、満天星躑躅などで素晴らしい大作を生けて下さった。大きな感動の中で、日本の美や伝統を間近に接しられた1時間であった。家元、そして粕谷尚弘家元嗣はじめ社中の皆様にも多大なサポートを頂いたことに深く感謝したい。



(3) 着物体験 (12月6日)



12月6日、シニアボランティアの皆様のご協力を得て、恒例となった着物体験を実施した。当日は女性20名、男性18名の参加があり、開始時間前から学生が集まり、楽しそうに着せていただく着物を選んでいった。着付けが終わると、それぞれ写真を撮って、中にはその場で本国の家族に写真を送る学生もいた。着物を通して、日本の文化に親しんでもらえる機会となった。

(4) 茶道体験 (12月13日)

12月13日に茶道体験を行った。今回は1回定員20名で2セッションの募集をし、定員を上回る応募があった。当日はお釜もセットされ、実際に柄杓で湯気の上がるお釜からお湯を汲んでお茶を点てた。参加の学生は初めて抹茶を飲む学生も多かったが、皆真剣な面持ちで担当の先生のお話を聞き、一生懸命茶筌を振っていた。お茶のいただき方と共におもてなしの心、そして一期一会の意味を少しでも理解してもらえたらうれしい限りである。



(5) お汁粉体験 (1月5日~12日)

日本のお正月の行事のひとつである鏡開きを体験してもらうため、日本語教室ではお汁粉を作って学生たちにふるまった。鏡開きは地方によって、1月11日に行うところと、1月



15日に行うところがあるが、どちらも意味は松の内があげ、お正月にお供えした鏡餅を皆で頂くということに変わりはないと説明。お汁粉に舌鼓を打つ学生もいれば、甘すぎると少ししか食べられない学生もいたが、皆で同じお鍋のお汁粉を頂く体験は、普段の勉強や研究センターの生活を離れ、楽しい体験だったようだ。日本の味にも親しんでもらえ良い機会となった。

第4章 国際交流支援

報告者： 岩田夏穂

日本語教室では、国際化推進の一環として、留学生に対する日本語力の涵養と日本文化理解だけでなく、留学生と日本人学生の相互理解やコミュニケーション能力の相互育成も一つの責務と捉えている。その立場から、日本人学生が「学生授業ボランティア」として日本語授業に参加する取り組み、および多言語交流会「ICYou (International Cafe for You)」等の活動により、日本人学生と留学生の相互支援と交流の場を創り出し、双方のコミュニケーション能力の育成を目指している。

4.1 学生授業ボランティア

2012 年度冬学期から始まった学生授業ボランティア受け入れによる日本語教育支援の取り組みは、留学生、授業ボランティアとそれらに関わる教職員それぞれに気づきや学びをもたらしている。

(1) 募集方法

学生にボランティアの募集方法は二つあり、一つは学内の体験活動推進チームの体験活動プログラムを通じての募集である。もう一つは、学内のポスターの掲示、ウェブサイト、ポータルサイト等からの発信を通して直接日本語教室から募集をかける方法である。前者は 4 月募集で 10 月からボランティア活動開始、後者は通年での随時募集と受け入れという流れをとっている。原則として、ボランティアの学生は、参加を決めたコースの授業になるべく毎回出席することになっている。それと併せて、2017 年度 A1A2 は、非常勤講師の要望に沿って、中間・期末試験の時期にアシストとして参加する単発のボランティアも募集した。

(2) 参加学生数の推移および新規・継続の割合

図 1 は、ボランティアの参加者数の推移および継続参加者と新規参加者の割合である。昨年度、今年度と、S1S2 は少なく、A1A2 が多い傾向が見られる。また、ここ数年、継続学生の減少と新規参加の増加の傾向があるが、2017 年度は、それが際立った結果となった。

2016 年度から 2017 年度にかけての継続学生の減少の背景には、実際の授業での参加のし方が、ボランティアに入った学生の期待したこととやや異なっていたこと¹があると考えられる。その反省を踏まえ、2017A1A2 では、学期開始前にボランティアを希望する学生に向けて、各コースの授業内容の概要とボランティアに期待される役

¹ コース修了後のボランティア学生からのコメントより。

割について説明する機会を設けた。

2017 年度 A1A2 の新規学生の増加は、前述の体験活動プログラムを紹介する HP を見て参加した学生が多かったことがある。その他は、学内掲示のポスター、教員や知人の紹介によるものだが、数は少ない。体験活動プログラムに関心がそれほどない（しかし、国際交流には関心がある）

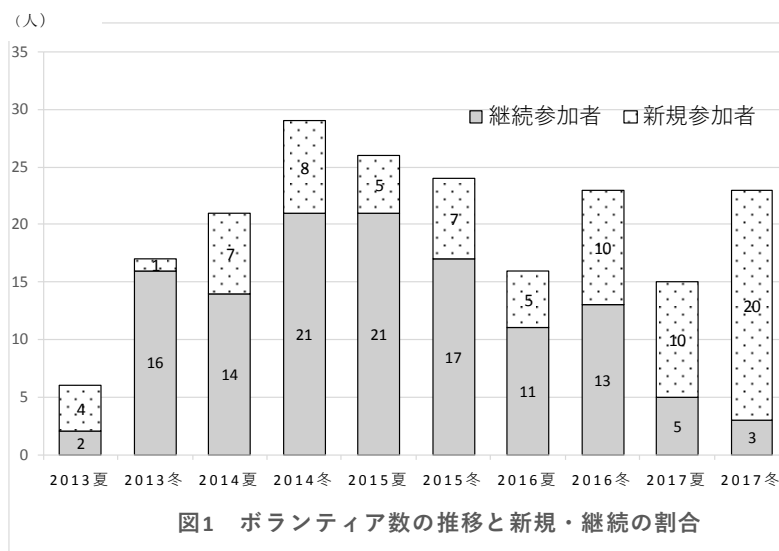


図1 ボランティア数の推移と新規・継続の割合

学生への周知が課題としてある。本学の学内における広報の場の開拓、今年度リニューアルした日本語教室ホームページの発信媒体としての有効活用を検討すべきであると考え。

(3) 活動内容

ボランティアの具体的な内容は、授業担当の先生の指示のもと、留学生の日本語授業活動（会話練習、ペアワーク、ディスカッションなど）のサポートである。単発タイプの場合は、口頭発表準備をサポートする、本番での聴衆役としてフィードバックするといったことが任されている。いずれも、授業の後に、記録として、その日の活動内容および感じたことを報告書に記入することが求められる。さらに、日本語の授業だけでなく、日本文化体験活動に留学生とともに参加するボランティアもいる。

(4) ボランティア学生の背景と参加の様子

2017 年度 A1A2 学期は、23 名の授業ボランティアが初級～上級の 21 コースの授業に入った。大学院生と学部生のバランスは、昨年度は半々だったのが、今年度は院生 5 名、学部生 18 名と、学部生の参加が増加した。図 1 は、それぞれの所属が占める割合を示している。院生は工学系、情報理工学系の学生が多かったが、学部生の所属は多様であることがわかる。

という声や、本当に助けになっているか不安になるといった声があった。貢献があまりできていないと感じている学生は、留学生がすでに十分な日本語運用力があった、日本語で伝えられることに限界があった、話す機会自体が少なかった、といったことを挙げている。学生ボランティアが授業で自分が留学生に対して有能な支援者として振る舞えているかどうかを内省し、時に教室活動で自分の居場所がないように感じている様子うかがわれる。授業を担当する講師の間で授業ボランティアの参加の様子について情報共有し、その役割と意義、課題について検討する必要があると考えられる。

この他、授業外での留学生との交流の有無については、特にないという回答と、ICYouに参加する、一緒にイベントをする、頻繁に食事したり、遊びに行ったりするという回答と約半々であった。双方に時間的余裕があれば、授業内での出会いが、授業外の交流につながるきっかけとなると考えられる。

毎年課題に上がるのは、授業ボランティア、担当講師、受講者の留学生の三者間でフィードバックを共有することである。現状では、学期終了後、この三者が時間を共有することには時間的な制約があり、実現が難しいが、教師会の時に時間を取る等、対応を検討したい。

4.2 多言語交流会：International Cafe for You (ICYou)

日本語教室では、留学生の日本語能力の涵養と学内の国際交流、多文化理解の促進、国際化推進を目的とした Japanese Lunch Table(以下 JLT)を 2012 年度から 2015 年度までの 4 年間実施してきた。2016 年度より、多言語・多文化の交流に重点を置くことにし、使用言語を日本語から多言語にシフトさせた。これに伴い、名称も International Cafe for You (以下 ICYou)と改名した²。

ICYou は、1) 参加者が多忙でプレッシャーのある研究生活からひと時離れ、気分転換できる場所を作り、2) 参加者がキャンパス中の様々な背景を持つ人々出会い、国籍、使用言語、身分を超えて対等な立場で気軽に語り合える環境を提供することを目指している。2017 年度も引き続き、これを目標として実施した。

² JLT を ICYou に改名したのは、次のような現状を踏まえ、多言語・多文化交流を活発にさせたい意図があった。2015 年度までの JLT は、多忙な留学生と日本人学生たちが「日本語」で交流する場を提供してきたため、言語の面では一定の留学生参加者数を得ることができた。一方で、日本人学生の参加が少なく、「日本語」という制約のある言語環境では、英語を話したい日本人にとっては魅力がやや足りないことが窺えた。また、日本語初心者留学生にとっては全て日本語で話すということは非常に困難であった。こうした背景を踏まえ、2016 年度は、使用言語の制約を取り払い、さらに日本学生の参加を促し、日本語学習歴が浅い留学生にも参加してもらえるような多言語・多文化交流の場に転換することとした。その結果、参加者は留学生、日本人ともに前年度より増加し、また学期を通して一定数の参加が得られた。

概要は以下の通りである。

活動目的：多言語で参加者が対等な立場で気軽に交流できる場を創出すること

開催期間：S1S2 学期 2017 年 4 月 20 日(木)～7 月 27 日(木)

A1A2 学期 2017 年 10 月 5 日(木)～2018 年 1 月 25 日(木)

場所：工学部 11 号館 2 階（室内およびテラス）

日時：毎週木曜日 12 時 10 分～13 時 10 分

参加者：留学生、日本人学生、教職員

参加者数：通常開催時 約 30～40 名 特別行事時 60 名程度

使用言語：交流ができる言語ならどの言語でも可

周知方法：日本語教室オリエンテーション、ポスター、ホームページ、フェイスブック等

特別行事：S1S2 学期 白玉カフェ（6 月 1 日） 夏カフェ（7 月 20 日）

A1A2 学期 おやつカフェ（11 月 30 日）

（1）Language Assistant の導入と現状

2017 年度 A1A2 では、人員配置の都合により、3 名の日本人学生(いずれも学部生)に依頼し、Language Assistant (LA) (賃金報酬有)³として継続的に ICYou の準備、設営等を担当してもらった。また、特別行事に際しては、この 3 名に企画運営と当日の留学生と日本人学生の関係作りのサポートに関わってもらった。いずれの LA も積極的に活動に取り組み、一定の成果を出すことができたと考える。

（2）2017 年度の参加状況

2017 年度は、S1S2、A1A2 で各 13 回実施した。S1S2 では延べ 468 名（留学生 291 名（62%）、日本人学生 177 名（38%））、A1A2 では、延べ 365 名（留学生 212 名（58%）、日本人学生 153 名（42%））が参加した。日本人学生の参加数の増加傾向は継続しており、留学生と日本人学生の割合が近づいている。この背景には、LA である日本人学生が自身のネットワークに属する学生に ICYou への参加を働きかけていることがあると思われる。

その一方で、まだ、留学生とのコミュニケーションに対してハードルが高いと感じている日本人学生の声もある。この背景には、先述の授業ボランティアのアンケート結果からもわかるように、日本人学生が留学生の日本語運用能力について知識が乏し

³ 2013 年以前は、特定の学生に Language Assistant(賃金報酬有)として、ファシリテーター的な役割を果たしてもらっていたが、ICYou の趣旨が、参加者が互いに「対等」な立場で出会う場を作ることであることから、2013 年度以降は、採用しないできた。

く、留学生とは、英語でしかやり取りできないのではないか、という思い込みがあるように思われる。したがって、初めての場合でも参加しやすいイベントを数回実施し、日本語と英語を交えた会話が可能であることを周知する機会の提供が必要である。それは、通常の ICYou に参加するメンバーの固定化を防ぎ、活動の新陳代謝を促す意味でも重要であろう。

今後は、ICYou の活動を学生主体で展開するようにシフトしていくことを目指す。そのために、日本人学生だけでなく留学生にも LA としてコミットしてもらい、イベントの企画を公募して行う等、更なる働きかけをしていくことを考えている。

第5章 海外協定校とのネットワーク構築と連携

現在、東京大学では世界各国の多くの大学（部局間も含む）と研究者および留学生の交流を推進するため、協定が締結されている。日本語教室では、その海外協定校とネットワークを構築、情報共有をし、連携を深めている。

今年度は日本語教室が推し進めている体験活動を、インド工科大学（IIT）カンパール校（2回目）と新たにスウェーデン王立工科大学（1回目）で実施した。また、インドならびにトルコ世界展開強化事業では、インターンシップ生の日本語・日本文化（茶道）講義を実施している。さらに、今年度はマサチューセッツ工科大学（MIT）ならびに IIT ボンベイ校を訪問し、海外協定校の 7 校から日本語教員の来訪があり、情報交換ならびに連携強化に努めた。

5.1 体験活動

5.1.1 インド工科大学カンパール校での体験活動

昨年に引き続き、インド工科大学カンパール校（以下 IITK と略す）で 3 月 4 日から 11 日まで「新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IITK 日本語授業サポート-」の体験活動を実施した。この体験活動は、東大インド事務所とインド赤門会との共同開催である。体験活動の目的は、新興国インドで既成概念にとらわれない、チャレンジ精神を養うこと、インド赤門会の先輩諸氏との交流、IITK での授業参加・日本語授業サポートを通じた学生交流により異文化を理解・尊重するグローバル意識を育てる機会を提供することである。体験活動の前に、4 回のオリエンテーションを下記のとおり開催した。

表 1 2017 年度のインド体験活動オリエンテーション

日程	内容
第 1 回 (6 月)	1. 自己紹介 2. インド体験活動における目的と意義の確認 3. スケジュール・自己紹介シート・役割分担の確認 4. 体験活動プログラムの連絡事項 5. 多言語交流会 ICYou・参考文献の紹介
第 2 回 (10 月)	1. 講義「インド文化伝統と仏教」箕輪顕量教授のご講義 2. 安全情報の確認
第 3 回 (12 月)	1. インドに関する調査結果発表 2. 昨年度の参加者との交流・情報共有
第 4 回 (1 月)	1. 学内インド人学生との交流 2. 日本に関する調査発表・ピアレビュー 3. IITK での活動内容の確認

体験活動は日本人学生 6 名が参加した。前半の 3 日間は、デリーで主にインドの歴史・文化の理解を深めた。また、日系企業訪問し、インド赤門会の先輩との交流を行った。後半の 3 日間は、IITK 校で日本語授業の受講者との交流が主な目的だった。具体的な実施内容は、下記のとおりである。

表 2 インド体験活動スケジュール

日程	活動内容
3 月 4 日	1. デリー到着
3 月 5 日	1. アグラ、タージマハル世界遺産の見学
3 月 6 日	1. 国立博物館、JICA を見学後、インド赤門会との交流会
3 月 7 日	1. 開講式/写真撮影 2. UT・IITK プレゼンテーション 3. 学生交流
3 月 8 日	1. UT・IITK プレゼンテーション 2. キャンパスツアー 3. セスナ体験 4. 学生交流（寮訪問） 5. 学内小学校訪問日本文化体験（書道体験）
3 月 9 日	1. UT・IITK プレゼンテーション 2. 地域の小学校訪問 3. 学生交流（クリケットなど） 4. IITK ラジオ出演 5. 日本文化体験（茶道体験、おにぎり体験） 6. インド文化体験（メヘンディ体験、サリー着付体験、インドダンス）

体験活動実施後のアンケートを分析した結果、インド人学生との交流を通して、他者と向き合い、尊重し合う態度を身につけ、インドへの理解や関心を深めていることが明らかになった。また、言語教育がもたらす国際交流の意義、自己研鑽の必要性を感じていることから、体験活動の当初の目的を果していることが確認できた。

5.1.2 スウェーデン王立工科大学での体験活動

今年度より新たにスウェーデン王立工科大学（以下 KTH と略す）で、2017 年 9 月 11 日から 18 日まで、「スウェーデン王立工科大学での国際交流体験活動・日本語授業サポートと企業訪問」の体験活動を実施した。KTH の学生との国際交流、KTH での講義、企業訪問、ノーベル賞博物館の見学などを通し、多角的な視点からスウェーデンの現状を学び、多様な価値観に触れ、グローバル意識を育てることを目的とした。

体験活動の事前に、3 回のオリエンテーションを下記のとおり開催した。

表3 スウェーデン体験活動オリエンテーション

日程	内容
第1回 (6月)	1. 自己紹介 2. 体験活動における目的と意義 3. スケジュール（フライト/E チケット・ホテル） 4. 自己紹介シート 5. 役割分担（スウェーデンおよび日本に関して） 6. 体験活動プログラムの連絡事項 7. 多言語交流会（ICYou など）の紹介
第2回 (7月)	1. スウェーデンについての情報共有（KTH, スウェーデン 2. スウェーデン人学生（KTH 学生）との交流ならびに質疑応答 3. スウェーデン体験活動への準備確認
第3回 (8月)	1. スウェーデンでのプレゼンテーションの確認 2. KTH での日本語授業サポートについて

体験活動は日本人学生 8 名が参加した。前半は KTH の学生宅にホームステイをし、交流を深めた。

表4 スウェーデン体験活動スケジュール

日程	活動内容
9月11日	1. Welcome party
9月12日	1. キャンパスツアー 2. 講義を受講（Meeting on Solar cell boat project） 3. 講義を受講（Machine Learning） 4. 日本語授業のボランティア
9月13日	1. 会社訪問（SCANIA）
9月14日	1. Language Café に参加 2. House of Science に参加 3. 講義を受講（Swedish Society, Culture and Industry in Historical Perspective） 4. 日本語授業のボランティア
9月15日	1. KISTA キャンパス訪問
9月16日	1. ノーベル博物館見学

以上のように、戦略的パートナー校である KTH の訪問によって、日本人学生は短期間の留学体験から国際的な学術環境に触れ、人的交流を通じて留学の意義を考え、かつ自己研

鑽の楽しさを体験することができた。また、日本語講義のサポートや日本語 Language Caféに参加することによって、KTH の学生がどのように日本語を学んでいるかを知るだけでなく、彼ら自身が日本語・日本文化を振り返る機会となった。さらに、KTH の学生と共に、講義・ゼミに参加し、ホームステイなどの経験によって留学生生活を体験し、長期留学への第一歩となった。

インド、スウェーデン体験活動を実施後、お世話になった方々には体験活動チームから感謝状をお送りした。

5.2 世界展開事業の日本語教育・文化支援

インドおよびトルコ世界展開強化事業で渡日するインターンシップ生を対象に、1 日の日本語・日本事情（茶道）の講義を実施している。インド世界展開強化事業では、5 月 11 日、6 月 6 日、6 月 27 日 3 回、工学系研究科のサマーインターンシップ生に、6 月 21 日に実施した。また、トルコ世界展開強化事業では、7 月 18 日にアンカラ大学のアイシェヌール・テキメン教授と日本事情・日本語教育ならびに文化体験（茶道）の講義を実施した。

5.3 海外協定校訪問

5.3.1 マサチューセッツ工科大学（MIT）訪問

2017 年 11 月に MIT を訪問した。

1) 交換留学生（Tang Kevin, Tao Tiffany）とのインタビュー

2) 面談：MIT のシニアコーディネータの相川孝子氏と昨年度の交換留学生のフィードバックとその課題、今年度の交換留学に関する日本語カリキュラムについて検討した。また、今年度の交換留学生に関して、MIT の専任教員である池田雅美氏、前川わかな氏と、日本語クラスでの彼らの日本語能力について情報交換し、当日本語教室の日本語教室プログラムの説明を行った。MIT の宮川繁教授との面談では、今後の MIT と本学の交換留学の長期的展望について検討した。

5.3.2 インド工科大学ボンベイ校（IIT-Bombay）訪問

2018 年 2 月に本学の卒業生である Chaitanya Krishina, PhD と IIT-Bombay を訪問した。目的の一つは、来年度の体験活動の実施の可能性を検討することである。日本語教師である砂内千秋氏（Koo International Co.,Ltd）と IIT-Bombay 日本語教室と東大の日本語教育の情報交換を行った。コースでは日本人との会話の機会を設けたり、日本からビジターを招待したり、日本文化に関するイベントなどを実施し、日本語学習の動機付けを高めている。課題は、初級 1 コースで日本語学習に挫折する学生が多く、初級 2 コースへの進級および学習の継続が困難なことであることが分かった。2018 年度の体験活動に関しては、日本人学生との交流によって受講者の目標が明確になり、学習継続につながる可能性があるため、積極的に受け入れたいとのことだった。二つ目の目的である東京大学と IIT-Bombay

の学術協定の締結についての面談に参加した。今後、協定締結によって、学生交流をより活発にしていきたい。

5.4 日本語教室への来訪

今年度は下記の海外協定校から言語センターならびに日本語教室の7校から来訪があり、情報交換および連携強化に努めた。

6月5日～9日	インド工科大学カンプール校 専任教員 Vatsala Misra 氏
6月15日	スウェーデン王立工科大学 専任教員 高宇洋子・Drobin 氏
6月16日	マサチューセッツ工科大学 専任教員 相川孝子氏
6月26日	グランゼコール・ポリテクニーク 専任教員 鬼頭夕佳氏
7月11日～19日	アンカラ大学教授 アイシェヌール・テキメン氏
7月21日	カリフォルニア工科大学 専任教員 平井律子氏
10月17日～19日	ミュンヘン工科大学 言語センター長 Denise Lichtig 氏
1月16日	マサチューセッツ工科大学 専任教員 相川孝子氏

第 6 章 日本語教育研究

今年度は、IJEP（India-Japan Industry-Academia-Government Collaborative Education Program）¹のシンポジウムで、海外協定校の一つであるインド工科大学カンプール校の日本語授業に日本人学生が授業ボランティアとして参加した体験活動の実践報告を行った。

また、コーパス研究会の有志が『理工学語彙・用例学習支援システム Rainbow』の学内公開に向けてワークショップを実施した。

6.1 IJEP での実践報告

Vatsala Misra, Daichi Miyamoto, Yumiko Furuichi, Vision for development of human resources to contribute to the relationship between Japan and India-The collaboration between IIT Kanpur and the University of Tokyo for Japanese Language Education, IJEP Symposium

- 1 About Japanese Language Class of the School of Engineering and Indian Institute of Technology Kanpur（古市・Misra）
- 2 Indian Institute of Technology Kanpur Hands on activities（宮本）
- 3 Summary and Future Plans（古市・Misra）

体験活動が日本人学生にとって、インド文化と日本文化を相対的に捉えるようになり、異文化理解が深まったこと、英語、ヒンディ語など言語を含めた学習一般に対する動機づけが高まったことが明らかになった。また、海外での就職について考える契機になった。さらに、体験活動がインド工科大学カンプール校と当日本語教室間の連携を深める機会になったことも示唆された。一方で、訪問前の SNS などを利用した学生交流、ワークショップ期間などの検討課題も明らかになった。

6.2 ワークショップの開催

2017 年 9 月 21 日、『理工学語彙・用例学習支援システム Rainbow（以下、「レインボー」）』の学内公開に向けて、工学系・情報理工学系研究科の留学生を対象としたワークショップ「ゼミで使う日本語の表現を学ぼう！用例データを使ったワークショップ」を東京大学工学部研究科コーパス研究会主催で行った。当日は学生 19 名（他学部も含む）・教師 2 名が参加した。まず、コーパス研究会メンバーからレインボーの使い方について説明を行い、実際に参加者がレインボーを用いて検索作業を行った。その後、レインボーの使い方や改善点などについて、参加者と意見交換を行った。参加者からは、用語の一層の充実の他に、複数の専攻に共通する用語の抽出への要望などが寄せられた。

¹ IJEP：本学大学院工学系研究科および情報理工学系研究科が運営する「日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム」のこと。

第7章 今後の課題

2017年度の諸活動を振り返り、さらに充実した日本語教育および国際交流、国際化教育を目指すために、日本語教室が担うべき今後の課題について整理する。

日本語教室の目的は、留学生・研究員などが研生活と日常生活を円滑に行い、研究に集中できる環境づくりの一環として、1. 日本語教育、2. 日本文化事情教育を提供し、3. 国際交流支援の取り組みとして、留学生が日本人学生と交流を深めながら自文化を発信する場の創出を目指している。さらに、4. 国際推進事業のサポート（国際化教育）5. 工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発を積極的に行っている。日本語教室が目的を果すべく具体的な今後の課題は、下記のとおりである。

1. 日本語教室の実践・活動の周知

工学系研究科日本語教室では、留学生を対象とした日本語教育に加え、留学生と日本人学生との多言語交流会「International Café for You」を実践している。また、主に日本人学生を対象とした「授業ボランティア」、さらにそれを発展させた「海外協定校での授業ボランティア」を実践している。しかしながら、こうした取り組みは、学内外、海外協定校への周知が十分とは言えない。

そこで、日本語教室のHPを改善し、日本語教室の活動を視覚的に分かりやすく提示したい。また、日本語教室の取り組みをシンポジウムなどで公開し、議論する場を設けたい。そうすることによって、日本語教室の実践に対する学内外での理解が深まり、組織間の効果的な意思疎通につながると思われる。また、海外協定校の交換留学生のスムーズな受入れと送り出しのための情報公開ができ、連携を深めることができる。

2. 日本語教育の質保証の強化

日本語教育の質保証を強化するために、下記を検討したい。

1) 受講者数の適正化

今年度から専攻日本語教室の日本語コースの受講が可能にしたこと、初級コースならびに会話コースを2セクション展開にしたことによって、ほぼ適正な受講者数になった。しかしながら、未だ複数の上級コースが定員を超過しているので、今後は正していきたい。

2) 中上級レベル別スキル別の内容の精査

今年度は初級Ⅰ、初級Ⅱレベルの文字導入、クイズ、定期試験などを精査した。その結果、2セクションコースの教育内容を同等化し、教員の負担を軽減することができた。次年度は、中級Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、上級レベルの各コースの学習目標、評価、授業内容を精査し、レベル内およびレベル間におけるスキルのつながりを明確にしたい。

3) 工学系日本語教育に特化した教材開発

専門語彙・漢字コースは、研究室の発表場面の極めて貴重な録音データによる「理工学

系話ことばコーパス」から専門語彙・漢字を抽出し、それを教示している。現在、コーパス研究チームによって『理工学語彙・用例学習支援システム Rainbow』を作成している。今後、こうした研究結果を用いた口頭表現や専門聴解など、工学系日本語教育に特化した教材開発に着手したい。

また、専門読解コースは、工学部の広報誌「Ttime!」をオリジナル教材として作成し、使用している。これまで専門読解教材は、日本語教室のみの閲覧であったが、今後はそれらを公開し、広く活用できるようにしたい。

3. 国際交流に関する各活動の有機的な結合

現在、日本語教室では、ICYou、多文化理解プロジェクト、学内・海外授業ボランティアなど、留学生と日本人学生が出会い、交流する場を創出している。また、協働プロジェクトを遂行する多文化理解プロジェクトコースも実施している。これまでは、これらの活動の参加者やコースの受講生に他の活動を紹介してきた。彼らは興味を示すものの、その参加率は高いとは言えない。今後は、日本語教室が主催している活動を有機的に結合し、参加できる仕組みを作っていきたい。例えば、海外授業ボランティアに参加する学生に対しては、その準備として ICYou で留学生との交流を奨励し、帰国後に、その経験を生かして国内授業ボランティアに参加するといった流れを作り出すことを検討していきたい。

4. 卒業留学生との連携および TA の活用

2010 年度から日本での就職を希望する留学生を対象に、ビジネス場面における日本語表現やビジネスマナーの習得、ならびに就職活動の準備を目指した「日本組織事情コース」を実施している。これまで授業の中で、元日本組織事情コース受講生（卒業留学生）に OB/OG としてクラスに参加してもらい、懇談会などを年に数回設けるなどして、交流をしてきた。2016 年度の A1A2 には、卒業留学生との懇親会を実施した。現状では卒業留学生にボランティアとして参加協力を依頼しているが、今後は組織事情の学生および協力してくれる元受講生のインセンティブを高めるためにラウンジを設け、卒業留学生のネットワーク化やフォローアップ日本語教育を行いたい。また、同コースの S1S2 で内定を受けた留学生に、A1A2 では TA として参加してもらい、その就職活動経験を活かしていくことを検討したい。

5. 工学系研究科内日本語教室の連携強化とアーティキュレーション

2017 年度より都市工学専攻、システム創成系では STAR (student tool foe Access and Review) を共有し、コース登録・学生管理を行った。STAR の共有によって、レベルの統一が可能となり、受講者数のバランスを図ることができた。しかしながら、同じレベル、同じコースではあるが、受講時間、評価方法などに検討事項が残っている。今後は工学系内の 4 つの専攻日本語教室と当教室の連携強化をさらに図り、アーティキュレーションが進むことが期待される。

6. 海外協定校との連携拡大

現在、戦略的パートナーシップ大学を中心とした海外協定校との連携を強化しつつある。今年度は4校を訪問し、7校から訪問があった。日本語教室を機軸とした連携体制を来年度も一層深化させ、共同研究や共同プロジェクトを拡充させたい。

2017年度S1S2工学系研究科日本語教室コース概要

対象:工学系研究科・情報理工学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者,
工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2017年4月5日～2017年7月25日

登録期間: ホームページ <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTAR より3月13日から4月4日まで

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室 古市由美子

Address: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp, 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位

コース	対象	時 間	担当	教 材	教室
入門 (6月6日～)	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者対象	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	内田 中村	『Basic Japanese for Students はかせ 1』(スリーエーネットワーク)	123
インテンシブ 初級 I AM	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 10:25-12:10	古市 ハワード 米谷	『大地 I メインテキスト』(スリーエー ネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻 訳』(スリーエーネットワーク), 『にほん ごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)	123
初級1A/初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月・木・金 8:30-10:15	臼井・栗田・ 米谷/栗田・ ハワード・片 岡	『大地 I メインテキスト(L1-12)』(ス リーエーネットワーク), 『大地 I 文型 説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(ア スク)	132/130
初級2A/初級2B	日本語を40時間程度勉強した 人 ひらがな、カタカナの読み書き ができる人	月・木 10:25-12:10	栗田・中村 /臼井・鈴 木	『大地 I メインテキスト(L13-22)』(ス リーエーネットワーク), 『大地 I 文型 説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(ア スク)	130/132
インテンシブ 初級 II AM	初級2またはインテンシブ初級 I (AM/PM)の修了者、日本語 を100時間程度勉強した人、ま たはJLPT N5相当	火・木 8:30-12:10	栗田 宮瀬	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説 明と翻訳』(スリーエーネットワーク)『 にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』 (アスク出版)	123
初級3	初級2またはインテンシブ初級 I (AM/PM)の修了者、日本語 を100時間程度勉強した人、ま たはJLPT N5相当	水・金 10:25-12:10	臼井 片岡	『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地 II 文型説明と翻訳』(スリーエーネッ トワーク)『 にほんごチャレンジ N4-5 [かんじ]』(アスク出版)	88M
初級4	初級3またはインテンシブ初級 I の修了者、日本語を150時 間程度勉強した人 ひらがな、 カタカナの読み書きができる 人、またはJLPT N5-N4 相当	水・金 8:30-10:15	米谷 栗田	『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地 II 文型説明と翻訳』(スリーエーネッ トワーク)『 にほんごチャレンジ N4-5 [かんじ]』(アスク出版)	88M
中級1 総合	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	月・木 8:30-10:15	山口 内田	『中級へ行く 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)	88M
中級1 聴解	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	金 8:30-10:15	ハワード	『日本語集中トレーニング』(アルク)	88L
中級1 会話	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	金 10:25-12:10	鈴木	『聞く・考える・話す 留学生のための 初級にほんご会話』(スリーエーネッ トワーク)	132
中級1 専門読解	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	月 13:00-14:45	臼井	『科学技術の日本語』(スリーエーネッ トワーク)	123
中級1 文章	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	火 10:25-12:10	米谷	『みんなの日本語 初級第2版 やさし い作文』(スリーエーネットワーク)	88M
中級2 総合	中級1の修了者、日本語を 300-350時間程度勉強した 人、またはJLPT N3相当	水 8:30-10:15	宮瀬	『中級を学ぼう 中級前期 日本語の 文型と表現56』(スリーエーネッ トワーク)	132
中級2 聴解	中級1の修了者、日本語を 300-350時間程度勉強した 人、またはJLPT N3相当	水 10:25-12:10	米谷	『LIVE from TOKYO 生の日本語を聴き 取ろう!』(The Japan Times)	88L

中級2 会話	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 10:25-12:10	ハワード	『日本語おしゃべりのたね』(スリーエーネットワーク)	88L
中級2 読解	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 8:30-10:15	米谷	『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)	88M
中級2 文章	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	月 10:25-12:10	山口	『大学・大学院留学生の日本語②作文編』(アルク)	88L
中級2 専門語彙・漢字	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 10:25-12:10	中村	自主教材	88L
中級3 総合	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	火 8:30-10:15	中村	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク)	88L
中級3 聴解	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	水 8:30-10:15	臼井	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解(中上級)』(スリーエーネットワーク)	88L
中級3 会話	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	火 10:25-12:10	片岡	『日本語上級話者への道』(スリーエーネットワーク)	132
中級3 専門読解	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	内田	自主教材	88M
中級3 文章	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	金 10:25-12:10	栗田	『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』(スリーエーネットワーク)	130
上級 日本組織事情	中級3修了者、またはJLPT N1相当	木 10:25-12:10	古市	自主教材	85
上級 総合	中級3修了者、またはJLPT N1相当	金 10:25-12:10	ハワード	『伝わる発音が身につく! にほんご話し方トレーニング』(アスク)	88L
上級 聴解	中級3修了者、またはJLPT N1相当	金 8:30-10:15	鈴木	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 上級』(スリーエーネットワーク)	123
上級 会話	中級3修了者、またはJLPT N1相当	水 10:25-12:10	宮瀬	自主教材	132
上級 読解	中級3修了者、またはJLPT N1相当	火 8:30-10:15	片岡	『日本文化を読むー上級学習者向け日本語教材』(アルク), 自主教材	132
上級 文章	中級3修了者、またはJLPT N1相当	木 8:30-10:15	鈴木	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』(アルク)	88L

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情 (4月19日～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	古市 早坂		88L
ICYou (4月20日～)	全レベル対象	木 12:10-13:10	栗田 辻野		工学部 11号館 2階

*授業内容と教室は変更の可能性あり

初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(3コース:8コマ)、中級Ⅰ(5コース:6コマ)、中級Ⅱ(6コース:6コマ)、
中級Ⅲ(5コース:5コマ)、上級(6コース:6コマ) 計29コース、49コマ *ビジターセッション、ICYou

2017年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2017年4月5日～2017年7月25日

登録期間: ホームページ <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTAR より3月13日から4月4日まで

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室 古市由美子

Address: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826 FAX:03-5800-2436

単位:1コマ2単位

8 : 30-10:15		10:25-12 : 10		13:00-14:45		14:55-16:40	
月	インテンシブ初級ⅠAM 古市 123						
	初級1A 臼井 132		初級2A 栗田 130				
	初級1B 栗田 130		初級2B 臼井 132				
	中級1 総合 山口 88M		中級2 文章 山口 88L				
				中級1 専門読解 臼井 123			
火	インテンシブ初級ⅡAM 栗田 123				入門（6月6日～） 内田 123		
	中級2 読解 米谷 88M		中級1 文章 米谷 88M				
	中級3 総合 中村 88L		中級2 専門語彙・漢字 中村 88L				
	上級 読解 片岡 132		中級3 会話 片岡 132				
水	インテンシブ初級ⅠAM ハワード 123				ビジターセッション・日本事情 古市 88L		* 古市:午前中 社会基盤
	初級4 米谷 88M		初級3 臼井 88M				
	中級2 総合 宮瀬 132		中級2 聴解 米谷 88L				
	中級3 聴解 臼井 88L		上級 会話 宮瀬 132				
木	インテンシブ初級ⅡAM 宮瀬 123				入門（6月8日～） 中村 123		* ICYou（12：10－13：10） 工11号館2F 栗田
	初級1A 栗田 132		初級2A 中村 130				
	初級1B ハワード 130		初級2B 鈴木 132				
	中級1 総合 内田 88M		中級2 会話 ハワード 88L				
			中級3 専門読解 内田 88M				
	上級 文章 鈴木 88L		上級 日本組織事情 古市 85				
金	初級1A 米谷 132		インテンシブ初級ⅠAM 米谷 123				
	初級1B 片岡 130		初級3 片岡 88M				
	初級4 栗田 88M		中級1 会話 鈴木 132				
	中級1 聴解 ハワード 88L		中級3 文章 栗田 130				
	上級 聴解 鈴木 123		上級 総合 ハワード 88L				

初級 I (4コース:18コマ)、初級 II (3コース:8コマ)、中級 I (5コース:6コマ)、中級 II (6コース:6コマ)、
中級 III (5コース:5コマ)、上級 (6コース:6コマ) 計29コース、49コマ *ビジターセッション、ICYou

2017年度A1A2工学系研究科日本語教室コース概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2017年9月25日～2018年1月23日 (冬休み: 12月28日～1月4日)

登録期間: ホームページ <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTAR より9月4日から9月24日まで

連絡先: 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室 古市由美子

Address: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp, 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位

コース	対象	時 間	担当	教 材	教室
入門 (11月21日～)	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者対象	火 13:00-14:45 木 13:00-16:40	堀切 栗田	『Basic Japanese for Students はかせ 1』(スリーエーネットワーク)	132
インテンシブ 初級 I AM	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 10:25-12:10	岩田 ハワード 米谷	『大地 I メインテキスト』(スリーエー ネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻 訳』(スリーエーネットワーク), 『にほん ごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)	123 130
初級1A/初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月・木・金 8:30-10:15	A 堀切・古市 片岡 B 栗田・ハワ ード・米谷	『大地 I メインテキスト(L1-12)』(ス リーエーネットワーク), 『大地 I 文型 説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(ア スク)	132/130 /85
初級2A/初級2B	日本語を40時間程度勉強した 人 ひらがな、カタカナの読み書き ができる人	月・木 10:25-12:10	A 栗田 鈴木 B 臼井 堀切	『大地 I メインテキスト(L13-22)』(ス リーエーネットワーク), 『大地 I 文型 説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(ア スク)	130/132 88M/88 L
インテンシブ初級 II AM	初級2またはインテンシブ初級 I (AM/PM)の修了者、日本語 を100時間程度勉強した人、ま たはJLPT N5相当	火・木 8:30-12:10	栗田 宮瀬	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説 明と翻訳』(スリーエーネットワーク)『 にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』 (アスク出版)	123
インテンシブ初級 II PM	初級2またはインテンシブ初級 I (AM/PM)の修了者、日本語 を100時間程度勉強した人、ま たはJLPT N5相当	火・木 13:00-16:40	内田 中村	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説 明と翻訳』(スリーエーネットワーク)『 にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』 (アスク出版)	123
初級3	初級2またはインテンシブ初級 I (AM/PM)の修了者、日本語 を100時間程度勉強した人、ま たはJLPT N5相当	水・金 10:25-12:10	堀切 片岡	『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地 II 文型説明と翻訳』(スリーエーネッ トワーク)『にほんごチャレンジ N4-5 [かんじ]』(アスク出版)	88L 132
初級4	初級3の修了者、日本語を150 時間程度勉強した人、または JLPT N5-N4 相当	水・金 8:30-10:15	米谷 栗田	『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地 II 文型説明と翻訳』(スリーエーネッ トワーク)『にほんごチャレンジ N4-5 [かんじ]』(アスク出版)	88M
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	月・木 8:30-10:15	A 山口 堀切 B 臼井 内田	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)	88L 88M
中級1 聴解	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	金 8:30-10:15	ハワード	『日本語集中トレーニング』(アルク)	88L
中級1 会話A 中級1 会話B	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	金 10:25-12:10	A 鈴木 B 堀切	『会話に挑戦! 中級前期からの日本 語ロールプレイ』(スリーエーネットワ ーク)	123 324B
中級1 専門読解	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	月 13:00-14:45	堀切	『科学技術の日本語』(スリーエーネッ トワーク)	123
中級1 文章	初級4またはインテンシブ初級 II の修了者、日本語を200- 250時間程度勉強した人、また は JLPT N4相当	火 10:25-12:10	米谷	『みんなの日本語 初級第2版 やさし い作文』(スリーエーネットワーク)	88M

中級2 総合	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 8:30-10:15	宮瀬	『中級を学ぼう 中級前期 日本語の文型と表現56』(スリーエーネットワーク)	324C
中級2 聴解	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 10:25-12:10	米谷	『LIVE from TOKYO 生の日本語を聴き取ろう!』(The Japan Times)	88M
中級2 会話A 中級2 会話B	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 10:25-12:10	A ハワード B 岩田	自主教材	130 324B
中級2 読解	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 8:30-10:15	米谷	『留学生のための読解トレーニング (読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)	88M
中級2 文章	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	月 10:25-12:10	山口	『大学・大学院留学生の日本語②作文編』(アルク)	88L
中級2 専門語彙・漢字	中級1の修了者、日本語を300-350時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 10:25-12:10	中村	自主教材	88L
多文化理解 P	中級から上級者対象	火 13:00-14:45	古市	自主教材	88M
中級3 総合	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	火 8:30-10:15	中村	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク)	88L
中級3 聴解	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	水 8:30-10:15	岩田	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解(中上級)』(スリーエーネットワーク)	324B
中級3 会話A 中級3 会話B	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	火 10:25-12:10	A 片岡 B 堀切	『日本語上級話者への道』(スリーエーネットワーク)	324B 324C
中級3 専門読解	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	内田	自主教材	88M
中級3 文章	中級2の修了者、日本語を500時間以上勉強した人、またはJLPT N2相当	金 10:25-12:10	栗田	『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』(スリーエーネットワーク)	88M
上級 日本組織事情	中級3修了者、またはJLPT N1相当	木 10:25-12:10	古市	自主教材	85
上級 総合	中級3修了者、またはJLPT N1相当	金 10:25-12:10	ハワード	『伝わる発音が身につく! にほんご話し方トレーニング』(アスク)	88L
上級 聴解	中級3修了者、またはJLPT N1相当	金 8:30-10:15	鈴木	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 上級』(スリーエーネットワーク)	123
上級 会話A 上級 会話B	中級3修了者、またはJLPT N1相当	水 10:25-12:10	A 宮瀬 B 岩田	自主教材	324C 324B
上級 読解	中級3修了者、またはJLPT N1相当	火 8:30-10:15	片岡	自主教材	324B
上級 文章	中級3修了者、またはJLPT N1相当	木 8:30-10:15	鈴木	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』(アルク)	132

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情 (10月11日～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	堀切 早坂		88L
ICYou (10月5日～)	全レベル対象	木 12:10-13:10	岩田 辻野		工学部 11号館 2階

*授業内容と教室は変更の可能性あり

初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(4コース:12コマ)、中級Ⅰ(5コース:9コマ)、中級Ⅱ(6コース:7コマ)、中級Ⅲ(6コース:7コマ)、上級(6コース:7コマ) 計31コース、60コマ *ビジターセッション、ICYou

2017年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学
交換留学生

授業開講期間: 2017年9月25日～2017年1月23日 (冬休み:12月28日～1月4日)

登録期間: ホームページ <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTAR より9月4日から9月24日まで

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室 古市由美子
Address: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826 FAX:03-5800-2436

単位: 1コマ2単位

	8:30-10:15	10:25-12:10	13:00-14:45	14:55-16:40
月	インテンシブ初級 I AM 岩田 123			
	初級1A 堀切 132 初級1B 栗田 130	初級2A 栗田 130 初級2B 白井 88M		
	中級1 総合A 山口 88L 中級1 総合B 白井 88M	中級2 文章 山口 88L	中級1 専門読解 堀切 123	
火	インテンシブ初級 II AM 栗田 123			
	中級2 読解 米谷 88M	中級1 文章 米谷 88M	入門 (11月21日～) 堀切 132	
	中級3 総合 中村 88L	中級2 専門語彙・漢字 中村 88L	インテンシブ初級 II PM 内田 123	
	上級 読解 片岡 324B	中級3 会話A 324B 片岡 中級3 会話B 324C 堀切	多文化理解プロジェクト 古市 88M	
水	インテンシブ初級 I AM ハワード 123			
	初級4 米谷 88M	初級3 堀切 88L		
	中級2 総合 宮瀬 324C	中級2 聴解 米谷 88M		
	中級3 聴解 岩田 324B	上級 会話A 宮瀬 324C 上級 会話B 岩田 324B	ビジターセッション・日本事情 堀切 88L	*古市:午前中 社会基盤
木	インテンシブ初級 II AM 宮瀬 123			
	初級1A 古市 85 初級1B ハワード 130	初級2A 鈴木 132 初級2B 堀切 88L		
	中級1 総合A 堀切 88L 中級1 総合B 内田 88M	中級2 会話A ハワード 130 中級2 会話B 岩田 324B	入門 (11月30日～) 栗田 132	
		中級3 専門読解 内田 88M	インテンシブ初級 II PM 中村 123	
	上級 文章 鈴木 132	上級 日本組織事情 古市 85	* ICYou (12:10-13:10) 工11号館2F 岩田	
金	初級1A 片岡 132 初級1B 米谷 130	インテンシブ初級 I AM 米谷 130		
	初級4 栗田 88M	初級3 片岡 132		
	中級1 聴解 ハワード 88L	中級1 会話A 鈴木 123 中級1 会話B 堀切 324B		
		中級3 文章 栗田 88M		
	上級 聴解 鈴木 123	上級 総合 ハワード 88L		

初級 I (4コース:18コマ)、初級 II (4コース:12コマ)、中級 I (5コース:9コマ)、中級 II (6コース:7コマ)、
中級 III (6コース:7コマ)、上級 (6コース:7コマ) 計31コース、60コマ *ビジターセッション、ICYou

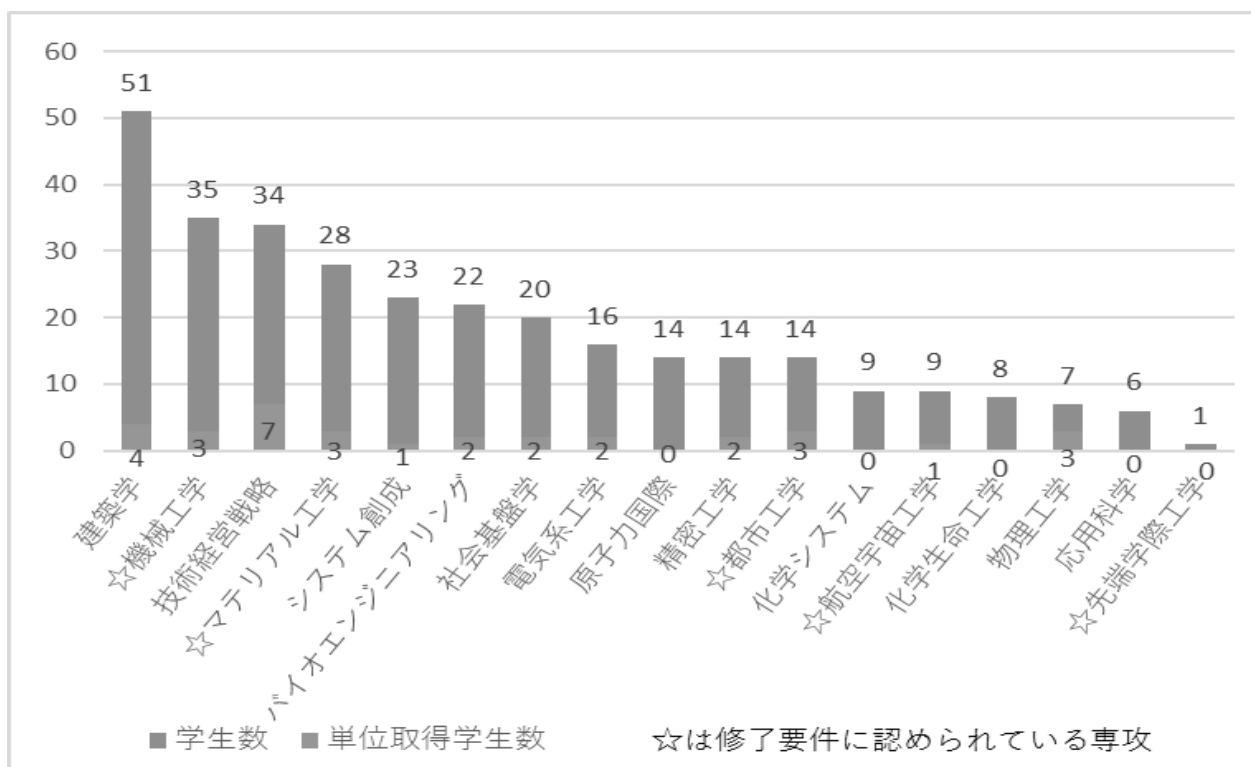
1. 2017 年度 S1S2 工学系日本語教室受講者数

1) 研究科別-レベル別

(単位：名)

研究科		レベル		初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科				51 (6)	30 (3)	55 (4)	69 (8)	53 (2)	53 (9)	311 (33)	193 (27)
②情報理工学系				6 (2)	12 (4)	4 (2)	14 (7)	7 (5)	6 (5)	49 (27)	34 (19)
③新領域創成科学研究科				0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (2)	4 (3)	2 (2)
④全学交換留学生				8 (4)	2 (2)	6 (6)	12 (12)	13 (13)	24 (22)	65 (54)	30 (25)
⑤他研究科	経済学研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	13 (7)	1 (0)	17 (10)	10 (6)
	情報学環・学際情報学府			0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	7 (0)	3 (0)
	理学系研究科			0 (0)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	7 (0)	5 (0)	17 (5)	6 (3)
	医学系研究科			1 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)	2 (0)	2 (0)	12 (0)	5 (0)
	生産技術研究所			0 (0)	1 (0)	2 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	11 (0)	5 (0)
	農学生命科学研究科			0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (6)	5 (3)
	人文社会系研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	公共政策 大学院			1 (0)	1 (0)	14 (0)	6 (0)	0 (0)	1 (0)	23 (0)	9 (0)
	法学系			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	5 (0)	1 (0)
	教育学研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
⑤他研究科合計				2 (0)	2 (0)	21 (4)	29 (6)	28 (10)	19 (0)	101 (21)	46 (12)
合計①～⑤				67 (12)	46 (9)	86 (16)	124 (33)	102 (31)	105 (38)	530 (138)	305 (85)

2) 専攻別

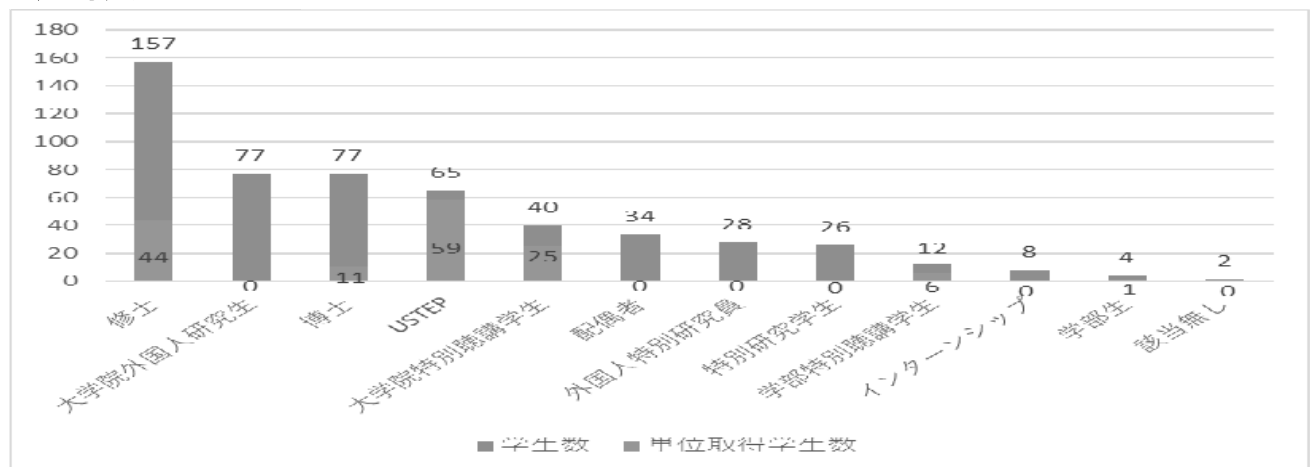


3) 国籍-レベル別

	国籍 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
1	中国	7	8	25	56	61	55	212	114
2	フランス	5	5	8	17	4	3	42	23
3	タイ	0	3	9	19	0	2	33	14
4	韓国	2	1	0	1	7	15	26	12
5	ドイツ	8	3	1	0	4	4	20	14
6	英国	3	1	0	5	4	4	17	8
7	台湾	1	1	1	6	3	4	16	11
8	オーストラリア	0	0	4	2	0	5	11	5
9	シンガポール	0	0	1	0	4	5	10	3
10	スウェーデン	1	0	5	2	1	1	10	5
11	アメリカ	0	3	6	0	0	0	9	6
12	インド	6	1	0	0	0	2	9	8
13	インドネシア	1	3	4	0	0	0	8	6
14	カナダ	1	0	2	2	3	0	8	5
15	ベトナム	2	0	4	0	2	0	8	4
16	オーストリア	2	1	1	3	0	0	7	5
17	コロンビア	1	1	2	0	3	0	7	4
18	日本	0	0	0	4	3	1	7	3
19	カザフスタン	0	0	4	1	0	0	5	1
20	フィンランド	0	1	0	3	1	0	5	2
21	イタリア	4	0	0	0	0	0	4	4
22	フィリピン	1	1	0	0	0	2	4	3
23	エジプト	0	0	3	0	0	0	3	1
24	ノルウェー	1	1	0	0	1	0	3	3
25	パキスタン	0	1	0	2	0	0	3	2
26	ハンガリー	0	3	0	0	0	0	3	3
27	バングラデシュ	2	1	0	0	0	0	3	3
28	ブラジル	0	1	0	0	1	1	3	3
29	モンゴル	0	1	2	0	0	0	3	2
30	その他	17	7	4	1	1	0	31	28
合計		65	48	86	124	103	104	530	305

* その他(実数2名)エクアドル・シリア・スイス・スペイン・ベネズエラ・マレーシア・モロッコ・ロシア(実数1名)ウクライナ・キプロス・クウェート・サウジアラビア・チュニジア・トルコ・ネパール・ペルー・ベルギー・メキシコ・リヒテンシュタイン・ルクセンブルグ・レバノン

4) 身分別



5) 4 専攻日本語教室受講者数(実数)

	初級 1A	初級 2A	初級 2B	計
社会基盤学	8	12	10	30
単位コース選択者	7	10	10	27
	初級 I	初級 II	中級	計
都市工学	7	4	2	13
単位コース選択者	1	0	2	3
	中級 I	計		
システム創成系	9	9		
単位コース選択者	0	0		
	中級	個別指導	計	
IME	5	—	5	個別指導は人数が書けないため「—」と表示

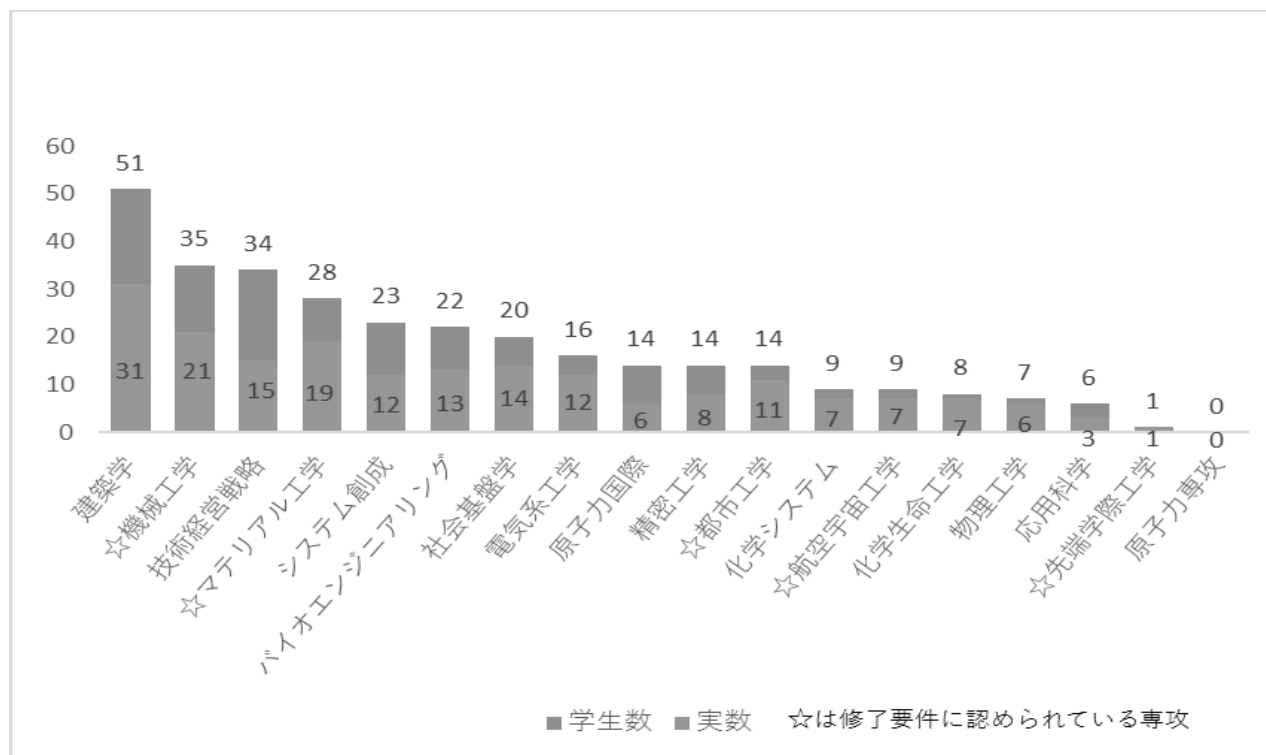
1. 2017 年度 S1S2 工学系日本語教室修了者数

1) 研究科別-レベル別

(単位：名)

研究科		レベル		初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科				30 (4)	8 (2)	20 (3)	27 (8)	13 (2)	12 (3)	110 (22)	82 (18)
②情報理工学系				3 (2)	7 (4)	3 (1)	12 (7)	5 (5)	5 (5)	35 (24)	23 (17)
③新領域創成科学研究科				0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (1)
④全学交換留学生				7 (4)	2 (2)	6 (6)	12 (12)	14 (14)	19 (16)	60 (54)	28 (24)
⑤ 他 研 究 科	経済学研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	4 (3)	0 (0)	7 (6)	5 (4)
	情報学環・学際情報学府			0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)
	理学系研究科			0 (0)	0 (0)	3 (3)	2 (1)	4 (0)	0 (0)	9 (4)	4 (2)
	医学系研究科			0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
	生産技術研究所			0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	1 (0)
	農学生命科学研究科			0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	5 (4)	4 (4)
	地震研究所			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	総合文化研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	人文社会系研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
	公共政策 大学院			1 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (0)
	法学系研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	教育学研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	④計			1 (0)	0 (0)	8 (4)	12 (4)	12 (6)	1 (0)	34 (14)	20 (10)
合計①～⑤				41 (10)	17 (8)	37 (14)	63 (31)	45 (28)	38 (25)	241 (116)	155 (70)

2) 専攻別

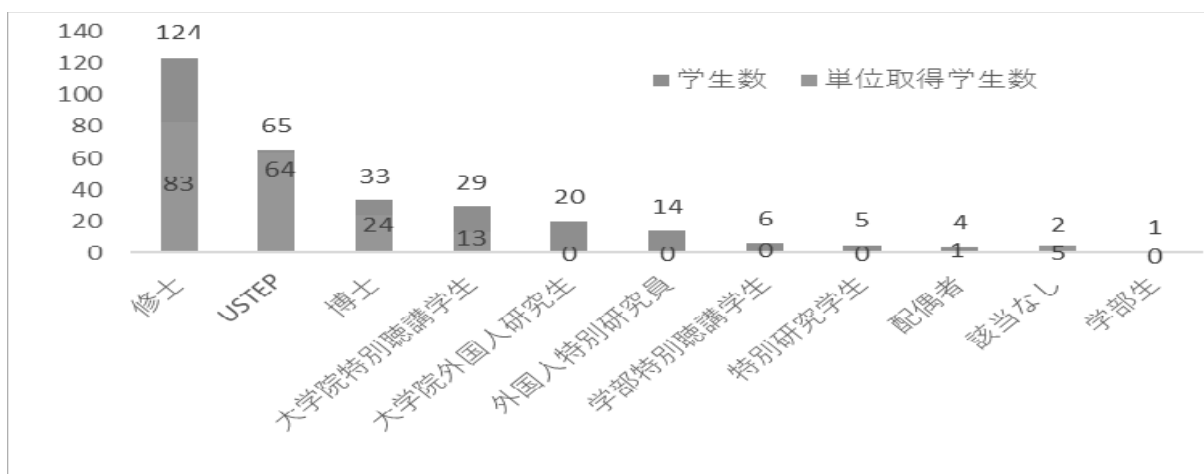


3) 国籍-レベル別

	国籍 \ レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級	延べ合計	実数合計
1	中国	5	1	9	20	26	26	87	52
2	フランス	1	2	1	11	4	0	19	9
3	タイ	0	0	8	7	0	0	15	9
4	ドイツ	6	2	1	0	4	0	13	10
5	スウェーデン	1	0	5	2	1	1	10	5
6	台湾	1	0	1	6	2	0	10	6
7	英国	2	1	0	0	3	3	9	5
8	インド	5	0	0	0	0	2	7	6
9	韓国	2	0	0	1	0	4	7	5
10	オーストラリア	0	0	2	2	0	1	5	4
11	オーストリア	0	1	1	3	0	0	5	3
12	フィンランド	0	1	0	3	1	0	5	2
13	日本	0	0	0	4	1	0	5	2
14	イタリア	4	0	0	0	0	0	4	4
15	カナダ	0	0	1	2	1	0	4	3
16	ベトナム	1	0	3	0	0	0	4	2
17	パキスタン	0	1	0	2	0	0	3	2
18	アメリカ	1	0	1	0	0	0	2	2
19	エジプト	0	0	2	0	0	0	2	1
20	コロンビア	1	1	0	0	0	0	2	2
21	シンガポール	0	0	0	0	2	0	2	1
22	ハンガリー	0	2	0	0	0	0	2	2
23	バングラデシュ	2	0	0	0	0	0	2	2
24	ブラジル	0	1	0	0	0	1	2	2
25	ベネズエラ	0	0	2	0	0	0	2	1
26	その他	9	4	0	0	0	0	13	13
合計		41	17	37	63	45	38	241	155

その他(延べ1名): インドネシア・キプロス・クウェート・スイス・チュニジア・ノルウェー・フィリピン・ベルギー・モロッコ・リヒテンシュタイン・ルクセンブルグ・レバノン・ロシア

4) 身分別



5) 4 専攻日本語教室修了者数(実数)

	初級ⅠA	初級ⅠB	初級Ⅱ	計
社会基盤学	13	9	10	32
単位コース選択者	13	9	8	30
	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	計
都市工学	5	4	2	11
単位コース選択者	1	0	2	3
	中級Ⅰ	計		
システム創成系	8	8		
単位コース選択者	0	0		
	中級	個別指導	計	
IME	4	—	4	

個別指導は人数が書けないため「—」と表示

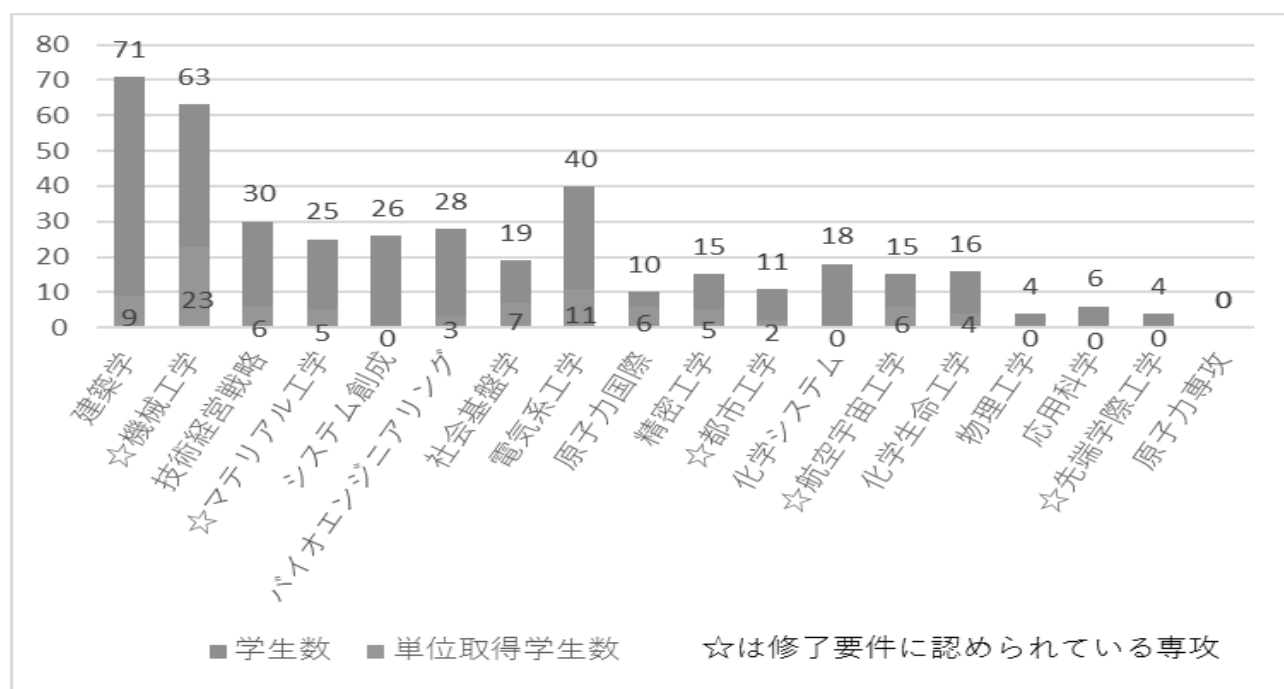
1. 2017 年度 A1A2 工学系日本語教室受講者数

1) 研究科別-レベル別

(単位：名)

研究科	レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		71 (20)	40 (1)	86 (19)	64 (11)	49 (8)	91 (28)	401 (87)	263 (63)
②情報理工学系		11 (5)	2 (1)	3 (1)	16 (7)	9 (0)	10 (4)	51 (18)	31 (12)
③新領域創成科学研究科		0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	2 (2)
④全学交換留学生		19 (13)	4 (3)	14 (14)	3 (3)	4 (4)	26 (26)	70 (63)	43 (36)
⑤他研究科	経済学研究科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (4)	2 (1)	6 (5)	15 (11)	10 (8)
	情報学環・学際情報学府	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	5 (0)	4 (0)
	理学系研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	3 (0)	6 (1)	4 (1)
	医学系研究科	0 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (1)	4 (0)	0 (0)	11 (1)	5 (1)
	生産技術研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	8 (0)	2 (0)
	農学生命科学研究科	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	6 (0)	1 (0)	11 (3)	7 (2)
	地震研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	総合文化研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	人文社会系研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	公共政策 大学院	5 (3)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (2)	3 (2)	21 (7)	14 (7)
	法学系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)
	教育学研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)
	⑤計	7 (4)	3 (0)	6 (1)	20 (8)	24 (3)	22 (7)	82 (23)	49 (19)
合計①～⑤		108 (42)	49 (5)	110 (36)	103 (29)	87 (16)	149 (65)	606 (193)	388 (132)

2) 専攻別

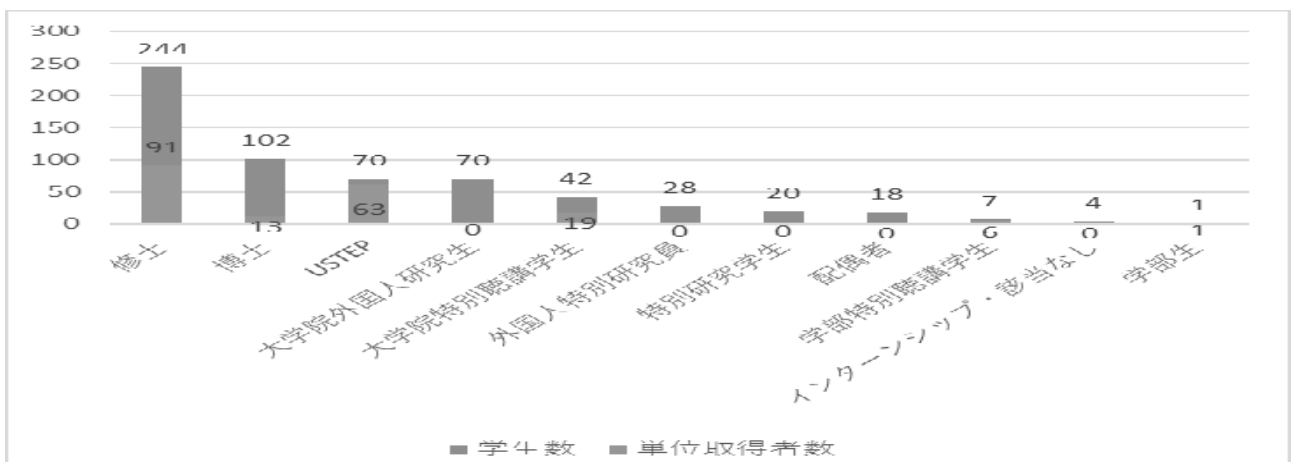


3) 国籍-レベル別

	国籍	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
1	中国	32	13	55	61	49	112	322	193
2	台湾	3	3	6	3	9	7	31	20
3	タイ	3	2	1	10	10	0	26	16
4	フランス	8	2	5	1	9	0	25	16
5	ドイツ	7	2	6	7	0	0	22	14
6	韓国	2	0	3	1	0	11	17	9
7	アメリカ	1	0	8	2	4	0	15	9
8	インド	8	2	0	0	1	2	13	11
9	カナダ	1	1	4	3	0	3	12	7
10	インドネシア	6	2	1	0	0	0	9	9
11	イタリア	5	1	2	0	0	0	8	7
12	英国	2	4	0	0	0	2	8	8
13	ベトナム	1	1	0	5	1	0	8	4
14	スイス	3	1	3	0	0	0	7	5
15	シンガポール	2	0	1	0	0	3	6	4
16	スウェーデン	5	1	0	0	0	0	6	6
17	日本	0	0	0	0	0	6	6	3
18	ノルウェー	3	2	0	0	0	0	5	5
19	オーストラリア	0	0	0	1	0	3	4	2
20	バングラデシュ	1	3	0	0	0	0	4	4
21	ブラジル	1	0	3	0	0	0	4	2
22	ペルー	0	0	4	0	0	0	4	1
23	マレーシア	3	1	0	0	0	0	4	4
24	ブルガリア	0	0	0	4	0	0	4	1
25	イラン	0	1	0	0	2	0	3	2
26	エクアドル	0	0	3	0	0	0	3	1
27	シリア	0	0	0	2	1	0	3	1
28	その他	11	7	5	3	1	0	27	24
合計		108	49	110	103	87	149	606	388

その他：(延べ2名)ウズベキスタン・エジプト・パキスタン・メキシコ・モンゴル・アイルランド・デンマーク・ヨルダン(延べ1名)オーストリア・コロンビア・チュニジア・フィリピン・ベネズエラ・ベルギー・モロッコ・ロシア・トルクメニスタン・ポーランド・チリ

4) 身分別



5) 4 専攻日本語教室受講者数(実数)

	初級 1A	初級 1B	初級 2	計
社会基盤学	13	13	6	32
単位コース選択者	12	13	5	30
	初級 I	初級 II	中級	計
都市工学	20	3	5	28
単位コース選択者	12	0	3	15
	初級	中級 I	計	
システム創成系	9	14	23	
単位コース選択者	1	4	5	
	初中級	個別指導	計	
IME	2	—		個別指導は人数が書けないため「—」と表示

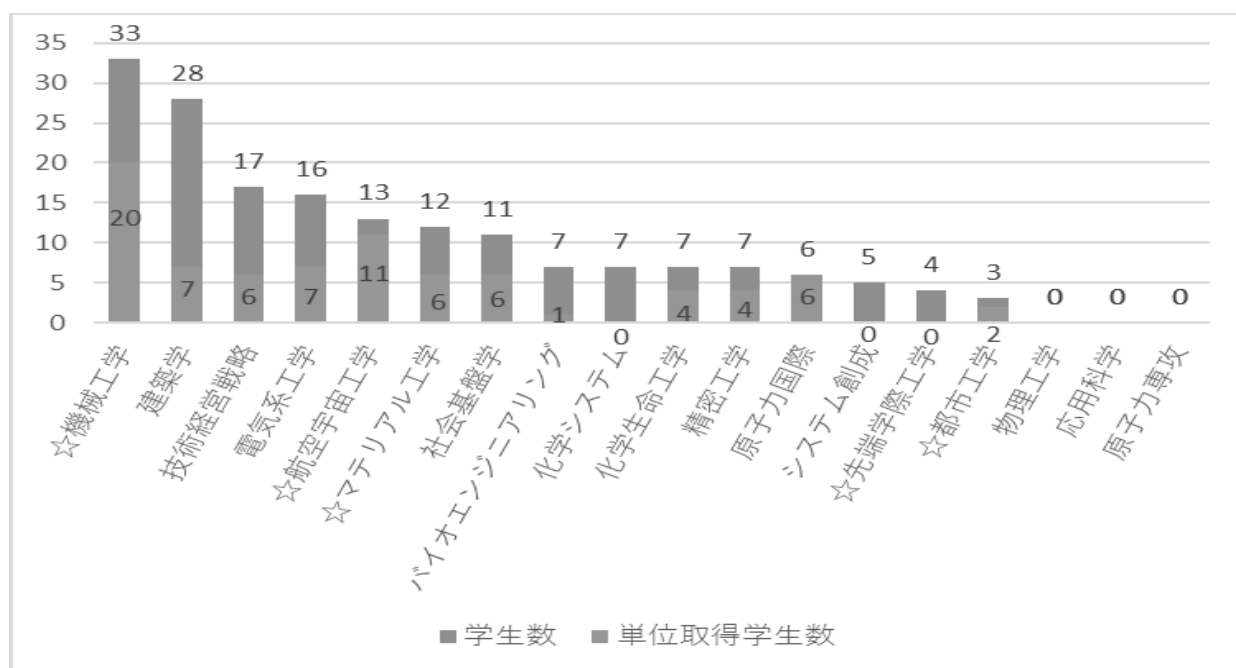
1. 2017 年度 A1A2 工学系日本語教室修了者数

1) 研究科別-レベル別

(単位：名)

研究科		レベル		初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科				37 (23)	16 (3)	33 (15)	34 (10)	25 (8)	31 (21)	176 (80)	127 (59)
②情報理工学系				9 (8)	1 (1)	1 (1)	9 (7)	0 (0)	4 (4)	24 (21)	17 (15)
③新領域創成科学研究科				0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	2 (2)
④全学交換留学生				15 (15)	4 (3)	12 (12)	3 (3)	4 (4)	27 (27)	65 (64)	39 (38)
⑤ 他 研 究 科	経済学研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (3)	0 (0)	4 (4)	8 (7)	6 (5)
	情報学環・学際情報学府			0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)
	理学系研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	2 (2)
	医学系研究科			0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	3 (0)	0 (0)	6 (1)	4 (1)
	生産技術研究所			1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
	農学生命科学研究科			1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (3)	3 (2)
	地震研究所			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	総合文化研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	人文社会系研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	公共政策 大学院			4 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (4)	2 (2)	11 (9)	9 (7)
	法学系			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	教育学研究科			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	⑤計			6 (4)	1 (0)	0 (0)	12 (7)	10 (5)	6 (6)	35 (22)	27 (17)
合計①～⑤				67 (50)	22 (7)	47 (29)	59 (28)	40 (18)	68 (58)	303 (190)	212 (131)

2) 専攻別

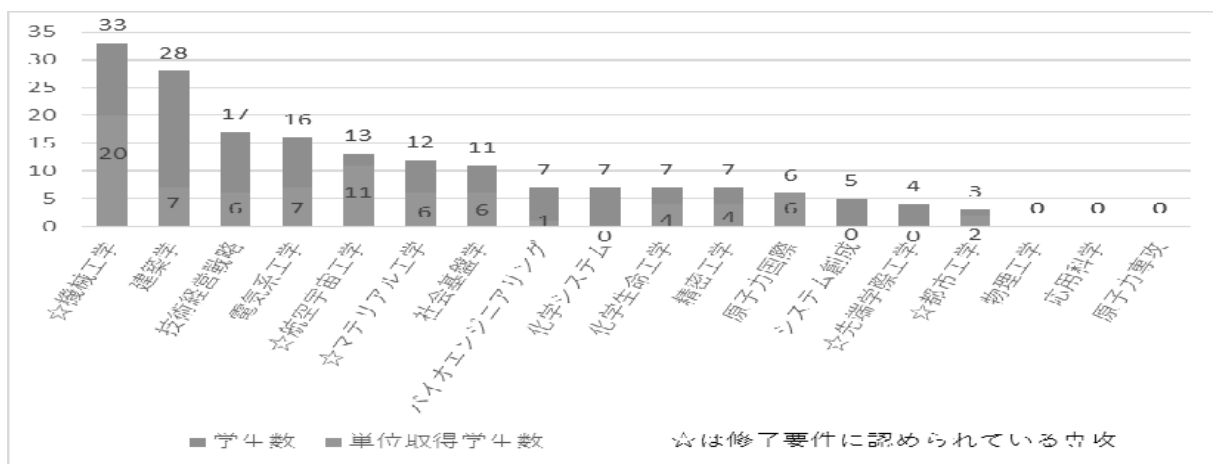


3) 国籍-レベル別

国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
1 中国		17	2	19	37	23	40	138	92
2 台湾		2	3	6	1	3	5	20	12
3 ドイツ		4	1	6	6	0	0	17	9
4 タイ		2	1	0	4	7	0	14	9
5 韓国		2	0	0	0	0	11	13	7
6 フランス		6	1	0	1	4	0	12	11
7 英国		2	4	0	0	0	1	7	7
8 アメリカ		0	0	4	1	1	0	6	3
9 インド		4	0	0	0	0	2	6	5
10 日本		0	0	0	0	0	6	6	3
11 カナダ		1	0	2	2	0	0	5	4
12 インドネシア		3	0	1	0	0	0	4	4
13 オーストラリア		0	0	0	1	0	3	4	2
14 スイス		2	1	1	0	0	0	4	4
15 スウェーデン		3	1	0	0	0	0	4	4
16 ブラジル		1	0	3	0	0	0	4	2
17 ブルガリア		0	0	0	4	0	0	4	1
18 ノルウェー		1	2	0	0	0	0	3	3
19 マレーシア		2	1	0	0	0	0	3	3
20 アイルランド		2	0	0	0	0	0	2	2
21 イタリア		2	0	0	0	0	0	2	2
22 エクアドル		0	0	2	0	0	0	2	1
23 シンガポール		2	0	0	0	0	0	2	2
24 バングラデシュ		0	2	0	0	0	0	2	2
25 ベトナム		0	0	0	2	0	0	2	2
26 ペルー		0	0	2	0	0	0	2	1
27 メキシコ		1	1	0	0	0	0	2	2
28 ヨルダン		2	0	0	0	0	0	2	2
29 その他		6	2	1	0	2	0	11	11
合計		67	22	47	59	40	68	303	212

その他(延べ1名): オーストリア・シリア・チュニジア・チリ・デンマーク・パキスタン・フィリピン・ベネズエラ・ベルギー・モロッコ・ベラルーシ

4) 身分別



5) 4 専攻日本語教室修了者数(実数)

	初級 2A	初級 1A	初級 1B	計
社会基盤学	13	13	6	32
単位コース選択者	12	13	5	30
	初級 I	初級 II	中級	計
都市工学	15	2	5	22
単位コース選択者	9	0	3	12
	初級	中級 II	計	
システム創成系	7	10	17	
単位コース選択者	0	3	3	
	中級	個別指導	計	
IME	2	—		個別指導は人数が書けないため「—」と表示

Can Do Statements (読む・書く)

東京大学工学系研究科日本語教室

<記入日>

年

月

日

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。
(0:できない 1:少しできる 2:よくできる)

聞く		話す	
1	相手の名前・専攻・研究室が聞いてわかる	1	あいさつができる
2	物の値段が聞いてわかる	2	名前・出身地・専攻・研究室名を言うことができる
3	日常生活や大学で使う物の名前が聞いてわかる	3	今日の予定や昨日したことを言うことができる
4	ゼミやミーティングの日程や時間が聞いてわかる	4	自己紹介をした後の質問に答えられる
5	物や建物の場所が聞いてわかる	5	物や建物の場所を聞くことができる
6	電車の行き先や乗り換えが聞いてわかる	6	日常生活・家族について話すことができる
7	友達に誘われた時、聞いてわかる	7	友だちを誘ったり、誘われた時の返事ができる
8	時間や場所を問い合わせた時、答えが聞いてわかる	8	大学の窓口で質問ができる
9	大学の窓口で必要な説明が聞いてわかる	9	遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる
10	駅や空港のアナウンスで必要なことが聞いてわかる	10	自分の部屋や研究室、町の描写ができる
11	身近な話題に関する意見が聞いてわかる	11	身の回りの変化について話すことができる
12	身近な人からの電話の用件が聞いてわかる	12	自分の仕事・専門・趣味について説明できる
13	日常的な話題において出された提案が聞いてわかる	13	研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる
14	緊急放送・地震訓練放送などが聞いてわかる	14	図や表の説明ができる
15	天気予報が聞いてわかる	15	自己紹介の場で敬語が使える
16	電話の録音メッセージが聞いてわかる	16	授業で先生に質問ができる
17	研究室・クラブ活動での指示・説明が聞いてわかる	17	実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる
18	大学の教職員の事務的な説明が聞いてわかる	18	友達や教員にアドバイスを求めることができる
19	専門的なプレゼンテーションの要点がわかる	19	研究室の人や友達と雑談ができる
20	研究室のミーティングの内容が聞いてわかる	20	ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる
21	アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる	21	研究計画などを論理的に話すことができる
22	専門の授業全体の流れが聞いてわかる	22	大学の教職員に質問したり、説明することができる
23	研究に関する指導教員のコメントが聞いてわかる	23	ゼミで発表することができる
24	テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる	24	ニュースの要旨を話すことができる
25	ゼミの発表が聞いてわかる	25	講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる
26	ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる	26	初対面の人と雑談することができる
27	就職などの面接で質問されたことがわかる	27	就職などの面接で質問に適切に答えることができる
28	歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる	28	歓迎会など公式の場でスピーチができる
29	学会での発表や講演がわかる	29	学会でのディスカッションで意見が言える
30	学会でのディスカッションが聞いてわかる	30	会議や打ち合わせで意見をまとめたためた司会ができる

Can Do Statements (話す・聞く)

東京大学工学系研究科日本語教室

<記入日>

年

月

日

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。
(0:できない 1:少しできる 2:よくできる)

読む		書く	
1	ひらがなを読むことができる	1	ひらがなを書くことができる
2	日本語で書かれた自分の名前がわかる	2	自分の名前をカタカナで書くことができる
3	ひらがなとカタカナのメニューがわかる	3	今日のスケジュールを書くことができる
4	日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる	4	自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる
5	日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる	5	自宅と大学の住所を漢字で書くことができる
6	スケジュール変更のお知らせがわかる	6	自分の国や自分の紹介を書くことができる
7	駅や食堂の券売機の表示画面がわかる	7	簡単なメッセージのメモを書くことができる
8	研究室・実験室の注意書きがわかる	8	趣味や得意なことについて書くことができる
9	駅・銀行、大学の案内表示がわかる	9	自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる
10	カード・はがきが読んでわかる	10	カード・はがきなどを書くことができる
11	広告・チラシがわかる	11	日本語で日記を書くことができる
12	友達からのテキストメッセージが読んでわかる	12	友達にテキストメッセージを書くことができる
13	自分の専門分野の論文・専門書の題名・履修科目名がわかる	13	打ち合わせで、メモを書きとることができる
14	易しい科学技術／専門の文章がわかる	14	履歴書を書くことができる
15	事務からの書類が読んでわかる	15	事務的な書類に必要なことを記入することができる
16	身近な人からの電子メールが読んでわかる	16	お礼の手紙を手書きで書くことができる
17	公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる	17	奨学金の申請書類に記入することができる
18	漫画のストーリーがわかる	18	身近な人に電子メールを書くことができる
19	板書が見てわかる	19	講義を聞いて、ノートをとることができる
20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)がわかる	20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)を書くことができる
21	論文の要旨が読んでわかる	21	推薦状の依頼書を書くことができる
22	大学内の掲示板が見てわかる	22	論文の要旨を書くことができる
23	専門に関する資料の内容がわかる	23	研究計画書を書くことができる
24	ニュースレター・メールマガジンが読める	24	授業のレポートを書くことができる
25	映画やテレビなどの字幕が見てわかる	25	プレゼンの発表原稿を書くことができる
26	研究会や会議の報告書が読める	26	状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる
27	パソコンや携帯電話の説明書(マニュアル)がわかる	27	就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる
28	WEBサイトや会社案内の情報がわかる	28	研究会や会議の報告書を書くことができる
29	論文・専門書が読んでわかる	29	研究費の申請書を書くことができる
30	一般新聞・雑誌・書籍が読んでわかる	30	論文が書ける

138

2017 言語背景調査 Language Background Questionnaire

1. 専攻：
2. 身分：☐研究生 ☐修士 ☐博士 ☐研究員 ☐交換留学生 ☐USTEP ☐学部生 ☐配偶者 ☐その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく教えてください。
4. 母語
5. 日本にどのくらい滞在する予定ですか。
☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
6. 日本語学習歴(自国)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
7. 日本語学習歴(日本)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
8. 現在取っている科目のレベル
☐入門 ☐インテンシブ初級Ⅰ ☐初級1 ☐初級2 ☐インテンシブ初級Ⅱ ☐初級3 ☐初級4 ☐中級1 ☐中級2
☐中級3 ☐上級
9. 研究室内で指導教員と話す時、あなたは主に何語を使いますか。①研究についての会話
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
10. 研究室内で指導教員と話す時、あなたは主に何語を使いますか。②雑談
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
11. 研究室内で日本人学生と話す時、あなたは何語を使いますか。①研究についての会話
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
12. 研究室内で日本人学生と話す時、あなたは何語を使いますか。②雑談
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
13. 研究室で留学生同士で話す時、あなたは何語を使いますか。①研究についての会話
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
14. 研究室で留学生同士で話す時、あなたは何語を使いますか。②雑談
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
15. 研究室での次の活動や文書には、主に何語が使われていますか。①研究発表
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
16. 研究室での次の活動や文書には、主に何語が使われていますか。②打ち合わせ
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
17. 研究室での次の活動や文書には、主に何語が使われていますか。③研究に関する資料
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
18. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
☐全く求めている ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級
19. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
☐全く目指していない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級
20. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。自由に書いてください。
21. 大学の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
22. 21の答えが3,4の場合、どんな場面があるか、具体的に書いてください。
23. 大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
24. 21の答えが3,4の場合、どんな場面があるか、具体的に書いてください。

2017 年度 A1A2 学期コース Japanese Language Class Questionnaire 評価

このアンケートは、日本語プログラム／クラスの評価のためのものです。回答は教育研究の目的で使用される可能性があります。個人が特定される情報は公開しません。ご協力ありがとうございます。

1. 身分：

2. コースの目的は明確だった。

全く思わない あまり思わない 少しそう思う 非常にそう思う
1 2 3 4

3. 授業のスピードは適切だった。

1 2 3 4

4. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか

全く予習・復習しなかった 1時間未満 1～2時間 2～3時間 3～5時間 5時間以上
1 2 3 4 5 6

5. 担当教員は熱意を持って
授業を行っていたと思いますか

全く熱意がなかった 熱意がなかった 普通 熱意があった 非常に熱意があった
1 2 3 4 5

6. 講義内容は分かりやすいものでしたか

非常に分かりにくい 分かりにくい 普通 分かりやすい 非常に分かりやすい
1 2 3 4 5

7. あなたはこの授業に興味を持ち学習意
欲が高まりましたか

全く興味が持てず意欲も あまり興味も持てず 普通 興味を持ち 非常に興味を持ち
高まらなかった 意欲も高まらなかった 意欲も高まった 意欲も高まった
1 2 3 4 5

8. この授業は、あなたにとって将来役に立つと思いませんか。

全く将来役に立つと あまり将来役に立つと どちらともいえない 将来役に立つと 非常に将来役に立つと
思わない 思わない 思う 思う
1 2 3 4 5

9. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。

10. このコースについて自由にコメントして下さい。(教室、受講者数、テスト、宿題、試験など)

11. ボランティアの学生が授業にいた人は、以下の質問に答えて下さい。

全く思わない あまり思わない 少しそう思う 非常にそう思う
1 2 3 4

12. 選択記述

質問 11 で答えた内容について、どんな点でそう思うか教えてください。

13. プレイスメントテストの結果、
適切なレベルのコースを履修することができた。

全く思わない あまり思わない 少しそう思う 非常にそう思う
1 2 3 4

14. プレイスメントテストに関するコメントがあったら
書いてください。(説明、テスト時間など)

根津神社

つつじまつい

Azalea Festival in Nezu Shrine

日時: 4月29日(水) 2限目

Date : April 29 (Wed) 2nd period
April 30 (Thurs) 2nd period

場所: 根津神社(徒歩20分)

Venue : Nezu shrine (20 minutes by walking)

根津神社は今から1900年以上の昔に建てられた古い神社です。境内には約100種類、3000株のつつじが咲いています。皆さん、鮮やかなつつじを見に行きませんか。

Nezu shrine is an old shrine built in old days more than 1,900 year now. Approximately 100 kinds, 3,000 azaleas bloom in the precincts.

Shall we go to watch the azalea which is bright?



茶道体験 Tea Ceremony Lesson

We are going to have the tea ceremony lessons.

Let's make a cup of traditional Japanese green tea!

・日時: 6月5日(月)~6月9日(金)

*水曜日は除く

10:20~13:30~ (約20分間)

・場所: 日本語教室 (128B)

・Date: 5th June(Mon) – 9th June (Fri)

*Except Wednesday

10:20-/13:30- (About 20 minutes)

・Place: Japanese Language Class office (128B)

The application is not necessary.



いけばな WORKSHOP

JAPANESE FLOWER ARRANGEMENT WORKSHOP

みなさん、一葉式のお花の先生と一緒にいけばなをしてみませんか？日本の伝統的な「いけばな」を、楽しく体験してみましよう。STAR システムから申し込みしてください。

- ・日時：5月24日(水)13:00~14:30
- ・会場：工学部8号館1階132教室
- ・参加費用(お花代)：500円(5月17日16時までに支払い)
- ・持ち物：マグカップ(花瓶として使います)

Would you like to try ikebana (Japanese flower arrangement)? If you are interested in attending the workshop, please sign up through the STAR system.

- ・Date：Wednesday, May 24th 13:00~14:30
- ・Venue：Engineering Bldg 8, classroom#132
- ・Participation Fee：500 yen (Please pay the fee at the JLC office by 16:00 on May 17th)
- ・What to bring：Mug cup (container for your arrangement)

*Please note that your reservation will not be secured until your payment is complete.

SUMO RIKISHIES are coming to JLC!



Wed. June 14th
13:00-14:30
Eng. Bldg. 8 #88L

No reservation needed.
A must-see!



ゆかた^きを着てみよう! YUKATA WORKSHOP

日本の伝統的な夏の服、浴衣を知っていますか？浴衣の着方を習ってみましょう！参加希望者は STAR システムを使って登録してください。先着順です。

We are having a workshop where you can learn how to wear yukata (traditional Japanese summer clothing). After the workshop, we're sure that you can wear yukata by yourself! Please register using our STAR system. We accept the first 31 students! (15 for male and 16 for female)

日時：6月28日(水) 13:00~14:30

場所：工学部8号館1階 132教室

Time: June. 28th (Wednesday). 13:00 ~ 14:30

Place: Building#8, Room 132



七夕~たなぼた The Star Festival ☆

Long long ago, a God in the heavens had a daughter named Orihime. She wove cloth every day for the God using a loom called a *tanzabata*.

The God was anxious about his daughter working too hard, so one day he introduced her to Kengyuu (which means "cowherd," the star Altair), who also worked hard taking care of cows. They fell in love at first sight and they forgot about their work, letting the cloths for the God go to waste and leaving the cows to become ill.

This made the God angry, and he forced them to live apart, separated by *Ama no Kawa* (River in Heaven, the Milky Way). Orihime wept all day long. The God pitied her and allowed the two to meet once a year on the night of the 7th of July.

If it rains on this occasion, the River of Heaven is flooded and the couple are prevented from meeting. Therefore, people pray for it not to rain on this day, dedicating *tanzaku* (a strip of poetry paper) to the stars in various colors. People write their wishes (including their own personal wishes) on the *tanzaku* and hang them on leafy bamboo.

たんざく
短冊に願いことを書きましょう。

If you write a wish on *tanzaku* and hang it on a branch of bamboo grass, your wish might come true.



湯島天神 菊まつり 11月1日、2日、6日

Chrysanthemum Festival in Yushima Shrine

湯島天神で菊祭りが開催されます。日本に菊は約350種類あり、江戸時代前期から菊の品評会が行われていました。11月1日、2日、6日に、クラスのみなさんと一緒に菊まつりに行きましょう。

Chrysanthemum festival is held in Yushima shrine.

There are 350 kinds of chrysanthemums in Japan, and people enjoy Chrysanthemum festival from early 17th century.

We are planning to visit Yushima shrine on Nov. 1st, 2nd and 6th. If you are interested, please join us!

Nov. 1st (Wed) : ①12nd Period- ②13:00-

Nov. 2nd (Thurs) : ①2nd Period- ②4th Period-

Nov. 6th (Mon) : ①2nd Period- ②13:00-



いけばな デモンストレーション

Japanese Flower Arrangement

一葉式の家元をお招きしいけばなデモンストレーションをします。
皆さんぜひ見に来てください。
お友達もぜひどうぞ！

No reservation needed!

日時: 11月8日(水) 13:00~14:30

場所: 工学部8号館1階 132教室

Have you ever seen IKEBANA, Japanese traditional flower arrangement?

IKEBANA Headmaster of Ichijo School is coming to JLC.

Please come and join us!

You can bring your friends.

Time: Nov. 8th (Wed) 13:00~14:30

Place: Engineer Bldg #8, 1F, Room 132



着物を着てみましょう！

Let's wear kimono!

みなさんは着物を着ることがありますか？

日本の伝統的な衣装である着物を着てみましょう！

男性20名、女性23名の募集を受けつけます。

まだ日本語教室で着物を着たことが無い学生が優先です。
日本語教室ホームページSTARシステムから申し込みを
してください。



Have you ever worn Kimono, traditional Japanese clothing?

We are going to have a kimono wearing session.

Accepting the 20 male students and the 23 female students.
Students who have never worn Kimono at JLCSE
are first priority.

Please register through STAR system at JLCSE homepage.

日時：12月6日（水）13:00～14:30

Date : Dec. 6th (Wed) 13:00 ~ 14:30

会場：工学部8号館1階132教室

Place : Engineer Bldg#8, 1F, Room132



茶道体験 Tea Ceremony Lesson

We are going to have the tea ceremony lessons.
Let's make a cup of traditional Japanese green
tea!

Date : 13th December (Wednesday)

・13:00 - 1st session

・13:30 - 2nd session

Venue : Room 132 (1st floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system
on the first come first served basis.
Reservation through e-mail will not be accepted.





VISITOR SESSION & JAPANESE CULTURES

Have you ever felt like this before?

- I am shy about using Japanese with my friends or with the people around me.
- I cannot find chances to use Japanese that I have learned.
- I want the chance to think about and use Japanese at my own pace without being in a hurry.

You can do at our Visitor Session

- ☺ Talk about any topic you like in Japanese.
- ☺ Ask knowledgeable senior volunteers about the Japanese language or culture.
- ☺ Talk at your own pace in a small group (2-3 people).

Register at the STAR website, or just drop in at Rm.88L.

Date: Oct.11,18,25 Nov. 1,8,22,29 Dec. 6,13 Jan. 10

13:00-14:30 on Wed.

Place: Engineering Bldg. #8, Rm.88L

Details: <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

Japanese Language Class, School of Engineering



しるこ お汁粉を食べよう! Let's try OSHIRUKO! (Sweet bean soup)

日時: 1月9日(火)~1月12日(金)

Date: Jan. 9th (Tues)~Jan. 12th (Fri)

場所: 日本語教室

Place: Japanese Language Class office

みなさんは「おしるこ」を知っていますか?
お汁粉は、お正月に神様や仏様にお供えた餅(鏡餅)を焼いて、
甘く煮た小豆汁の中に入れた、正月の代表的な食べ物の一つです。
おいしいですよ。

Do you know "oshiruko"?

It's a traditional new year's sweet in Japan. Basically, it's a bowl of sweet bean soup with grilled rice cakes which had been offered to the god.

Try oshiruko.

It will show you another sweet world.





International Cafe for You

Come and meet new friends!

Anyone at U-Tokyo is welcome



Free coffee & tea

Bring your own lunch

You can talk in
any language



Day & Time: 12:10~13:10 Every Thursdays, Apr. 20, ~Jul. 20, 2017

Venue: Engineering Building #11 2F (Above Starbucks)

Organizer: Japanese Language Class, School of Engineering

E-mail: nihongo@jlcase.t.u-tokyo.ac.jp

Contact: Japanese Language Class, School of Engineering

E-mail: nihongo@jlcase.t.u-tokyo.ac.jp ☎03-5841-8826



お問い合わせ：東京大学大学院工学系研究科日本語教室
しゆまい、とやまようだい、がくたい、がくいん、こうがくけいけん、せうりやうみ、にほんご、せうりやうみ



International Cafe For You

iCafe は国際交流カフェです

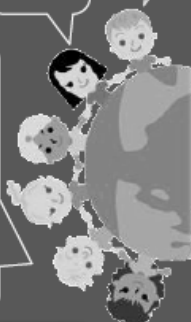
東大で学ぶ方・働く方はどなたでも歓迎です
お昼休みに気軽にしゃべりませんか



友達もできて
楽しいよ！

Hallo Welt!
Hej Värld!
Ciao Mondo
ハローワールド！
¡Hola mundo!
世界您好！
Salut le Monde!

英語・日本語
何語でも OK



Free coffee & Tea

期間：2017年10月5日(木)～2018年1月18日(木)
(12月28日及び1月4日は除く)

日時：毎週木曜日 12時10分から13時10分

場所：工学部 11号館 2階(スターバックスの上)

12:10~13:10 Every Thursdays, Oct. 5~Jan. 18 (except Dec. 28 and Jan. 4) at Engineer Bldg. #11 2F

主催：東京大学大学院工学系研究科日本語教室
しゆまい、とやまようだい、がくたい、がくいん、こうがくけいけん、せうりやうみ、にほんご、せうりやうみ

Organizer: Japanese Language Class, School of Engineering

連絡先(Contact): ☎03-5841-8826 ■ nihongo@jlcase.t.u-tokyo.ac.jp



Shiratama
白玉

hosted by ICYou

しらたま
みんなで楽しく白玉を食べましょう

Let's eat Japanese sweets "Shiratama" together!

日時: 2017年6月1日(木) 12:10~13:10

場所: 工学部 11号館 2階(スターバックスの上)

Date & Time: Thursday, June 1, 2017 From 12:10 to 13:10

Venus Engineering Bldg. #11, 2nd FL (Above Starbucks)



ICYou は、工学系日本語教室が主催する、

日本人学生と留学生の交流の場です。

東大で学ぶ方、staffの方はどなたでも歓迎です。

ICYou provides a chance to meet people from across campus, and exchange conversation and ideas.

Any U-Tokyo students & staff are welcomed!

お問い合わせ: 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 03-5841-8826

Japanese Language Class, School of Engineering

E-mail: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

ICYou

夏
力
フ
工

Summer Cafe

東大で学ぶ方は どなたでも歓迎です!

All the students studying at U-Tokyo are welcome!

スイカと水ヨーヨーで 日本の夏を楽しみましょう!

Let's have fun with watermelon and water yo-yo!

日時: 7月20日(木)

12:10-13:10

Date: Thursday, July 20th

Time: 12:10-13:10

場所: 工学部 11号館 2F

Venus Engineering Bldg. #11 2F

お問い合わせ: 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 03-5841-8826

Contact: Japanese Language Class, School of Engineering

E-mail: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

ICYou presents

おやつCafe

Snacks

Let's talk with
your friends over snacks!

みんなでおやつを食べながら

おしゃべりしましょう！

Drinks: Only cold water will be served on the day

日時：11月30日 木曜日
12:10-13:10

Date & Time: Thursday, November 30
12:10-13:10

場所：工学部 11 号館 2 階

Venue: Engineering Bldg.11
2nd FL (Above Starbucks)

主催：工学系研究科日本語教室

Organizer: Japanese Language Class, School of Engineering

連絡先(Contact): ☎ 03-5841-8826 ✉ nihongo@jcsa.tu-tokyo.ac.jp

日本語教室で

授業ボランティアを

しませんか？

工学系研究科日本語教室では、留学生や研究生への日本語教育支援をする学生授業ボランティアを募集しています。様々な国の学生と交流を深めたい、言語を教えることに興味がある皆さんの積極的な参加をお待ちしています！

活動内容

入門から上級の日本語コースボランティアとして参加し、グループワークや会話・ディスカッションのサポートをします。

お問い合わせ：

工学系研究科日本語教室
工学部 8 号館 128B 教室
TEL: 03-5841-8826

E-mail Address:

nihongo@jcsa.tu-tokyo.ac.jp

主催

東京大学大学院

工学系研究科日本語教室

活動期間

2017 年 4 月 13 日
～2017 年 7 月 25 日
(2017 年度 SIS2 学期)

活動場所

工学部 8 号館 1 階及び 2 階教室

活動頻度

週一コマ(105 分)～

募集人数

30 名程度



日本語教室

日本語教室

日本語教室

日本語教室

日本語教室

執筆・編集者

准教授	古市	由美子
特任准教授	岩田	夏穂
特任助教	栗田	奈美
	堀切	友紀子
事務補佐員	辻野	伊都子
	早坂	美和子

執筆者

非常勤講師	臼井	直也
	内田	あゆみ
	片岡	さゆり
	米谷	章子
	鈴木	恵理
	中村	亜美
	ハワード	文江
	宮瀬	真理
	山口	真紀

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 報告書 2017 年度

発行 日：2018 年 3 月 31 日

編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構
国際事業推進センター 日本語教育部門

発行責任者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

E-mail : nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

電話 : 03-5841-8826 FAX : 03-5800-2436

<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
